ONKYO®

AV センター

TX-SA604

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切に保管してください。

主な特長

■ 各種サラウンド方式に対応した7.1チャンネルアンプ
■ ドルビー*[1]デジタル、ドルビープロロジックII、ドルビープロロジックIIx、ドルビーデジタルEXサラウンド再生可能
■ DTS*[2]、DTS-ES Discrete、DTS-ES Matrix、DTS Neo : 6、DTS 96/24サラウンド再生可能
■ MPEG-2 AAC再生可能
■ ノイズを最小限におさえ、本来の音を楽しむことのできる「Pure Audio」リスニングモード搭載
■ 高音域が強調された劇場用サウンドをご家庭で適切なバランスに補正する「Cinema FILTER*[3]」機能
■ 小音量でもサラウンドを楽しめるLATE NIGHT機能（ドルビーデジタル時のみ）
■ 192kHz/24ビットD/Aコンバーター搭載
■ 飛躍的な音質向上、デジタル信号からピュアなアナログ信号を生成するVLSC*[4]（Vector Linear Shaping Circuitry）搭載
■ 再生周波数の広帯域化を図るWRAT（ワイド・レンジ・アンプリファイアー・テクノロジー）
■ ダウンミックスによるフロントL/Rチャンネルのダイナミックレンジの減少や、S/N劣化を防ぐ技術「ノン・スケーリング・コンフィグレーション」採用の回路
■ 信号とノイズ領域との近接を回避して聴感上のS/Nを向上させるオプティマム・ゲイン・ボリューム回路
■ デジタル音声/映像信号を1本のケーブルで伝送可能なHDMI*[5]入力2系統、出力1系統装備
■ ビデオコンバーター搭載*[6]〔ビデオ（コンポジット）/Sビデオ信号をD4/コンポーネント出力端子に出力、ビデオ（コンポジット）/Sビデオ/D4/コンポーネント信号をHDMI端子に出力〕
■ D4/コンポーネント映像入力端子3系統、出力端子1系統装備
■ S映像入力端子5系統/出力端子3系統装備
■ 7.1マルチチャンネル入力端子装備、DVD-Audioプレーヤーやスーパーオーディオ CDプレーヤーへの拡張性を実現
■ デジタル入力端子として光4系統/同軸2系統、デジタル出力端子として光1系統装備
■ 付属の測定用マイクで自動スピーカー（Audyssey 2EQ*[7]）設定
■ モニターを見ながら、簡単設定ができるOSD（オンスクリーンディスプレイ）機能
■他機の操作を可能にするラーニング＆プリプログラムリモコン付属

*[1] ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
“Dolby”、“ドルビー”、“Pro Logic” およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

*[2] 本機は、デジタル・シアター・システムズ社からのライセンスに基づき製造されています。
“DTS”、“DTS 96/24”、“DTS-ES”および“Neo : 6”は、デジタル・シアター・システムズ社の商標です。

*[3] Cinema FILTERは、オンキヨー株式会社の商標です。

*[4] VLSCは、オンキヨー株式会社の登録商標です。

*[5] HDMI、HDMIロゴ及びHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

*[6] 本機は、合衆国特許権と知的所有権上保障されたマクロビジョンコーポレーションの許可が必要な著作権保護技術を搭載しており、改造または分解は禁止されています。
U.S.パテントNos. 4, 631, 603; 4, 577, 216; 4, 819, 098; 4, 907, 093; 5, 315, 448; 6, 516, 132

*[7] Audyssey Laboratoriesからの実施権に基づき製造されています。Mult EQまたは2EQはAudyssey Laboratoriesの商標です。

AAC パテントマーキング
Pat.5,848,391 5,291,557 5,451,954 5 400 433 5,222,189 5,357,594 5 752 225
5,394,473 5,583,962 5,274,740 5,633,981 5 297 236 4,914,701 5,235,671
07/640,550 5,579,430 08/678,666 98/03037 97/02875 97/02874 98/03036
5,227,788 5,285,498 5,481,614 5,592,584 5,781,888 08/039,478 08/211,547
5,703,999 08/557,046 08/894,844 5,299,238 5,299,239 5,299,240 5,197,087
5,490,170 5,264,846 5,268,685 5,375,189 5,581,654 5,548,574 5,717,821

目次

はじめに

接続をする

初期設定をする

映画・音楽を鑑賞する（基本編）

リスニングモードを使う（基本編）

困ったときは

その他

本機のリモコンで他の製品を操作する

こんなこともできます

設定をする（応用編）

こんなこともできます

映画・音楽を鑑賞する（応用編）

こんなこともできます

リスニングモードを使う（応用編）

オーディオ機器の正しい使いかた

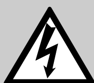
オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

絵表示について

この「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意(警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。



⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。



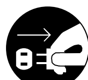


●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な指示内容(左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください)が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない





電源プラグをコンセントから抜いてください

●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機をスタンバイ状態にし、電源プラグをコンセントから抜いてください。
煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない



分解禁止

●本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
●本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない



●本機を使用できるのは日本国内のみです。
●表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない



●本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。
次の点に気をつけてご使用ください。
• 本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
• 本機を、専用ラック以外の押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
• テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、ふとんの上に置いて使用しないでください。
• 本機を設置する場合は、壁から20cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面、横から20cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。

■ 水のかかるところに置かない

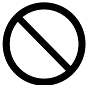

水場での
使用禁止

●風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。


水ぬれ
禁止

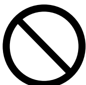
●本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

■ 水の入った容器を置かない



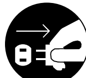
●本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。中に入った場合、火災・感電の原因となります。

■ 中に物を入れない



●本機の通風孔などから金属類や燃えやすいものを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 中に水や異物が入ったら

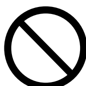


電源プラグをコンセント
から抜いてください

●万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機をスタンバイ状態にし、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 電源コードを傷つけたり、加工しない

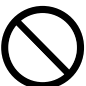


●電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



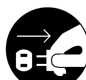
●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがありますのでご注意ください。
●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

■ 電源コンセントにはオーディオ機器以外接続しない



●本機の電源コンセントはオーディオ機器専用です。表示された定格以内でご使用ください。表示された定格以上の機器やヘヤードライヤー、電気こたつなどの電熱器具、オーブン・レンジなどの調理器具は絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 落としたり、破損した状態で使用しない



電源プラグをコンセント
から抜いてください

●万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。本機をスタンバイ状態にし、電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

■ 雷が鳴りだしたら機器に触れない


接触
禁止

●雷が鳴りだしたら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

■ 乾電池を充電しない

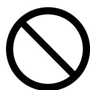


●乾電池は充電しないでください。電池の破裂や液もれにより、火災、けがの原因となります。

オーディオ機器の正しい使いかた

⚠注意

■ 設置上の注意



●強度の足りない台やぐらついたり、傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。
●本機の上に他のオーディオ機器を乗せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。
●本機の上に10kg以上の重い物や外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

■ 次のような場所に置かない



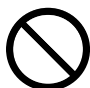
●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について



●本機を他のオーディオ機器やテレビなどの機器と接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

■ 使用上の注意

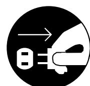


●長時間音が歪んだ状態で使わないでください。アンプ、スピーカー等が発熱し、火災の原因となることがあります。
●ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
●本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。
●キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。磁気の影響で製品が使えなくなったり、データが消失することがあります。

■ 電源コード、電源プラグの注意



●電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
●ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
●電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。



電源プラグをコンセントから抜いてください

●旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
●移動させる場合は、必ず本機をスタンバイ状態にし、電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

■ 電池について

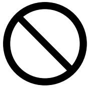


●電池をリモコンに挿入する場合、極性表示（プラス+とマイナス−の向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



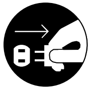
●指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより火災、けがや周囲の汚損の原因となることがあります。
●電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

■ スピーカーコードについて



●スピーカーコードを傷つけたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 点検・工事について

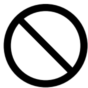

電源プラグをコンセントから抜いてください

●お手入れの際は、安全のため本機をスタンバイ状態にし、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。



●使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。
本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても販売店にご相談ください。

●電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。



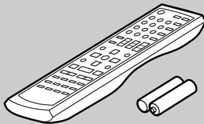
●シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。



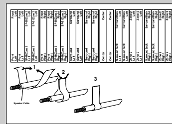
●表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。
化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

■付属品を確認する

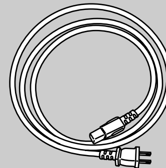
ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。
（ ）内の数字は数量を表しています。



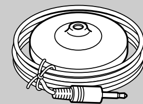
リモコン（RC-652M）…(1)
乾電池（単三形、R6）…(2)



スピーカーコード用ラベル…(1)



電源コード…(1)



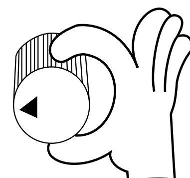
測定用マイク…(1)

取扱説明書（本書）…(1)
保証書…（1)
オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内…（1)

カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後にあるアルファベットは、製品の色を表す記号です。
色は異なっても操作方法は同じです。

音のエチケット

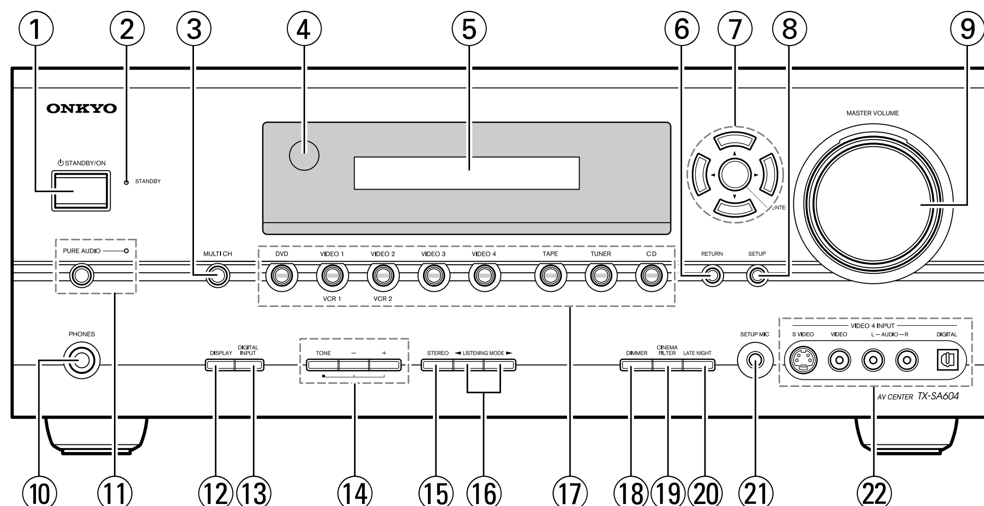
楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、
ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。



本体、リモコンボタンの名前と働き

前面パネル

〔　〕内のページに主な説明があります。



① STANDBY/ONボタン〔35〕
電源のスタンバイ/オンを切り換えます。

② STANDBYインジケーター〔35〕
スタンバイ状態のときやリモコンからの信号を受信すると点灯します。

③ MULTI CHボタン〔53〕
DVDの音声をマルチチャンネル入力に切り換えます。

④ リモコン受光部〔15〕
リモコンからの信号を受信します。

⑤ 表示部
次ページをご覧ください。

⑥ RETURN ボタン
設定中に1つ前の表示に戻します。

⑦ カーソル▲/▼/◀/▶/ENTERボタン
設定項目を選択します。中央のENTERボタンを押すと、選択している項目を確定します。

⑧ SETUPボタン〔42〕
本機の設定を行います。

⑨ MASTER VOLUMEつまみ〔46〕
音量を調整します。
音量は基本的にMin・1・2･･･98・99・Maxの範囲で調整できます。

⑩ PHONES端子〔47〕
標準プラグのステレオヘッドホンを接続する端子です。

⑪ PURE AUDIOボタンとインジケーター〔48〕
リスニングモードを「Pure Audio」にします。
リスニングモードが「Pure Audio」のとき、インジケーターが点灯します。

⑫ DISPLAYボタン〔54〕
表示部の情報を切り換えます。

⑬ DIGITAL INPUTボタン〔41、67〕
デジタル入力を割り当てるとき、デジタル入力信号の種類を選ぶときに使用します。

⑭ TONE ＋/－ボタン〔53〕
高音、低音を調整するときに使用します。

⑮ STEREO ボタン〔48〕
リスニングモードをステレオにします。

⑯ LISTENING MODE◀/▶ボタン〔48〕
リスニングモードを選びます。

⑰ 入力切換ボタン（DVD、VIDEO1～4、TAPE、TUNER、CD）〔46〕
再生する機器を選びます。

⑱ DIMMERボタン〔47〕
表示部の明るさを切り換えます。

⑲ CINEMA FILTERボタン〔52〕
シネマフィルター機能をオン/オフします。

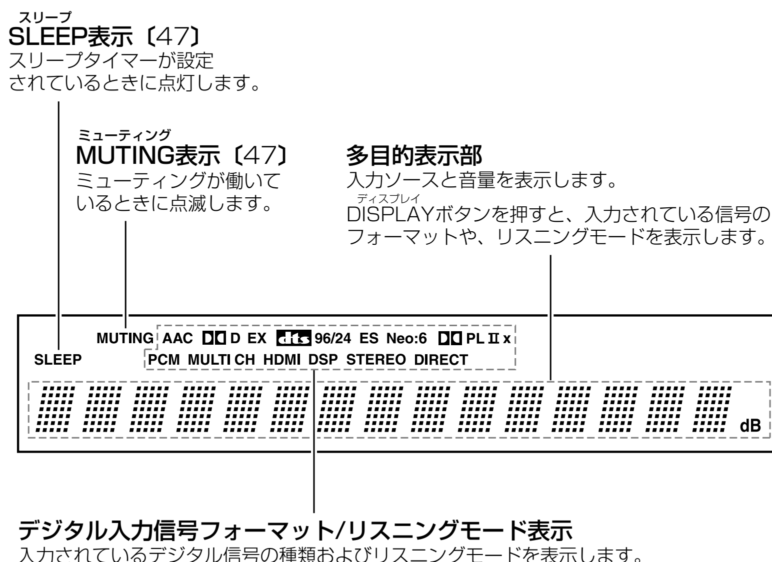
⑳ LATE NIGHTボタン〔52〕
レイトナイト機能をオン/オフします。

㉑ SETUP MIC端子〔37〕
付属の測定用マイクを接続して、スピーカーの数や位置を検知します。

㉒ VIDEO 4 INPUT端子
ビデオカメラやゲーム機などを接続します。

表示部

〔　〕内のページに主な説明があります。



入力信号表示

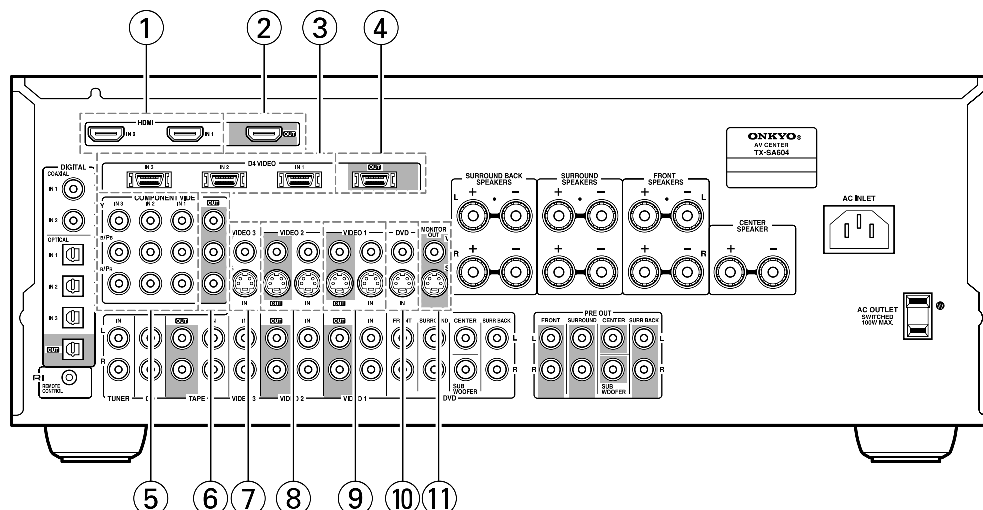
表示	入力信号
DD D	Dolby Digital
dts	DTS
PCM	PCM
AAC	AAC
MULTI CH	アナログマルチチャンネル

リスニングモード表示例

表示	リスニングモード
DIRECT	Direct
STEREO	Stereo
DD PL II	PL II Movie/Music/Game
DD PL II x	PL II x Movie/Music/Game
dts Neo:6	Neo:6 Cinema/Music
DD D	Dolby Digital
DD D EX	Dolby Digital EX
dts	DTS
dts 96/24	DTS 96/24
dts ES	DTS-ES
dts Neo:6	DTS + Neo:6
DD EX dts	DTS + Dolby EX
AAC	AAC
AAC DD EX	AAC + Dolby EX
DSP	オンキヨー独自のリスニングモード

本体、リモコンボタンの名前と働き

後面パネル



① HDMI IN1/2端子
接続した機器からデジタル映像信号とデジタル音声信号を入力する端子。

② HDMI OUT端子
本機からデジタル映像信号をテレビに出力する端子。設定により、デジタル音声信号も同時に出力することができます。

③ D4 VIDEO IN 1/2/3端子
接続した機器からD映像を入力する端子。
S映像より良い画質が得られます。

④ D4 VIDEO OUT端子
本機からD映像を出力する端子。
S映像より良い画質が得られます。

⑤ COMPONENT VIDEO IN 1/2/3端子
接続した機器からコンポーネント映像を入力する端子。
S映像より良い画質が得られます。

⑥ COMPONENT VIDEO OUT端子
本機からコンポーネント映像を出力する端子。
S映像より良い画質が得られます。

⑦ VIDEO 3 IN端子
接続した機器からビデオ映像（VIDEO端子）、S映像（S VIDEO端子）を入力する端子。

⑧ VIDEO 2 IN/OUT端子
ビデオ映像（VIDEO端子）、S映像（S VIDEO端子）を入出力する端子。

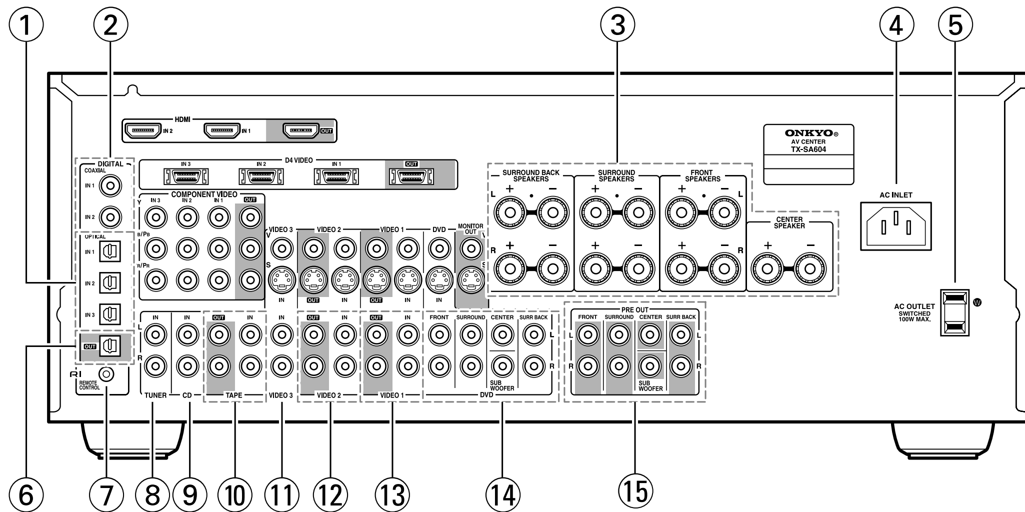
⑨ VIDEO 1 IN/OUT端子
ビデオ映像（VIDEO端子）、S映像（S VIDEO端子）を入出力する端子。

⑩ DVD IN端子
接続したDVDプレーヤーからビデオ映像（VIDEO端子）、S映像（S VIDEO端子）を入力する端子。

⑪ MONITOR OUT端子
接続しているモニターやテレビにビデオ映像（VIDEO端子）、S映像（S VIDEO端子）を出力する端子。

接続については、17～34ページをご覧ください。

本体、リモコンボタンの名前と働き



① DIGITAL IN1/2/3（OPTICAL）端子
デジタル音声の入力端子。
デジタル再生機器を接続します。

② DIGITAL IN1/2（COAXIAL）端子
デジタル音声の入力端子。
デジタル再生機器を接続します。

③ スピーカー端子
スピーカーを接続します。

④ AC INLET
付属の電源コードを接続します。

⑤ AC OUTLET（電源コンセント）
本機に接続するオーディオ機器の電源プラグを接続します。

⑥ DIGITAL OUT（OPTICAL）端子
デジタル音声の出力端子。
デジタル録音機器を接続します。

⑦ RI REMOTE CONTROL端子
RI端子付きオンキヨー製品と接続し、連動させる端子です。
RIケーブルの接続だけでは連動しません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

⑧ TUNER IN端子
チューナーを接続します。

⑨ CD IN端子
CDプレーヤーを接続します。

⑩ TAPE IN/OUT端子
テープデッキやMDレコーダーなどの録音機器を接続します。

⑪ VIDEO 3 IN端子
BSチューナーなどの音声出力端子と接続します。

⑫ VIDEO 2 IN/OUT端子
ビデオデッキなどの音声入出力端子と接続します。

⑬ VIDEO 1 IN/OUT端子
ビデオデッキなどの音声入出力端子と接続します。

⑭ DVD IN端子
DVDプレーヤーを接続します。

⑮ PRE OUT端子
本機をプリアンプとして使用する場合、パワーアンプやアンプ内蔵サブウーファーなどと接続します。

接続については、17～34ページをご覧ください。

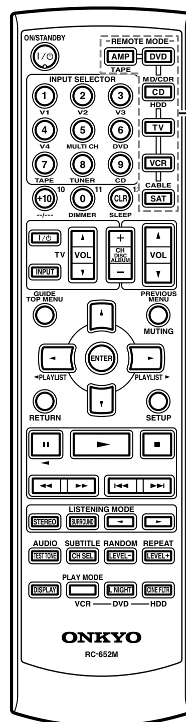
本体、リモコンボタンの名前と働き

リモコン（RC-652M）

REMOTE MODEボタン

このリモコンは、REMOTE MODEボタンを切り換えることによって、他のAV機器を操作することができます。操作する機器に合わせて、各ボタンを切り換えてください。

- 本機以外の機器を操作するには、ご使用になる機器に合わせて、あらかじめ各ボタンに4桁のリモコンコードを登録する必要があります。詳しくは69～70ページをご覧ください。



REMOTE MODEボタン

■AMP/TAPEモード .... 13、14ページ

本機を操作できます。また、本機とシステム連動が可能なオンキヨー製カセットデッキやチューナーも、RI接続*によりこのモードで操作できます。



■DVDモード 73ページ

お買い上げ時の設定では、オンキヨー製DVDプレーヤーが登録されています。リモコンコードを変更することで、他メーカー製のDVDプレーヤー、DVDレコーダーのいずれかを操作できます。



■CD/MD/CDR/HDDモード 74ページ

お買い上げ時の設定では、オンキヨー製CDプレーヤーが登録されています。リモコンコードを変更することで、オンキヨー製MDレコーダーやCDレコーダー、RI DOCKなどのHDD関連機器、他メーカー製の録音機器のいずれかを操作できます。



■TVモード 75ページ

リモコンコードを登録することで、他メーカー製のテレビを操作できます。



■VCRモード 75ページ

リモコンコードを登録することで、他メーカー製のビデオデッキを操作できます。

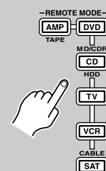


■SAT/CABLEモード 76ページ

リモコンコードを登録することで、他メーカー製の衛星放送チューナー、またはケーブルテレビチューナーを操作できます。

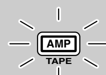


1



操作する機器にあわせて、REMOTE/MODEボタンを切り換える

2



選択したボタンが、数秒間点灯します

操作の際も、ボタンを押すたびに、選択しているモードのボタンが点灯します。

*RI接続については33ページをご覧ください。

ご注意

製品によっては、動作しない場合があります。

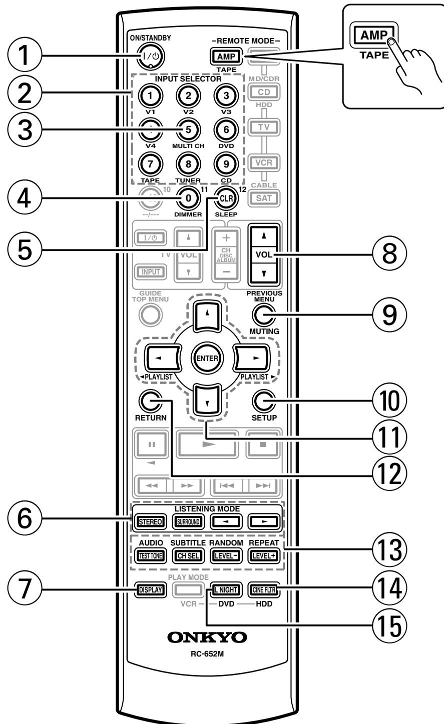
リモコン（RC-652M）

AMP/TAPEモード

本機を操作するとき

ここでは本機を操作するAMP/TAPEモードを選択したときに使用するボタンついて説明します。その他のモードでオンキヨー製品や他メーカー製のテレビ、ビデオ、AV機器などを操作するときは73～76ページをご覧ください。

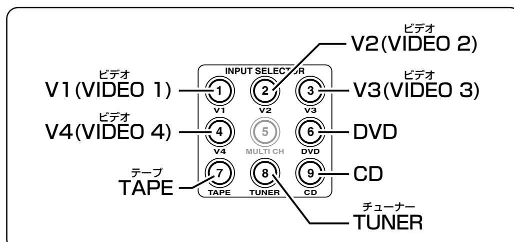
- **本機を操作するときは、まずAMP/TAPEボタンを押してください。**



〔　　〕内のページに主な説明があります。
詳しくはそちらをご覧ください。

① **ON/STANDBYボタン**〔35〕
本機の電源を入れたり、スタンバイ状態にします。

② **入力切換ボタン**〔46〕
再生する機器を選びます。



③ **MULTI CHボタン**〔53〕
DVDの音声をマルチチャンネル入力に切り換えます。

④ **DIMMERボタン**〔47〕
表示部の明るさを切り換えます。

⑤ **SLEEPボタン**〔47〕
スリープタイマーを設定します。

⑥ **LISTENING MODEボタン***〔48〕
- **STEREOボタン**
  リスニングモードを「Stereo」に切り換えます。
- **SURROUNDボタン**
  Dolby DigitalやDTSなどのリスニングモードを選びます。
- **◀/▶ボタン**
  リスニングモードを選びます。

⑦ **DISPLAYボタン**〔54〕
表示部の表示内容を切り換えます。

⑧ **VOL▲/▼ ボタン***〔46〕
音量を調節します。

⑨ **MUTINGボタン**〔47〕
音を一時的に小さくします。

⑩ **SETUPボタン**〔42〕
表示部に設定画面を表示させます。

⑪ **▲/▼/◀/▶/ENTERボタン**〔42〕
設定中に、上下左右ボタンを押して項目を選択します。ENTERボタンを押すと、選択した項目を確定します。

⑫ **RETURNボタン**
設定中に、表示部を1つ前の表示に戻します。

⑬ **TEST TONE/CH SEL/LEVEL－/＋ボタン**〔52、63〕
スピーカーの音量レベルを個々に設定します。

⑭ **CINE FLTRボタン**〔52〕
シネマフィルター機能をオン/オフします。

⑮ **L NIGHTボタン**〔52〕
レイトナイト機能をオン/オフします。

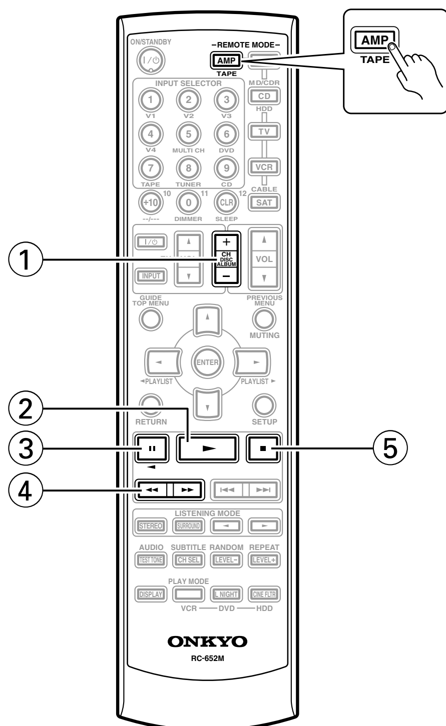
*⑥⑧は、AMP/TAPEモード以外のREMOTE MODEボタンを選択しているときも使用できます。

リモコン（RC-652M）

AMP/TAPEモード　本機にRI接続したチューナー、カセットデッキを操作するとき

本機とシステム連動が可能なオンキヨー製カセットデッキやチューナーも、RI接続*によりAMP/TAPEモードで操作できます。

- **本機とRI接続したチューナー、カセットデッキを操作するときは、まずAMP/TAPEボタンを押してください。**



*RI接続については33ページをご覧ください。

ご注意

- 製品によっては、動作しない場合があります。
- オンキヨー製のカセットデッキを本機に接続してご使用になるときは、45ページの「入力表示を切り換える」で、入力表示を「TAPE」に切り換えてください。
- お買い上げ時の設定では、入力表示は「TAPE」となっています。

●チューナー操作ボタン

① CH+/−ボタン
チューナーにプリセットした放送局の番号を選びます。

●テープデッキ操作ボタン

② ▶ボタン
テープの表面を再生します。

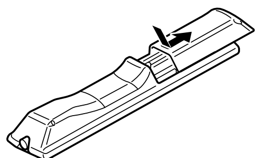
③ ◀ボタン
テープの裏面を再生します。

④ ◀◀/▶▶ボタン
巻き戻し、早送りをします。

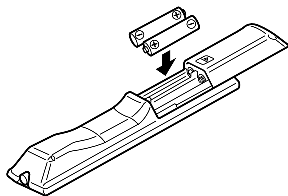
⑤ ■ボタン
再生を停止します。

乾電池を入れる

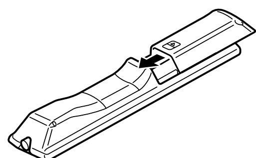
1. カバーを矢印の方向にずらして開ける



2. 中の極性表示にしたがって、付属の乾電池2個を＋（プラス）と−（マイナス）を間違えないように入れる



3. カバーを戻す

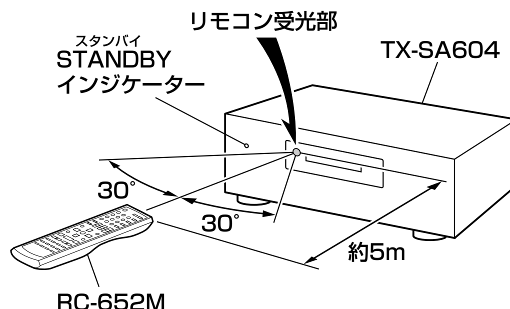


ご注意

- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出しておいてください。
- 消耗した電池を入れたままにしておきますと腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、古い電池を取り出して2本とも新しい電池と交換してください。
- 電池の交換時には、単3形をご使用ください。

リモコンの使いかた

リモコンを本機のリモコン受光部に向けて使用してください。リモコンからの信号を受信すると、本機のSTANDBY（スタンバイ）インジケーターが点灯します。



ご注意

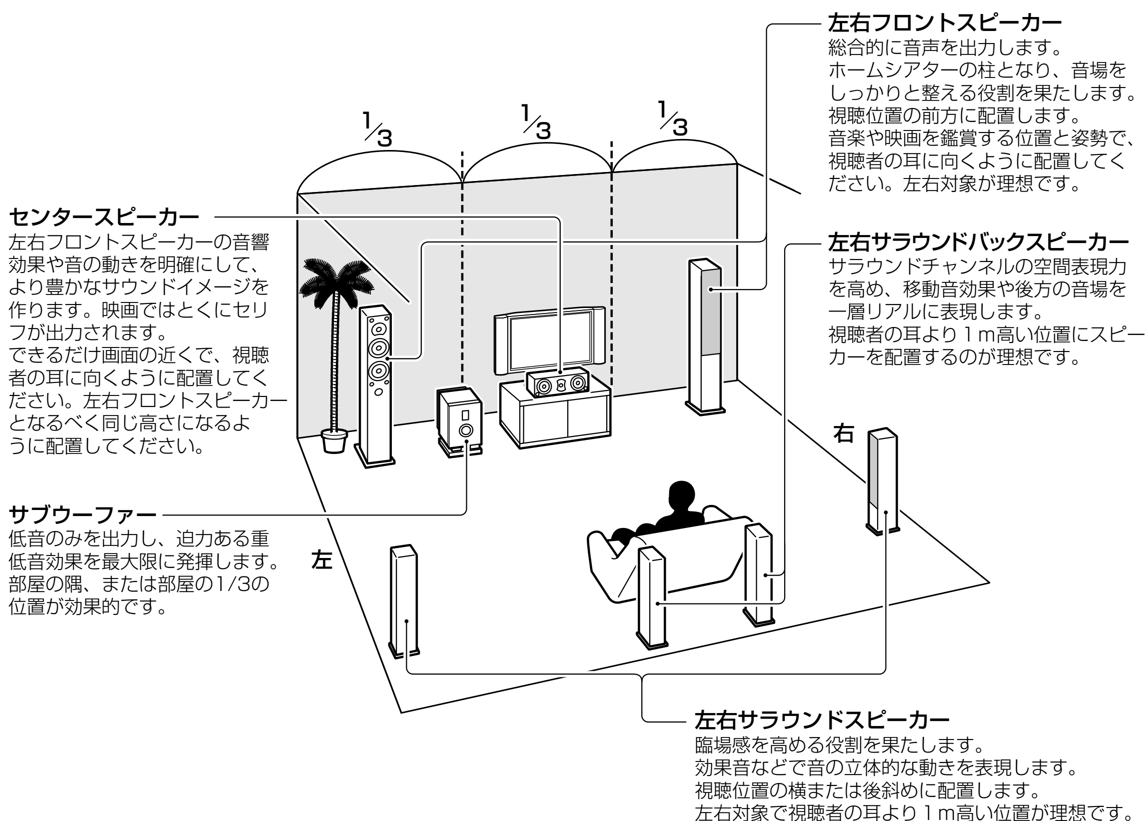
- リモコン受光部に日光やインバーター蛍光灯などの強い光を直接当てると正しく動作しないことがあります。
- 赤外線を使った機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンの上に本など、ものを置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスを使っていたり、装飾フィルムを貼っていると、リモコンが正常に機能しないことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると操作できません。

ホームシアターとは

ホームシアターを楽しもう

本機は優れた機能を使って音の立体感、移動感を実現し、ご家庭で簡単に劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれる音響効果をお楽しみいただけます。
再生する信号によって、DTSやドルビーデジタル再生、オンキヨー独自のリスニングモードをお楽しみいただけます。

スピーカーの使いかた
2つお持ちの場合、左右フロントスピーカーとして使用します。(2チャンネル再生)
3つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカーとして使用します。(3チャンネルサラウンド)
4つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、左右サラウンドスピーカーとして使用します。(4チャンネルサラウンド)
5つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカーとして使用します。(5チャンネルサラウンド)
6つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーとして使用します。(6チャンネルサラウンド)
7つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカー、左右サラウンドバックスピーカーとして使用します。(7チャンネルサラウンド)
サブウーファーをお持ちの場合、スピーカーの数に関係なく、重低音効果を発揮するために使用します。(○.1チャンネル再生)



- 最適なサラウンド再生をお楽しみいただくには、付属の測定用マイクを使って自動スピーカー設定を行ってください。(☞36ページ)

接続をする

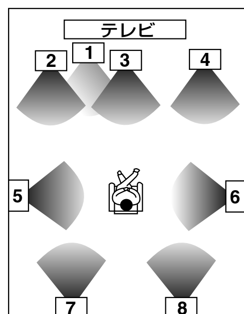
スピーカーを接続する

サラウンドバックスピーカーの配置について

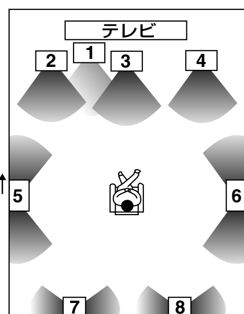
サラウンドバックスピーカーは、Dolby Digital EX、Dolby Pro Logic IIx、DTS-ES Matrix、DTS-ES Discreteなどのリスニングモードを楽しむときに必要です。
設置例1は、一般的なスピーカーを設置した場合です。
設置例2は、ダイポール型スピーカーを設置した場合です。
ダイポール型スピーカーとは、前と後ろなど、二つの方向に同じ音を出す、双指向性スピーカーのことです。
ダイポール型スピーカーでは位相*を合わせるため、多くはスピーカーに矢印表示が書いてあります。サラウンドスピーカーは矢印（↑）がテレビへ向かうように配置し、サラウンドバックスピーカーは、お互いの矢印（→）が向き合うように配置してください。

***位相** ： 正弦波の1周期（0～360度）における波形の位置を示す言葉。各スピーカー間の距離や取り付け角度、+、−の配線間違いなどで位相が合っていないと、音像や音場が不明瞭になったり、聞きづらさがあったりします。

設置例1



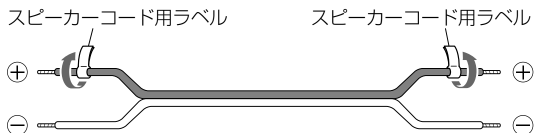
設置例2



1 サブウーファー
2 左フロントスピーカー
3 センタースピーカー
4 右フロントスピーカー
5 左サラウンドスピーカー
6 右サラウンドスピーカー
7 左サラウンドバックスピーカー
8 右サラウンドバックスピーカー

スピーカーコード用ラベルの使いかた

本機はスピーカー端子の⊕側を色分けして識別しやすくしています。付属のスピーカーコード用ラベルをお持ちのスピーカーコード両端のプラス⊕に貼ると識別が簡単になります。スピーカー端子は以下のように色分けしています。

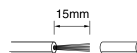


左フロント ：**白** 左フロントスピーカーのコード両端（⊕側）に白いラベルを貼る
右フロント ：**赤** 右フロントスピーカーのコード両端（⊕側）に赤いラベルを貼る
センター ：**緑** センタースピーカーのコード両端（⊕側）に緑のラベルを貼る
左サラウンド ：**青** 左サラウンドスピーカーのコード両端（⊕側）に青いラベルを貼る
右サラウンド ：**灰** 右サラウンドスピーカーのコード両端（⊕側）に灰色のラベルを貼る
左サラウンドバック ：**茶** 左サラウンドバックスピーカーのコード両端（⊕側）に茶色のラベルを貼る
右サラウンドバック ：**ベージュ** 右サラウンドバックスピーカーのコード両端（⊕側）にベージュのラベルを貼る

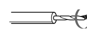
スピーカーコードの接続

本機のスピーカー端子のプラス⊕とスピーカーのプラス⊕端子にラベルを貼った側のスピーカーコードを接続します。本機のスピーカー端子のマイナス⊖とスピーカーのマイナス⊖端子とをラベルの貼っていない側のスピーカーコードで接続します。

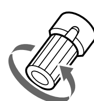
①スピーカーコードの被覆を15mmカットする



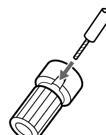
② しん線の先端をしっかりとよじる



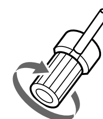
③ねじをゆるめる



④しん線を差し込む



⑤ねじを締め付ける

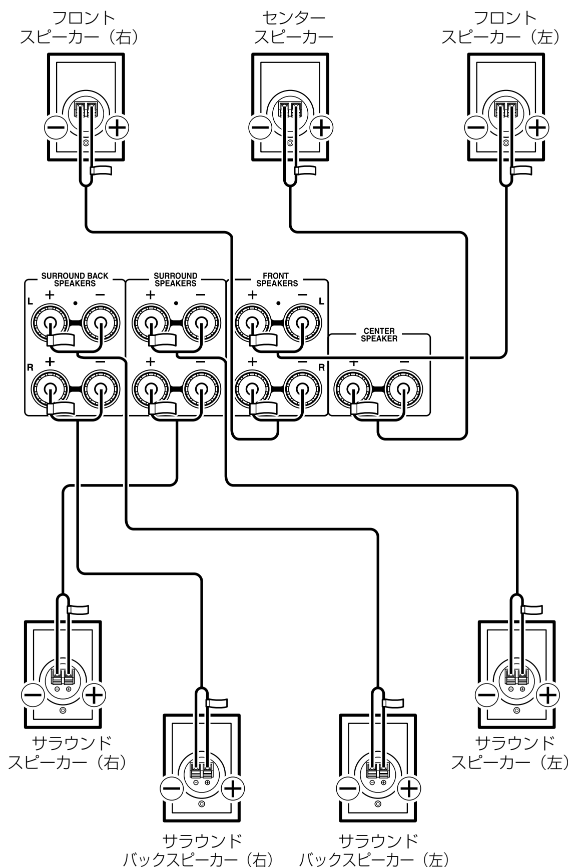


ご注意

しん線はしっかりとよじり、後面パネルなどの金属に接触しないようにしてください。

接続をする

スピーカーの配置については「ホームシアターとは」（☞16ページ）および「サラウンドバックスピーカーの配置について」（☞17ページ）をご覧ください。
本機にはインピーダンスが4Ω～16Ωのスピーカーを接続してください。ただし、インピーダンスが4Ω以上6Ω未満のスピーカーを1台でも接続するときは、44ページで「スピーカーインピーダンス」を4Ωに設定してください。

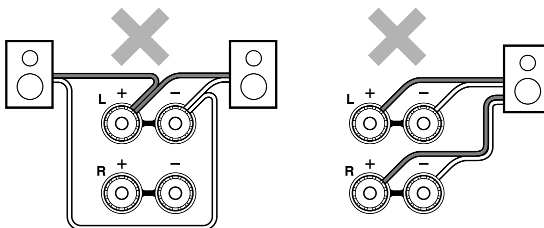


サラウンドバックスピーカーを1つだけ使用する場合は、SURROUND BACK SPEAKERS（L）端子に接続してください。

5.1chの場合は、FRONT SPEAKERS(L/R)、CENTER SPEAKER、SURROUND SPEAKER(L/R）端子に接続してください。

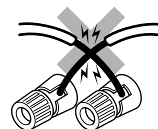
ご注意

- プラス⊕とマイナス⊖を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続すると音声が不自然になりますのでご注意ください。
- スピーカー端子に複数のスピーカーコードは接続しないでください。故障の原因になります。
- 1台のスピーカーだけを使用する場合やモノラル音声を再生する場合、１台のスピーカーを左右スピーカー端子に並列接続しないでください。



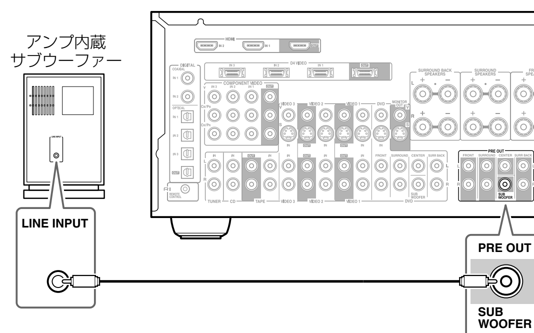
危険

回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線のプラスとマイナスを絶対に接触させないでください。



サブウーファーを接続する

パワーアンプ内蔵のサブウーファーをSUBWOOFER PRE OUT端子に接続します。



！ヒント

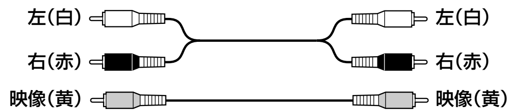
- 再生される低音の質や量は、置き場所や部屋の形状、視聴位置によって変わります。一般的に部屋の隅、または1/3の場所に置いたときに良い結果が得られますが、色々な場所に置いて質の良い低音が入った音楽を再生し、もっともしっかりした低音が再生できる場所に設置してください。
- サブウーファー側で設定ができる場合、音量を上げてください。また、カットオフフィルター切換スイッチは「DIRECT」にしてください。カットオフフィルタースイッチがなく、カットオフ周波数調整ツマミがある場合は、周波数を最大にしてください。

接続の前に

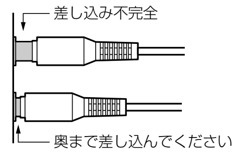
- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 電源コードは全ての接続が終わるまでつながないでください。

ビデオ用、オーディオ用ピンコードは以下のように接続してください。

- 入力端子は赤いコネクターを右チャンネル（Rの表示）、白いコネクターを左チャンネル（Lの表示）、黄色のコネクターをビデオチャンネル（Vの表示）に接続してください。



- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。
- ビデオコード、オーディオ用ピンコードは電源コードやスピーカーコードと束ねないでください。音質や画質が悪くなることがあります。



光デジタル入力端子/出力端子について

本機の光デジタル端子はすべてとびらタイプですので、とびらをそのまま奥へ倒すようにして光デジタルケーブルを差し込んでください。

ご注意

光デジタルケーブルはまっすぐ抜き差ししてください。
ななめに抜き差しすると、とびらが破損する場合があります。

映像/音声ケーブルと端子の種類について

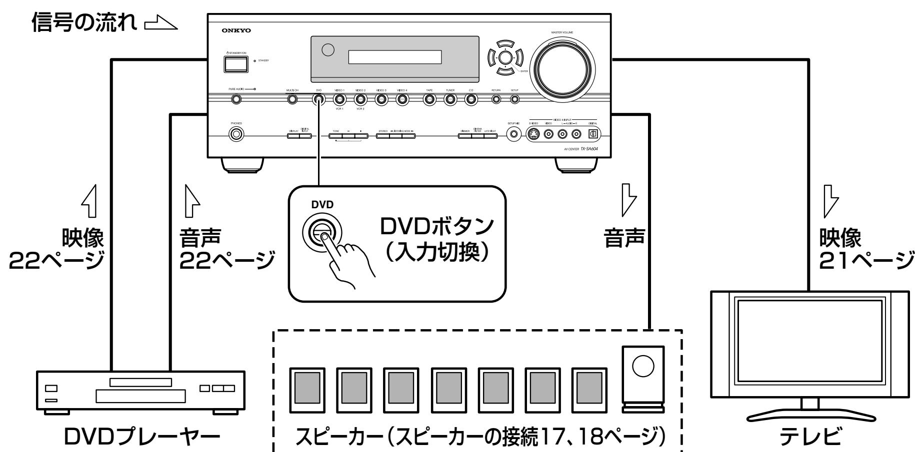
	ケーブルと端子の種類			
	ケーブルの名称	ケーブルの形	端子の形	ケーブルや端子の役割
映像	コンポーネントビデオコード		Y / CB/PB / CR/PR	画質はSビデオより良く、D端子と同レベルです。映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることはできません。
映像	D端子用接続コード		D4	画質はSビデオより良く、コンポーネントと同じレベルです。映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることができます。
映像	Sビデオコード		S VIDEO	コンポジットの映像より良い画質が得られます。本機では映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることはできません。
映像	ビデオコード（コンポジット）		VIDEO	標準的な映像信号で、多くのテレビやビデオなどの映像機器に装備されています。
音声	光デジタルケーブル（OPTICAL）（オプティカル）		OPTICAL	ドルビーデジタルなどのデジタル音声が得られます。音質はCOAXIALと同レベルです。
音声	同軸デジタルケーブル（COAXIAL）（コアキシャル）		COAXIAL	ドルビーデジタルなどのデジタル音声が得られます。音質はOPTICALと同レベルです。
音声	オーディオ用ピンコード		L / R	アナログ音声を伝送します。
音声	オーディオ用ピンコード	×4	FRONT SURROUND CENTER SURR BACK SUB WOOFER	DVDオーディオ対応のDVDプレーヤーなどとの接続に使用します。 アナログマルチチャンネル音声を伝送します。
映像と音声	HDMIケーブル			映像と音声をデジタル伝送します。 本機はHDMI Version 1.1に対応しています。

接続をする

AVセンターを使う

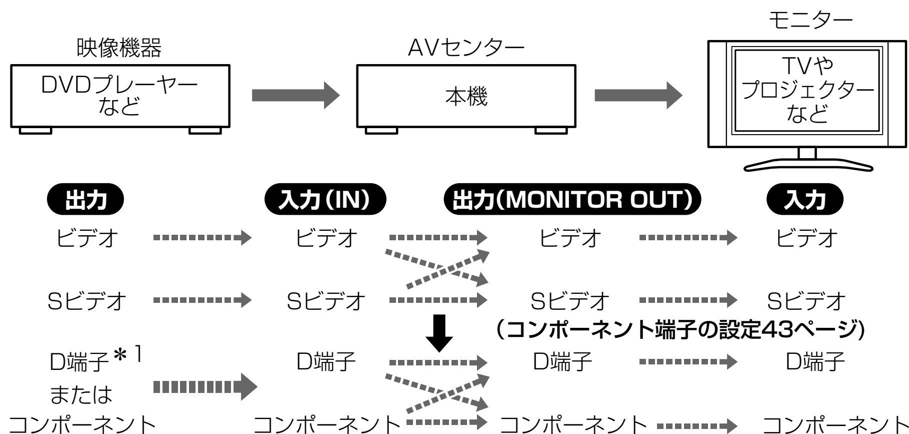
DVDプレーヤーなど、映像機器は映像接続と音声接続を行ってください。本機の入力を切り換えるだけでその機器の映像と音声を選ぶことができます。

例：DVDプレーヤーと組み合わせる場合



映像接続のしくみ

本機にはビデオ、Sビデオ、D端子、コンポーネントの4種類の映像入出力端子があります。接続する機器に合わせて使います。



＊[1] 映像機器の映像出力からモニターの映像入力までD端子接続している場合のみ、アスペクト比などの制御信号を送れます。モニターによっては、制御信号を受け取れないことがあります。その場合は、モニター側で調整してください。

- D4 VIDEO（ビデオ） IN（イン）端子とCOMPONENT（コンポーネント） VIDEO IN端子は内部で並列になるように設計されていますので、1つの系統に両方を接続しないでください。たとえば、D4 VIDEO 1 IN端子に映像機器を接続した場合は、COMPONENT VIDEO 1 IN端子には何も接続しないでください。
- 映像機器とビデオ端子またはSビデオ端子を使って接続するときは、コンポーネント端子の設定（☞43ページ）をすると、D端子接続やコンポーネント端子接続したモニターからも映像を出力することができます。
- HDMI信号については、27、28ページをご覧ください。

ご注意

本機の設定によっては、ビデオからSビデオ、Sビデオからビデオへの変換が働かない場合があります。（☞43ページ）

テレビやプロジェクターと接続する

ステップ1：映像接続をする

A、B、C の接続から必要な接続を選んでテレビやプロジェクターと映像接続をしてください。

！ヒント 20ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

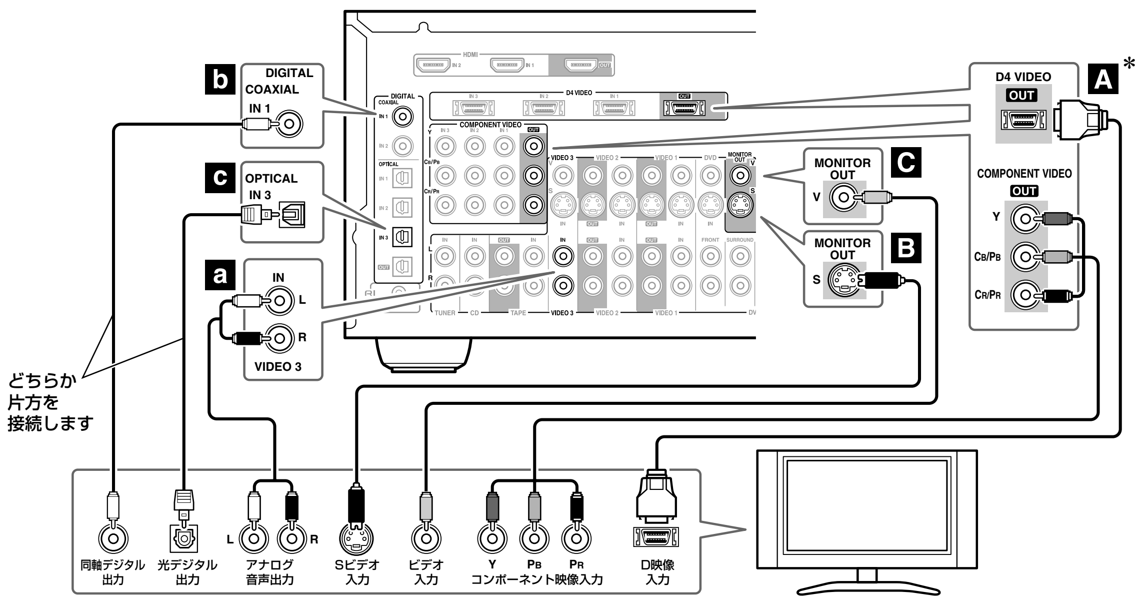
ステップ2：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んでテレビやプロジェクターと音声接続をしてください。

基本的な接続 a

- テレビの音声をアナログ録音したいときに必要です。
- RIオーディオコントロール端子付テレビと連動させるときに必要です。（☞34ページ）

地上デジタルやBSデジタルのサラウンド放送を楽しみたいときは b または c の接続をしてください。



接続	本機	信号の流れ	テレビ/プロジェクター	画質
A	D4 VIDEO OUT端子 または COMPONENT VIDEO OUT端子	➡	D映像入力端子 または コンポーネント映像入力端子	最良
B	MONITOR OUT S端子	➡	Sビデオ入力端子	良い
C	MONITOR OUT V端子	➡	ビデオ（コンポジット）入力端子	標準
a	VIDEO 3 IN L/R端子	⬅	アナログ音声出力端子	
b	DIGITAL IN COAXIAL IN1端子	⬅	同軸デジタル出力端子	
c	DIGITAL IN OPTICAL IN3端子	⬅	光デジタル出力端子	

！ヒント

テレビに音声出力端子がないときは、ビデオデッキの音声出力端子と本機のVIDEO 1 IN L/R端子を接続してください。ビデオデッキに内蔵されているチューナーからテレビの音声をお楽しみいただけます。

＊ D4 VIDEO OUT端子とCOMPONENT VIDEO OUT端子はどちらか片方の接続でご使用ください。（☞20ページ）

接続をする（映像機器を接続する）

DVDプレーヤーと接続する

ステップ1：映像接続をする

A、B、C の接続から１つ選んでDVDプレーヤーと映像接続をしてください。

！ヒント　20ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

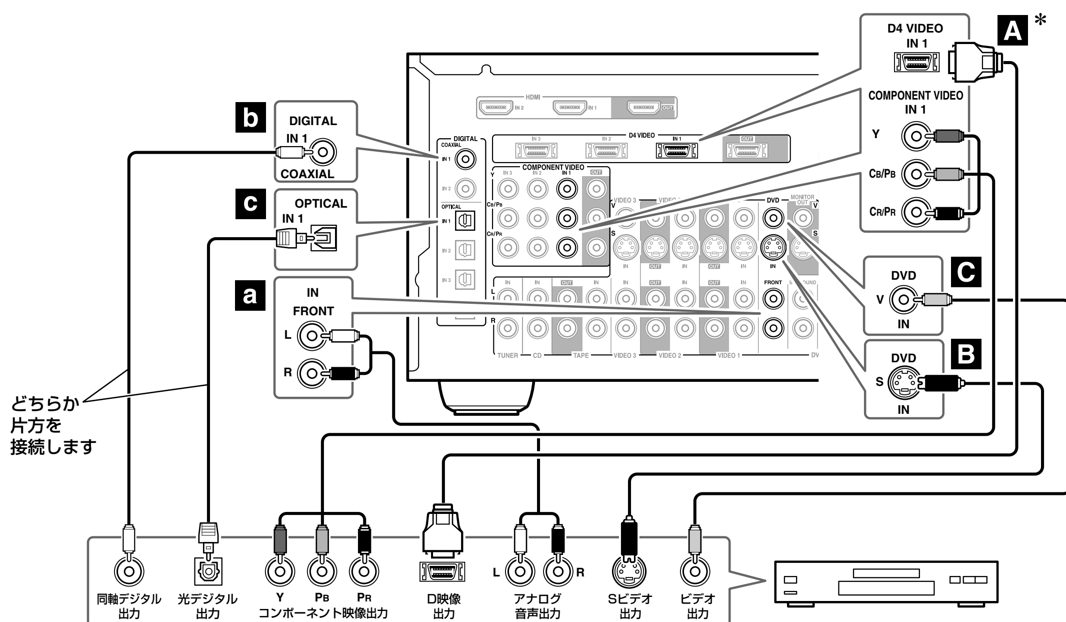
ステップ2：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んでDVDプレーヤーと音声接続をしてください。

基本的な接続 a

- DVDの音声をアナログ録音したいときに必要です。
- RI端子付オンキヨー製DVDプレーヤーと連動させるときに必要です。(☞33ページ)

ドルビーデジタルやDTSなどのリスニングモードを楽しみたいときは b または c の接続をしてください。



接続	本機	信号の流れ	DVDプレーヤー	画質
A	D4 VIDEO IN1端子 または COMPONENT VIDEO IN1端子	←	D映像出力端子 または コンポーネント映像出力端子	最良
B	DVD IN S端子	←	Sビデオ出力端子	良い
C	DVD IN V端子	←	ビデオ（コンポジット）出力端子	標準
a	DVD IN FRONT L/R端子	←	アナログ音声出力端子	
b	DIGITAL IN COAXIAL IN1端子	←	同軸デジタル出力端子	
c	DIGITAL IN OPTICAL IN1端子	←	光デジタル出力端子	

！ヒント　DVDプレーヤーにマルチチャンネルと2チャンネルの両方の出力端子がある場合で、本機のDVD IN FRONT L/R端子だけを接続するときは、DVDプレーヤーの2チャンネル出力端子と接続してください。マルチチャンネル接続は次ページをご覧ください。

＊D4 VIDEO IN1端子とCOMPONENT VIDEO IN1端子は同時に入力することができません。どちらか片方のみ接続してください。(☞19ページ)

■マルチチャンネル（5.1/7.1ch）出力端子があるDVDプレーヤーと接続する

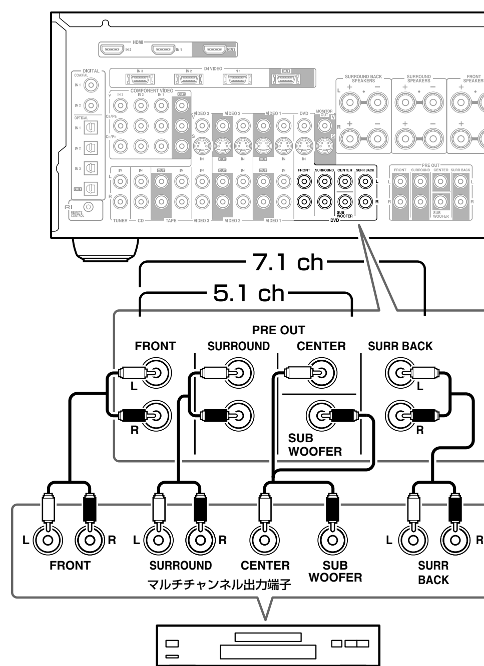
DVDオーディオなどのマルチチャンネル音声に対応している機器の場合、DVDオーディオなどの再生がお楽しみいただけます。

5.1チャンネル接続

5.1チャンネル接続するときは、マルチチャンネル接続コードまたは、オーディオ用ピンコードを使ってDVDプレーヤーのマルチチャンネル出力端子と本機のDVD IN FRONT L/R、SURROUND L/R、CENTER、SUBWOOFER端子を接続します。

7.1チャンネル接続

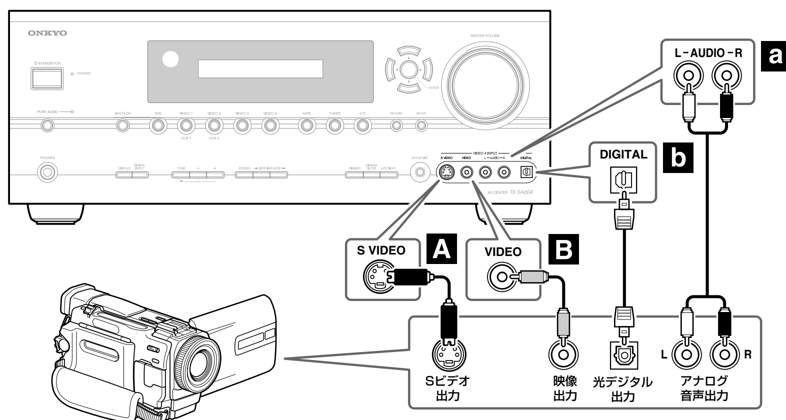
7.1チャンネル接続するときは、5.1チャンネル接続に加え、オーディオ用ピンコードを使ってSURR BACK L/R端子を接続してください。



ビデオカメラやゲーム機と接続する

ステップ1：**A** または **B** の映像接続をしてください。

ステップ2：**a** または **b** の接続から必要な接続を選んで音声接続をしてください。



接続	本機	信号の流れ	ビデオカメラ/ゲーム機	画質
A	VIDEO 4 INPUT S VIDEO端子	⬅	Sビデオ出力端子	良い
B	VIDEO 4 INPUT VIDEO端子	⬅	ビデオ（コンポジット）出力端子	標準
a	VIDEO 4 INPUT L/R端子	⬅	アナログ音声出力端子	
b	VIDEO 4 INPUT DIGITAL端子	⬅	光デジタル出力端子	

接続をする（映像機器を接続する）

ビデオデッキやDVDレコーダーと接続する（再生編）

ステップ1：映像接続をする

A、B、C の接続から1つ選んでビデオデッキやDVDレコーダーと映像接続をしてください。

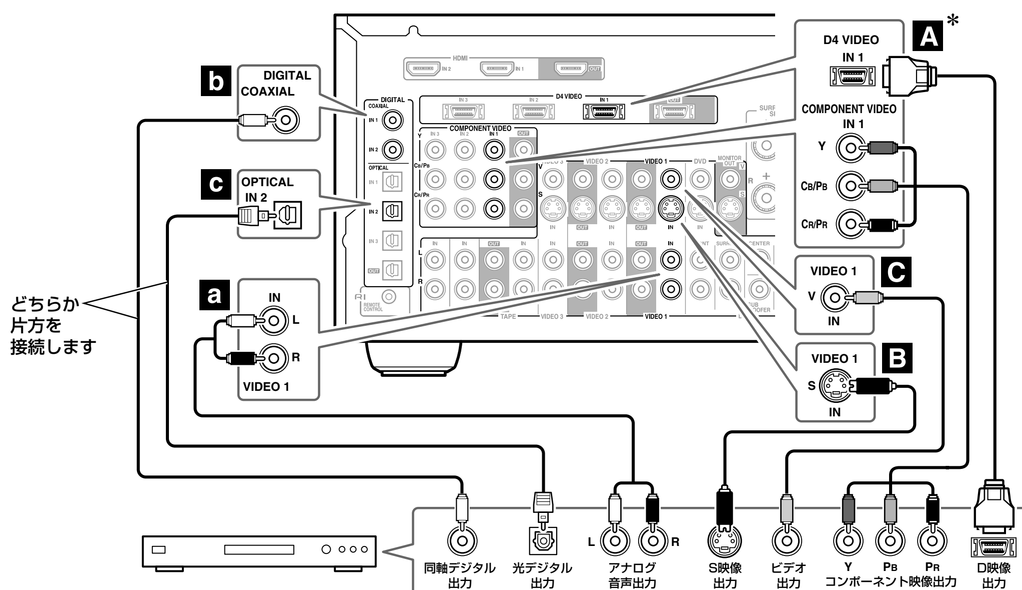
！ヒント 20ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ2：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んでビデオデッキやDVDレコーダーと音声接続をしてください。

基本的な接続は a の接続をします。

ドルビーデジタルやDTSなどのリスニングモードを楽しみたいときは b または c の接続をしてください。



接続	本機	信号の流れ	ビデオデッキ/DVDレコーダー	画質
A	D4 VIDEO IN1端子 または COMPONENT VIDEO IN1端子	⬅	D映像出力端子 または コンポーネント映像出力端子	最良
B	VIDEO 1 IN S端子	⬅	Sビデオ出力端子	良い
C	VIDEO 1 IN V端子	⬅	ビデオ（コンポジット）出力端子	標準
a	VIDEO 1 IN L/R端子	⬅	アナログ音声出力端子	
b	DIGITAL IN COAXIAL IN端子	⬅	同軸デジタル出力端子	
c	DIGITAL IN OPTICAL IN 2端子	⬅	光デジタル出力端子	

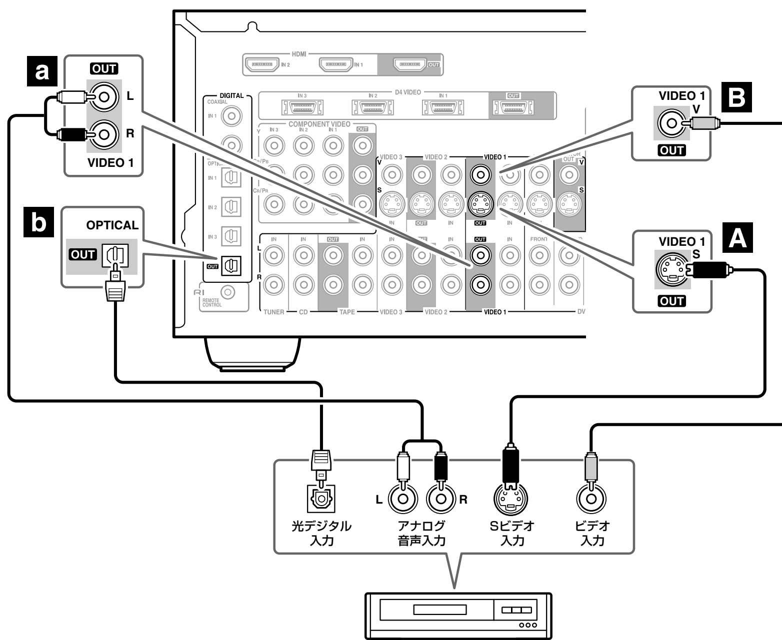
＊D4 VIDEO IN1端子とCOMPONENT VIDEO IN1端子は同時に入力することができません。どちらか片方のみ接続してください。（☞20ページ）

ビデオデッキやDVDレコーダーと接続する（録画編：本機を通して録画する）

ステップ1： ビデオデッキやDVDレコーダーと **A** または **B** の映像接続をしてください。

！ヒント 20ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ2： アナログ録音する場合は **a** 、デジタル録音する場合は **b** の接続をしてください。



接続	本機	信号の流れ	ビデオデッキ/DVDレコーダー	画質
A	VIDEO 1 OUT S端子	➡	Sビデオ入力端子	良い
B	VIDEO 1 OUT V端子	➡	ビデオ（コンポジット）入力端子	標準
a	VIDEO 1 OUT L/R端子	➡	アナログ音声入力端子	
b	DIGITAL OUT OPTICAL端子	➡	光デジタル入力端子	

ご注意

- 録画をするときは、本機の電源を入れる必要があります。本機がスタンバイ状態では録画できません。
- リスニングモードが「Pure Audio（ピュア オーディオ）」のときは、ビデオ回路の電源がオフになるため映像が出力されません。録画するときは、他のリスニングモードを選んでください。
- デジタル音声入力はデジタル音声出力のみ、アナログ音声入力はアナログ音声出力にのみ出力されます。
- ビデオ端子に入力される信号は、ビデオ端子でしか録画できません。テレビなどの再生機器をビデオ端子接続した場合は、ビデオデッキなどの録画機器もビデオ端子接続をしてください。また、S端子に入力される信号はS端子でしか録画できません。テレビなどの再生機器をS端子接続した場合は、ビデオデッキなどの録画機器もS端子接続をしてください。

！ヒント

ビデオデッキとDVDレコーダーなど録画機器を2台お持ちの場合は、同様にVIDEO 2 IN/OUT端子に接続してください。

衛星放送/ケーブルテレビチューナー、LDプレーヤーなどと接続する

ステップ1：映像接続をする

A、B、C の接続から１つ選んで衛星放送/ケーブルテレビチューナー、LDプレーヤーなどと映像接続をしてください。

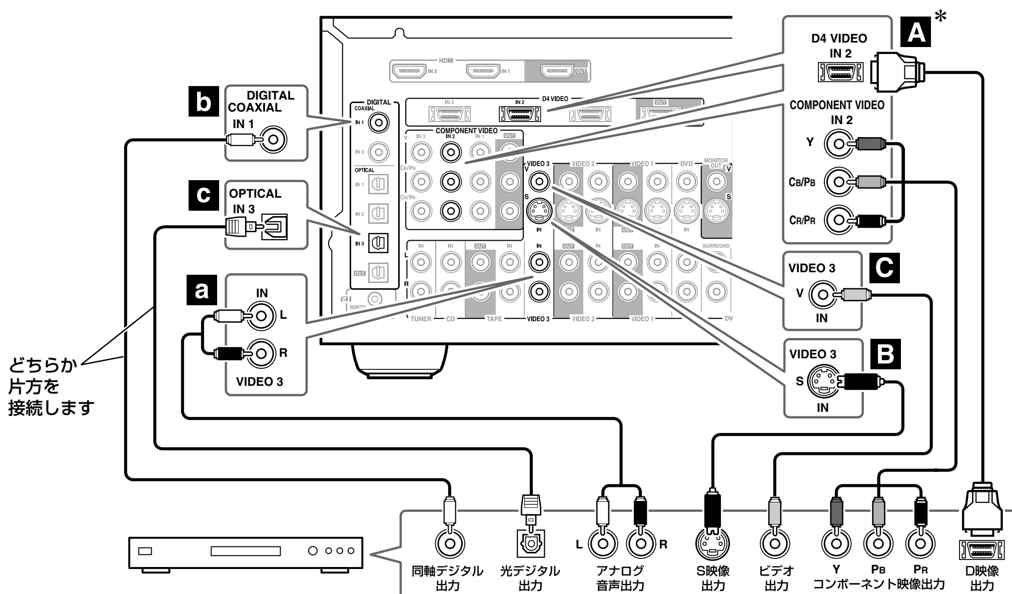
！ヒント 20ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ2：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んで衛星放送/ケーブルテレビチューナー、LDプレーヤーなどと音声接続をしてください。

基本的な接続は a の接続をします。

AACやドルビーデジタル、DTSなどのリスニングモードを楽しみたいときは b または c の接続をしてください。



接続	本機	信号の流れ	衛星放送/ケーブルテレビチューナー、LDプレーヤー	画質
A	D4 VIDEO IN2端子 または COMPONENT VIDEO IN2端子	⬅	D映像出力端子 または コンポーネント映像出力端子	最良
B	VIDEO 3 IN S端子	⬅	Sビデオ出力端子	良い
C	VIDEO 3 IN V端子	⬅	ビデオ（コンポジット）出力端子	標準
a	VIDEO 3 IN L/R端子	⬅	アナログ音声出力端子	
b	DIGITAL IN COAXIAL IN1端子	⬅	同軸デジタル出力端子	
c	DIGITAL IN OPTICAL IN3端子	⬅	光デジタル出力端子	

ご注意　本機にLDプレーヤーのAC-3RF出力端子は直接接続できません。LDプレーヤーでドルビーデジタル5.1chソフトをお楽しみいただくには、市販のデモジュレーターが必要です。

＊D4 VIDEO IN2端子とCOMPONENT VIDEO IN2端子は同時に入力することができません。どちらか片方のみ接続してください。（☞20ページ）

HDMI端子を使って接続する

HDMI（High-Definition Multimedia Interface）とは

放送のデジタル化などの変化に対応して、家庭内でテレビ/プロジェクター間をデジタル接続することを目的として策定されたインターフェース規格です。
従来のDVI（Digital Visual Interface）[*1]規格をさらに発展させて、オーディオ信号およびコントロール信号を伝送する機能を追加しています。従来は機器間の接続に、ビデオ、オーディオ、コントロールの各信号用に複数のケーブルを使用していましたが、HDMIケーブルを1本接続するだけで、HDMI端子対応の機器間で映像や音声をデジタルで伝送することができます。（本機はコントロール信号の伝送には対応していません。）

HDMIのビデオストリーム（映像信号）は、DVIと原理的に互換性があります。DVI端子を装備したテレビ/モニターなどに接続するにはHDMI→DVI変換ケーブルを用いて可能ですが、機器の組み合わせによっては映像が出ない場合があります。本機はHDCPを使用しており、対応の受像機でのみ映像が出ます。

本機のHDMIインターフェースは、以下の規格に基づいています。
High-Definition Multimedia Interface Specification Informational Version 1.1

対応音声フォーマット

- 2チャンネルリニアPCM（32～192kHz、16/20/24bit）
- マルチチャンネルリニアPCM（5.1ch、32～96kHz、16/20/24bit）
- ビットストリーム（ドルビーデジタル、DTS、AAC）

ただし、プレーヤー側も上記の音声フォーマットのHDMI出力に対応している必要があります。

著作権保護について

本機はHDCP（High-bandwidth Digital Contents Protection）[*2]に対応しています。HDCPとは、デジタル映像信号に対する著作権保護技術です。
本機と接続する機器もHDCPに対応していることが必要です。

本機のHDMI OUT端子とテレビ/プロジェクターなどのHDMI入力端子を接続します。接続には、市販のHDMIケーブルをご使用ください。

[*1] DVI（Digital Visual Interface）：DDWG[*3]が、99年に策定したデジタルディスプレイ・インターフェース規格。

[*2] HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）：Intelが開発したHDMI/DVI用の映像向けの暗号化処理方式。映像コンテンツ保護を目的にしており、暗号化された信号を受信するには、HDCP準拠のHDMI/DVIレシーバーが必要になる。

[*3] DDWG（Digital Display Working Group）：Intel、Silicon Image、Compaq Computer、富士通、Hewlett-Packardなどが中心となって運営する、ディスプレイのデジタルインターフェースの標準化を推進する団体。

接続をする（映像機器を接続する）

接続のしかた

HDMI接続では、HDMIケーブルで映像信号と音声信号を伝送することができます。

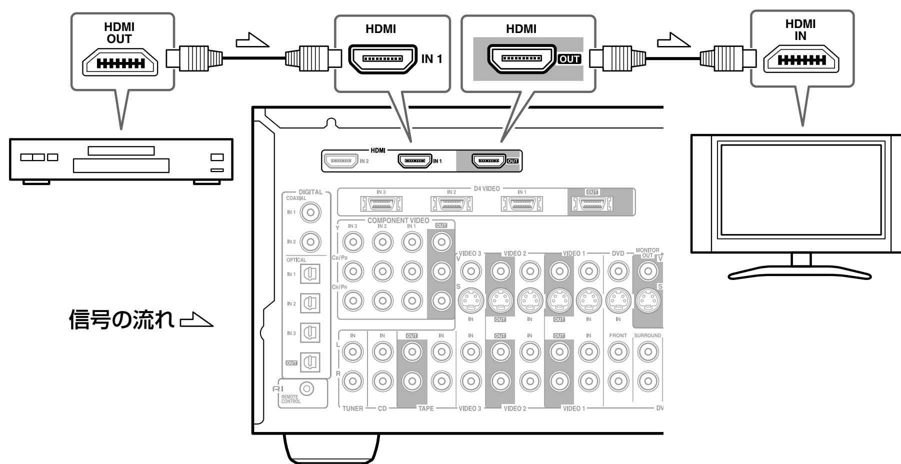
ステップ1： HDMIケーブルを使って本機のHDMI端子とDVDプレーヤー、テレビまたはプロジェクターなどのHDMI端子と接続してください。

ステップ2： 接続したHDMI IN端子を43ページの「HDMI入力端子の設定」で割り当ててください。

HDMI IN 1/2端子から入力したデジタル映像は、HDMI OUT端子からテレビへ、デジタル音声は本機に接続されたスピーカーやヘッドホンへ出力されます。



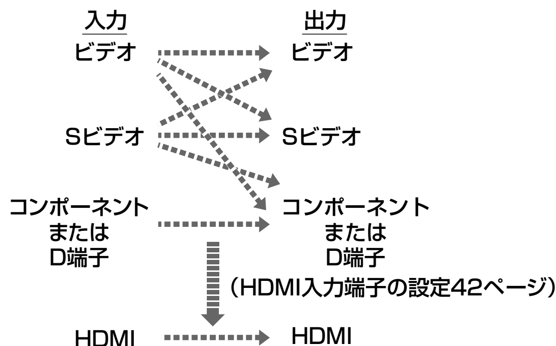
HDMI IN端子から入力した音声信号を、HDMI OUT端子から出力したテレビなどのスピーカーで聞きたい場合は、66ページで「HDMI Audio Out」設定を「On」にしてください。



映像信号/音声信号の流れ

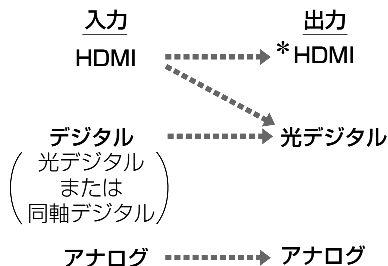
●映像入力/出力

HDMI IN 1/2端子から入力したデジタル映像信号は、HDMI OUT端子からのみ出力されます。また、本機の設定により、VIDEO/S VIDEO/D4/COMPONENT VIDEO端子から入力された映像信号をHDMI OUT端子から出力させることができます。（☞42ページ）



●音声入力/出力

HDMI IN 1/2端子から入力したデジタル音声信号は、HDMI OUT端子またはOPTICAL OUT端子から出力されます。ただし、DVDオーディオなど音声信号の種類によっては出力されないこともあります。



＊HDMI OUT端子と接続したテレビのスピーカーを使って、HDMI入力した音声を聞きたいときは、66ページで「HDMI Audio Out」設定を「On」にしてください。また、プレーヤー側で出力設定をPCMに変更してください。

CDプレーヤーやレコードプレーヤーと接続する

■CDプレーヤーやフォノイコライザー内蔵のレコードプレーヤーを接続するとき

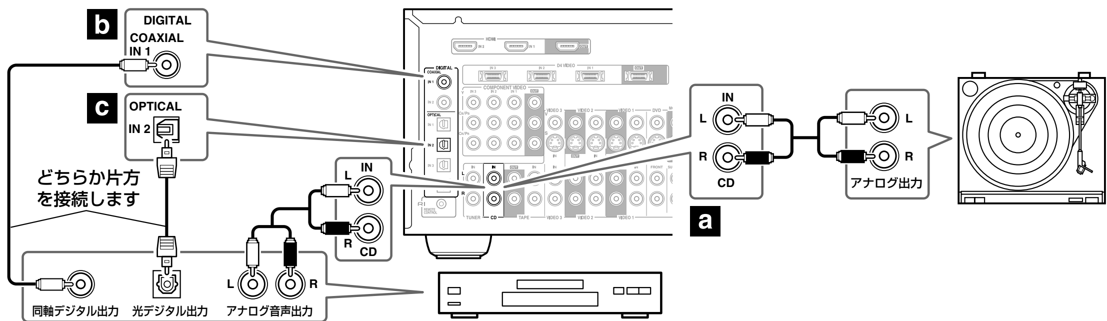
ステップ1：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んで音声接続をしてください。

基本的な接続 a

- CDの音声をアナログ録音したいときに必要です。
- RI端子付オンキヨー製CDプレーヤーと連動させるときに必要です。（☞33ページ）

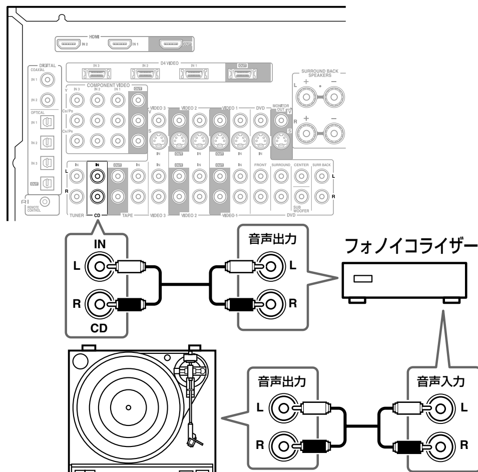
CDのPCMやDTS信号のリスニングモードを楽しみたいときは、b または c の接続をしてください。



接続	本機	信号の流れ	CDプレーヤー/レコードプレーヤー
a	CD IN L/R端子	⬅	アナログ音声出力端子
b	DIGITAL IN COAXIAL IN1端子	⬅	同軸デジタル出力端子
c	DIGITAL IN OPTICAL IN2端子	⬅	光デジタル出力端子

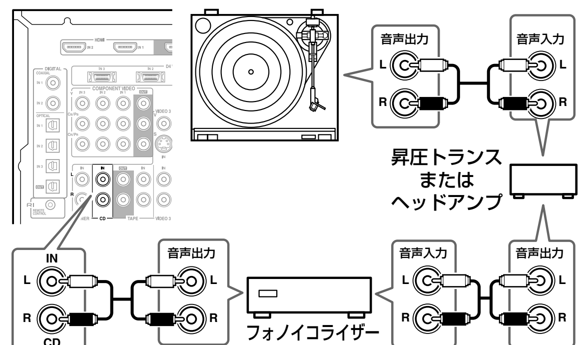
■レコードプレーヤーがフォノイコライザー内蔵でない場合

オーディオ用ピンコードでレコードプレーヤーとフォノイコライザーの音声入力端子を接続し、フォノイコライザーと空いているL/R IN端子を接続します。



■MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーの場合

オーディオ用ピンコードでレコードプレーヤーと昇圧トランスまたはヘッドアンプを接続し、それにフォノイコライザーを接続します。
フォノイコライザーを本機の空いているL/R IN端子に接続します。



詳しい説明は、レコードプレーヤーやフォノイコライザーの取扱説明書をご覧ください

接続をする（オーディオ機器を接続する）

カセットデッキ、MDレコーダー、CDレコーダーと接続する

ステップ1：音声接続をする

a、b、c、d の接続から必要な接続を選んで音声接続をしてください。

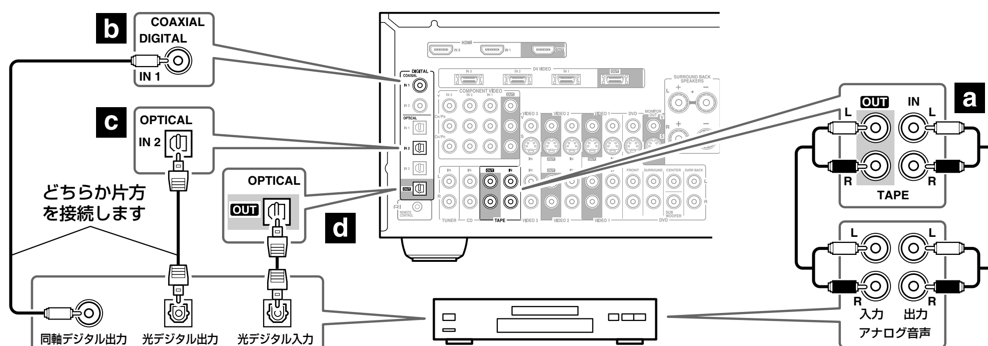
基本的な接続 a

- アナログ録音することができます。
- デジタル入力された信号は、アナログ出力されません。
- RI端子付オンキヨー製品と連動させるときに必要です。（☞33ページ）

CDのPCMやDTS信号のリスニングモードを楽しみたいときは、b または c の接続をしてください。

デジタル録音するときは、d の接続をしてください。

- アナログ入力された信号は、デジタル出力されません。

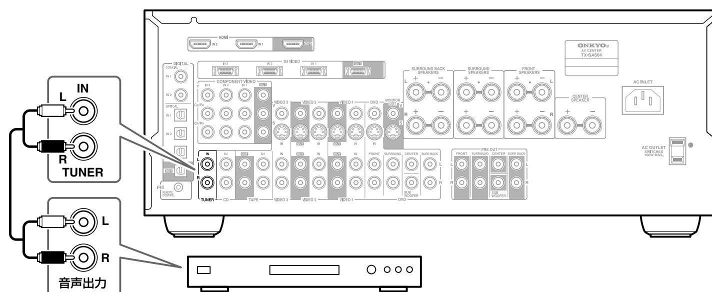


接続	本機	信号の流れ	録音機器
a	TAPE IN L/R端子 TAPE OUT L/R端子	⬅ ➡	アナログ音声出力端子 アナログ音声入力端子
b	DIGITAL IN COAXIAL IN1端子	⬅	同軸デジタル出力端子
c	DIGITAL IN OPTICAL IN2端子	⬅	光デジタル出力端子
d	DIGITAL OUT OPTICAL端子	➡	光デジタル入力端子

チューナーを接続する

ステップ1：音声接続をする

オーディオ用ピンコードでチューナーの音声出力端子と本機のTUNER（チューナー） IN L/R端子を接続します。



リモートインタラクティブドック（RIドック）と接続する

映像と音声に対応する機器を、RIドックにセットする場合

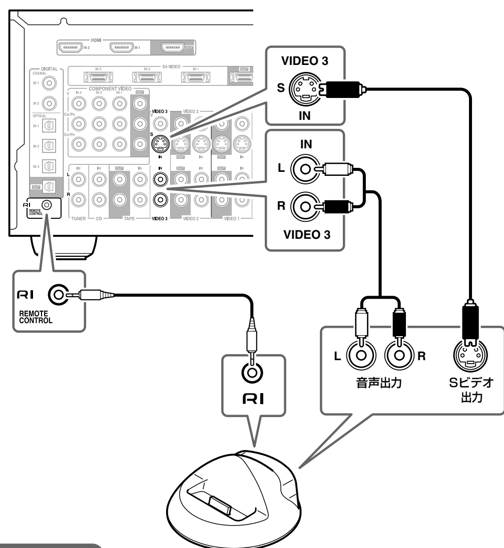
ステップ1：映像接続をする
RIドックの映像出力端子と本機のVIDEO（ビデオ） 3 IN端子を接続します。

ステップ2：音声接続をする
オーディオ用ピンコードで、RIドックの音声出力端子と本機のVIDEO（ビデオ） 3 IN L/R端子を接続します。

ステップ3：RI接続をする
RI*ケーブルで、RIドックのRI端子と本機のRI端子を接続します。

- RIドックのMODEスイッチは、「HDD」にしてください。
- 本機の入力表示を「HDD」に切り換えてください。（☞45ページ）

（接続例はDS-A1の場合です。）

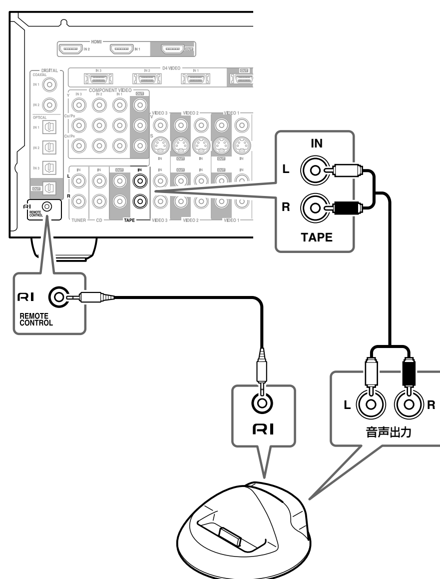


音声のみに対応する機器を、RIドックにセットする場合

ステップ1：音声接続をする
オーディオ用ピンコードで、RIドックの音声出力端子と本機のTAPE（テープ） IN L/R端子を接続します。

ステップ2：RI接続をする
RI*ケーブルで、RIドックのRI端子と本機のRI端子を接続します。

- RIドックのMODEスイッチは、「HDD」にしてください。
- 本機の入力表示を「HDD」に切り換えてください。（☞45ページ）



！ヒント

オンキヨー製RIドックと本機をRI接続をすると、以下の機能が使えます。

ダイレクトチェンジ機能
オンキヨー製RIドックの再生をすると、本機の入力が自動的に「HDD」に切り換わります。

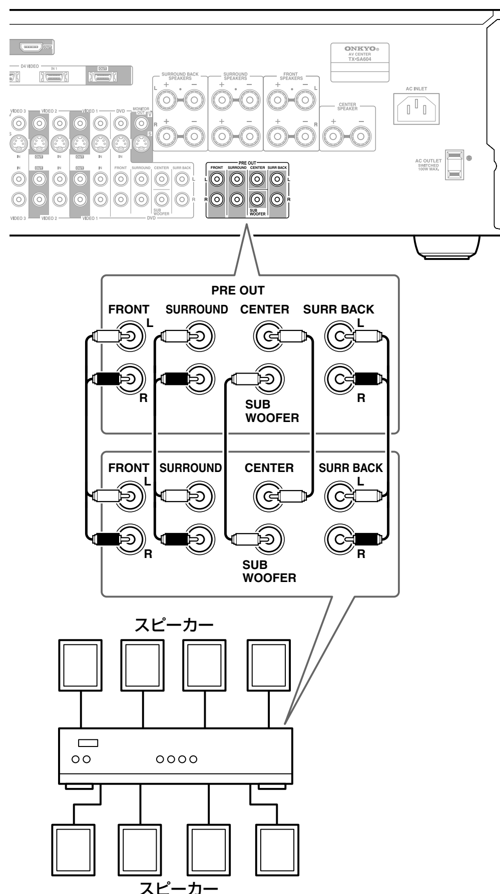
リモコン操作機能
本機に付属のリモコンでRIドックを操作できます。

ご注意

- 本機にはRIケーブルは付属していません。RIドックに付属のケーブルをお使いください。
- RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。
- 本機のリモコンでRIドックを操作するには、リモコンコードを登録する必要があります。（☞69、70ページ）

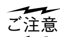
パワーアンプを接続する

パワーアンプを本機に接続し、本機をプリアンプとして使用することができます。本機だけでは出力できない大音量で再生できるようになります。
パワーアンプを使用する場合、各スピーカーやサブウーファーはパワーアンプに接続してください。パワーアンプの音声入力端子と本機のPRE OUT端子を接続します。

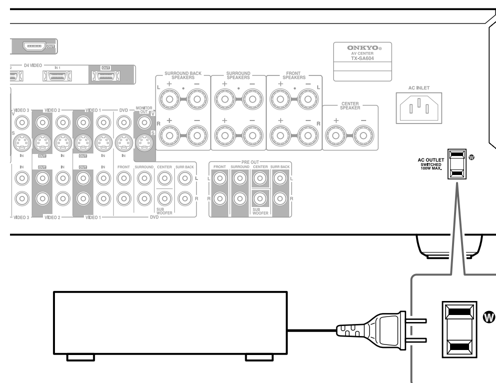


オーディオ機器の電源プラグを本機につなぐ（AC OUTLET）

本機は後面に電源コンセントがありますので、組み合わせて使用するオーディオ機器の電源プラグを差し込むことができます。本機の電源を入れると後面の電源コンセントが通電します。
RI端子付きのオンキヨー製品は、常時通電しているコンセントにつないでください。



本機の電源コンセントには、合計で100Wを超える機器は接続しないでください。



よりよい音で聞いていただくために

本機の電源コンセントは極性の管理がされています。他機の電源コードに目印がある場合は目印線側を本機の電源コンセントのⓌ側に合わせてください。他機の電源コードに目印がない場合はどちらを接続してもかまいません。

オンキヨー製品と連動させる接続

RI端子付きのオンキヨー製品にRIケーブルとオーディオ用ピンコードを接続すると、以下のような連動機能が可能です。
RIケーブルとは、オンキヨーのシステム動作用ケーブルです。（本機には付属していません）
RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。22、29、30ページを参照し、オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

ステップ1：RIケーブルを接続する

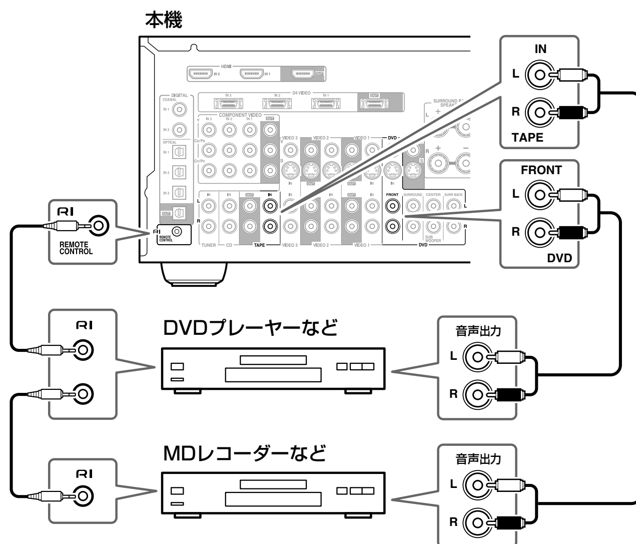
本機と、本機に接続したオンキヨー製品のRI端子を、RIケーブルで正しく接続します。

ステップ2：ピンコードを接続する

本機と、本機に接続したオンキヨー製品の音声端子をオーディオ用ピンコードで正しく接続します。

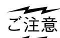
ステップ3：入力表示を切り換える

MDレコーダーやCDレコーダー、RIドックなどHDD関連機器を本機に接続した場合は、入力表示を「MD」「CDR」「HDD」に切り換えください。（☞45ページ）



オートパワーオン機能

本機がスタンバイ状態のとき、接続した機器の電源を入れたり、再生を始めると、本機の電源が自動的に入ります。また、本機の電源を切ると接続されている機器全体の電源も切れます。



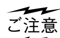
RI接続した機器の電源コードが本機の電源コンセント（AC OUTLET）に接続されている場合はこの機能は働きません。

ダイレクトチェンジ機能

RI接続されている機器を再生すると、本機の入力が自動的に切り換わります。
DVDプレーヤーのマルチチャンネル再生をする場合は、MULTI CH(マルチチャンネル)ボタンを押す必要があります。（☞53ページ）

リモコン操作機能

本機に付属のリモコンを本機のリモコン受光部に向けて、RI接続した機器を操作することができます。（☞70ページ）
DVDプレーヤー、CDプレーヤー、MDレコーダー、CDレコーダー、RIドックなどのHDD関連機器は、RI専用リモコンコードを登録してください。（☞69～72ページ）



- 製品によってはRI接続をしても一部の機能が働かないことがあります。
- チューナーのタイマー機能や、録音機器のCDダビング機能は働きません。
- システム機能については、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- RIケーブルの接続は順序の指定はありません。
- RI端子が2つある場合、2つの端子の働きは同じです。どちらにもつなげます。
- 新旧製品の連動動作の対応/非対応については、コールセンターにお問い合わせください。

RIオーディオコントロール端子付きテレビとの連動について

本機はRI端子を持つテレビと接続すると次の動作が可能になります。

① テレビの電源を入れると本機の電源も自動的に入り、入力が切り換わります。
このときテレビの音は消え、本機に接続されたスピーカーから音が出ます。また、テレビを切る（スタンバイにする）と、本機もスタンバイ状態になります。ただし、本機で他の入力を選んでいる場合は、スタンバイ状態になりません。

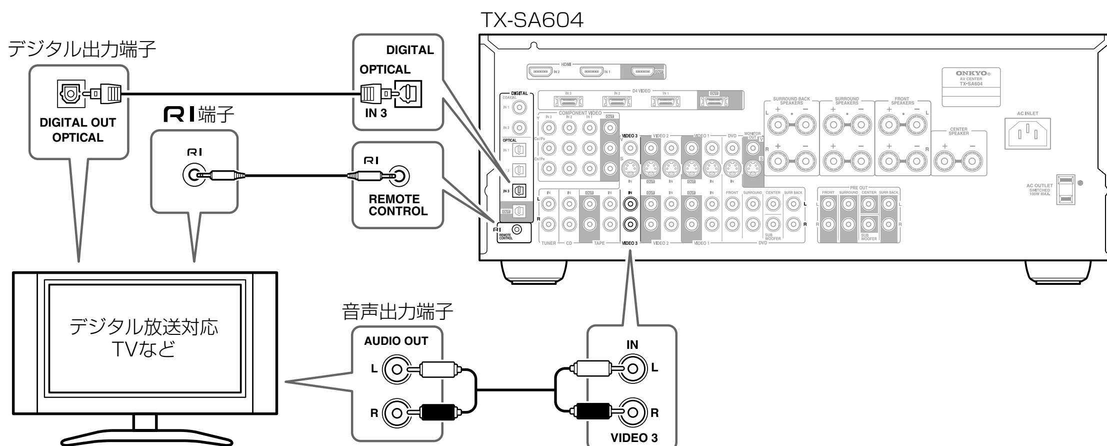
② テレビに付属のリモコンで本機の音量調整、ミューティング（消音）ができます。

③ 本機をスタンバイ状態にするとテレビの音が復帰し、テレビに付属のリモコンでテレビ側の機能（音量、消音）をコントロールできるようになります。

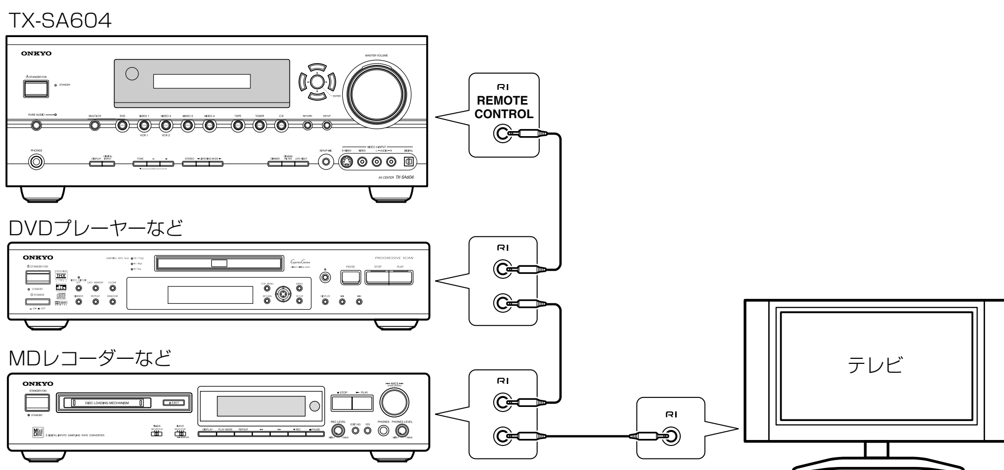
> 連動動作が可能なテレビについては、テレビのカタログや取扱説明書で、RI端子が装備されているかどうかをご確認ください。
> 本機にケーブルは付属していません。モノラルミニプラグコード（抵抗なし）を別途お求めください。

接続のしかた

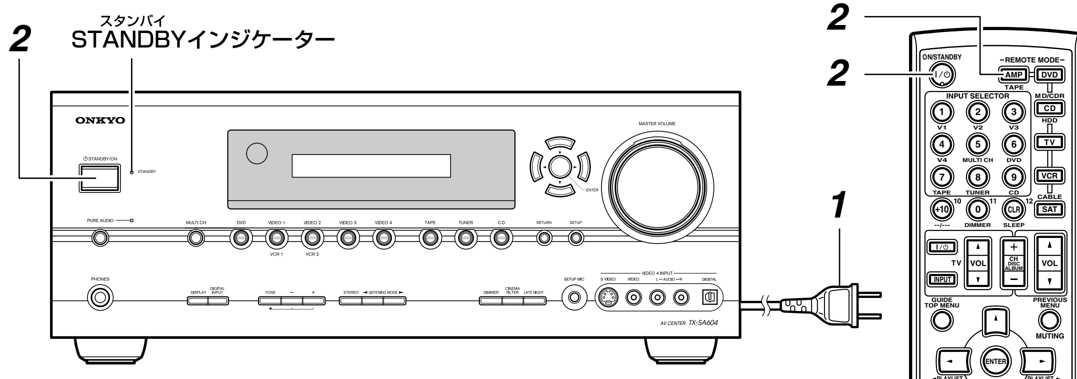
- 本機のVIDEO（ビデオ） 3音声入力（VIDEO 3 IN L/R）端子を接続する
- モノラルミニプラグコードでテレビのRIオーディオコントロール端子と本機のRI端子を接続する
- テレビの光デジタル音声出力端子と本機のDIGITAL（デジタル） IN（イン） 3（OPTICAL（オプティカル））端子と接続する
（テレビに光デジタル音声出力端子がない場合は接続する必要はありません）



- 他のオンキヨー製品を接続する場合は、RIケーブルでRI端子どうしを接続してください。
- RI端子が2つある製品の場合、2つの働きは同じですのでどちらにでも接続できます。
- RI端子の接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。



電源を入れる



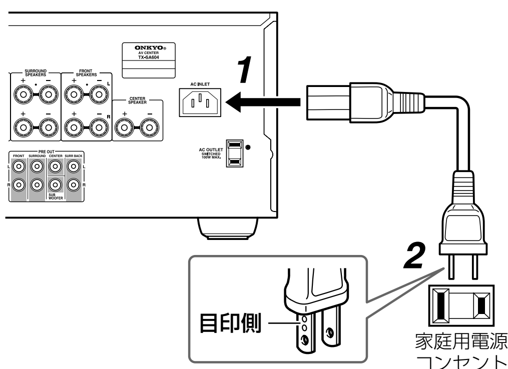
電源コードを接続する前に

すべての接続が完了していることを確認してください。本機の電源を入れると、瞬間的に大きな電流が流れてコンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。
コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめします。

1

1. 付属の電源コードを本機のAC INLETに接続する

2. 電源コードをコンセントに接続する



STANDBYインジケーターが点灯し、スタンバイ状態となります。

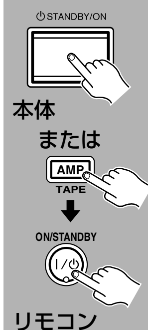
よりよい音で聞いていただくために

本機の電源コンセントは極性の管理がされています。電源プラグの目印側を家庭用電源コンセントの溝の広い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の広さが同じ場合は、聞きくらべて音の良い方向に差し込んでください。

ご注意

電源コードをコンセントから抜くときは、本機をスタンバイ状態にしてから抜いてください。

2



本体のSTANDBY/ONボタン、またはリモコンのAMPボタンを押してからON/STANDBYボタンを押す

STANDBYインジケーターが消え、表示部が点灯します。

！ヒント

スタンバイ状態のとき、本体の入力切換ボタン、MULTI CHボタンやリモコンのINPUT SELECTORボタンを押しても電源を入れることができます。

スタンバイ状態に戻すには

本体のSTANDBY/ONボタンまたはリモコンのON/STANDBYボタンを押します。

初期設定をする

スピーカー設定をする（Audyssey 2EQ機能）

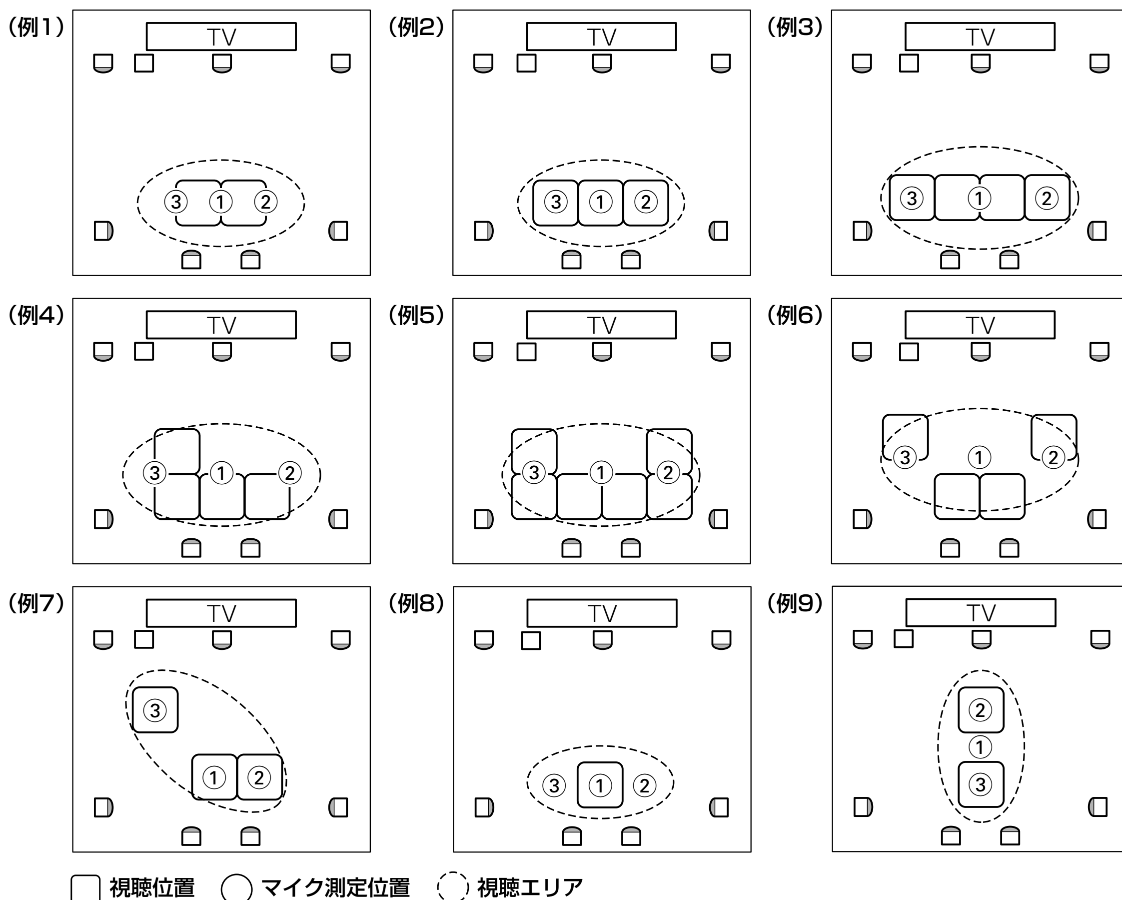
オデッセイ　ツーイーキュー

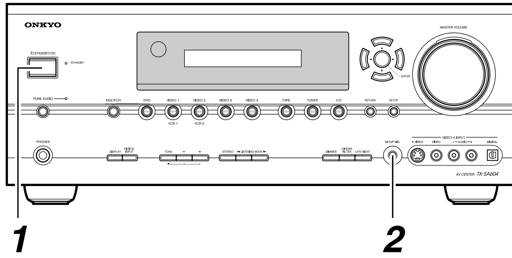
付属の測定用マイクを使って、接続したスピーカーの数、大きさ、クロスオーバー、視聴位置までの距離を測定し、お部屋の環境に最適なスピーカーの設定を自動的に行います。本機が採用しているAudyssey2EQ機能では、複数の視聴者が同時にホームシアターを楽しむ際の最適な視聴エリアを設定するため、視聴エリア内の3つの視聴位置で測定し、測定結果を処理します。設定の前に使用するすべてのスピーカーの接続と設置を行ってください。

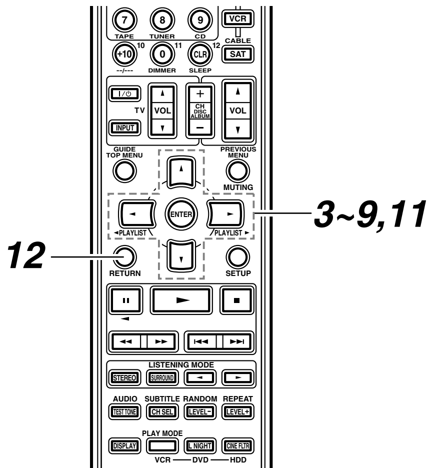
測定のしかた

測定位置は視聴エリア内の3箇所です。下図をご参考に測定用マイクを置く位置をご確認ください。具体的な操作手順については、次ページをご覧ください。

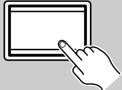
① 最初に測定する位置です。視聴エリアの中心、または1人で視聴するときに座る位置です。
② 2番目に測定する位置です。視聴エリアの右側にあたる位置です。
③ 3番目に測定する位置です。視聴エリアの左側にあたる位置です。
①と②、①と③の間は、1m程度またはそれ以上はあけるようにしてください。
- すべての測定が終了するまで約10分程度かかります。







1



本機の電源を入れ、接続したテレビの電源を入れる

テレビの入力を本機を接続した入力に切り換えてください。

2

付属の測定用マイクを視聴位置に設置してから、マイクのプラグを本機のSETUP（セットアップ） MIC（マイク）端子に接続する

36ページの「測定のしかた」の図を参考に、①の位置にマイクを置いてください。
テレビに下記の画面が表示されます。

```
Auto Speaker Setup
=============================
Please place microphone
at center of listening
area at ear height.

Push Enter : Next
```

（視聴位置の中央にマイクを置いてください。ENTER（エンター）ボタンを押すと測定を開始します。）

ご注意

- マイクは水平に置いてください。
- それぞれのスピーカーからマイクの間に障害物があると、正しく設定できません。通常の視聴時と同じ環境にしてください。
- MUTING（ミューティング）機能が設定されていると、ミューティングは解除されます。

！ヒント

視聴するときの耳に近い位置にマイクを設置すると、正確に設定できます。三脚や水平な台を使用すると高さを調節できます。

3



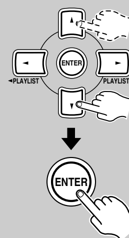
ENTER（エンター）ボタンを押す

自動スピーカー設定が始まります。
接続したスピーカーからテスト音を出しながらマイクで測定します。完了するまで数分かかります。

```
Auto Speaker Setup
=============================
Do not unplug Setup Mic.
Please , keep quiet.
Now measuring...
```

（マイクを抜かないでください。静かにしてしばらくお待ちください。現在測定中です。）

4



現在のスピーカーの接続状況が表示されるので、希望の項目を▲/▼ボタンで選び、ENTERボタンを押す

```
Auto Speaker Setup
=============================
----SP Detect Result----
FL:Yes     FR:Yes
SL:Yes     SR:Yes
SBL:Yes    SBR:Yes
C:No       SW:Yes
--------------------------
Next
Retry
Cancel
```

接続されているスピーカーは「Yes（イエス）」、接続されていないスピーカーは「No（ノー）」と表されます。
実際の接続とあっていれば▲/▼ボタンで「Next（ネクスト）」を選び、ENTERボタンを押してください。

Next（ネクスト）：次に進みます。（手順***5***）
Retry（リトライ）：測定をやり直します。
Cancel（キャンセル）：結果をキャンセルして終了します。

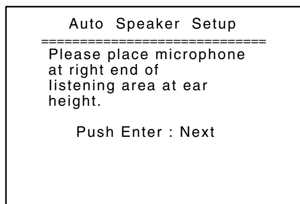
次ページに続く

5



手順4で「Next」を選びENTERボタンを押すと以下の画面が表示されるので、マイクを視聴エリアの右側に置きENTERボタンを押す

36ページの「測定のしかた」の図を参考に、②の位置にマイクを置いてください。
完了するまで数分かかります。



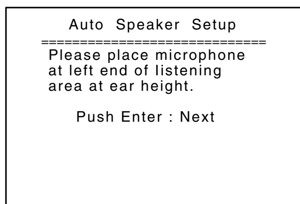
（視聴位置の右側にあたる場所にマイクを置いてください。ENTERボタンを押すと測定を開始します。）

6



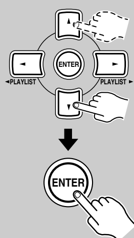
測定が終わると以下の画面が表示されるので、マイクを視聴エリアの左側に置きENTERボタンを押す

36ページの「測定のしかた」の図を参考に、③の位置にマイクを置いてください。
完了するまで数分かかります。

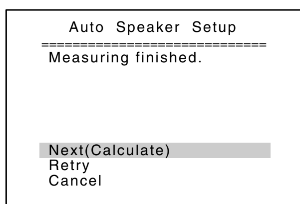


（視聴位置の左側にあたる場所にマイクを置いてください。ENTERボタンを押すと測定を開始します。）

7



測定が終わると以下の画面が表示されるので、▲/▼ボタンで希望の項目を選び、ENTERボタンを押す

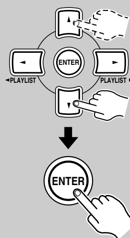


Next (Calcurate)：
測定結果を計算して次に進みます。完了するまで数分かかります。

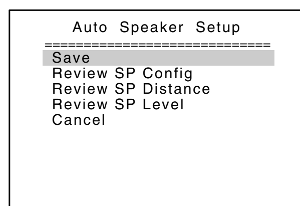
Retry：再度測定します。

Cancel：結果をキャンセルして終了します。

8



手順7で「Next」を選ぶと以下の確認画面が表示されるので、▲/▼ボタンで希望の項目を選び、ENTERボタンを押す



Save：計算結果を保存して終了します。

Review SP Config：
スピーカーコンフィグの結果を表示します。（「測定結果を確認するには」をご覧ください。☞39ページ）

Review SP Distance：
スピーカーディスタンスの結果を表示します。（「測定結果を確認するには」をご覧ください。☞39ページ）

Review SP Level：
スピーカーレベルの結果を表示します。（「測定結果を確認するには」をご覧ください。☞39ページ）

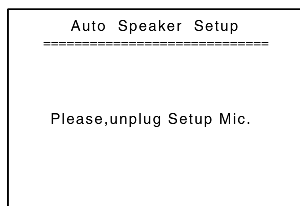
Cancel：
結果をキャンセルして終了します。

9



手順8で「Save」を選びENTERボタンを押すと測定が終了するのでマイクのプラグを抜く

下記の画面が表示されます。



（マイクを抜いてください。）

- 測定が完了すると「スピーカーの音場補正」は、「Audyssey」に設定されます。(☞64ページ)

測定結果を確認するには

10

手順**8**で「Review SP Config」、「Review SP Distance」または「Review SP Level」を選ぶと確認画面が表示されます。

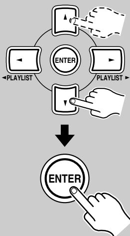
```
Auto  Speaker  Setup
============================
Save
Review SP Config
Review SP Distance
Review SP Level
Cancel
```

Review SP Config：
スピーカーコンフィグの結果を表示します。

Review SP Distance：
スピーカーディスタンスの結果を表示します。

Review SP Level：
スピーカーレベルの結果を表示します。

11



▲/▼ボタンで確認したい項目を選び、ENTERボタンを押す

測定された内容が表示されます。

- RETURNボタンを押すと、1つ前の画面に戻ります。

Review SP Config画面

```
Auto  Speaker  Setup
============================
Review SP Config

Subwoofer        :Yes
Front            :FullBand
Center           :80Hz
Surround         :100Hz
Surr Back        :150Hz
SurrBack ch      :2ch
```

Review SP Distance画面

```
Auto  Speaker  Setup
============================
Review SP Distance

Front            : 3.6m
Center           : 3.6m
Surr Right       : 2.1m
Surr Back R      : 2.1m
Surr Back L      : 2.1m
Surr Left        : 2.1m
Subwoofer        : 3.6m
```

Review SP Level画面

```
Auto  Speaker  Setup
============================
Review SP Level

Left           :  +12dB
Center         :    0dB
Right          :  -12dB
SurrRight      :   +3dB
SurrBack R     :   +4dB
SurrBack L     :   -6dB
SurrLeft       :   -3dB
Subwoofer      :    0dB
```

12



内容を確認したらRETURNボタンを押して、前項の手順*8*の画面に戻る

```
Auto  Speaker  Setup
============================
Save
Review SP Config
Review SP Distance
Review SP Level
Cancel
```

■測定途中に表示されるエラーメッセージについて

Ambient noise is too high
測定環境の雑音が大きすぎて測定できません。雑音の原因を取り除いてください。
Retry：再度測定します。（手順**2**に戻る）
Cancel：結果をキャンセルして終了します。

Speaker Detect Error!
- フロントスピーカーが検出できません。
- サラウンドスピーカーがひとつしか検出できません。
- サラウンドバックスピーカーが検出されているのに、サラウンドスピーカーが検出できません。
- 右サラウンドバックスピーカーが検出されているのに、左サラウンドバックスピーカーが検出できません。

検出できないスピーカーが正しく接続されているか確認してください。
Retry：再度測定します。（手順**2**に戻る）
Cancel：結果をキャンセルして終了します。

ご注意

使用環境によっては、正しく測定されないことがあります。再測定しても結果に変更がない場合は、手動でスピーカー設定を行ってください。（☞60～64ページ）

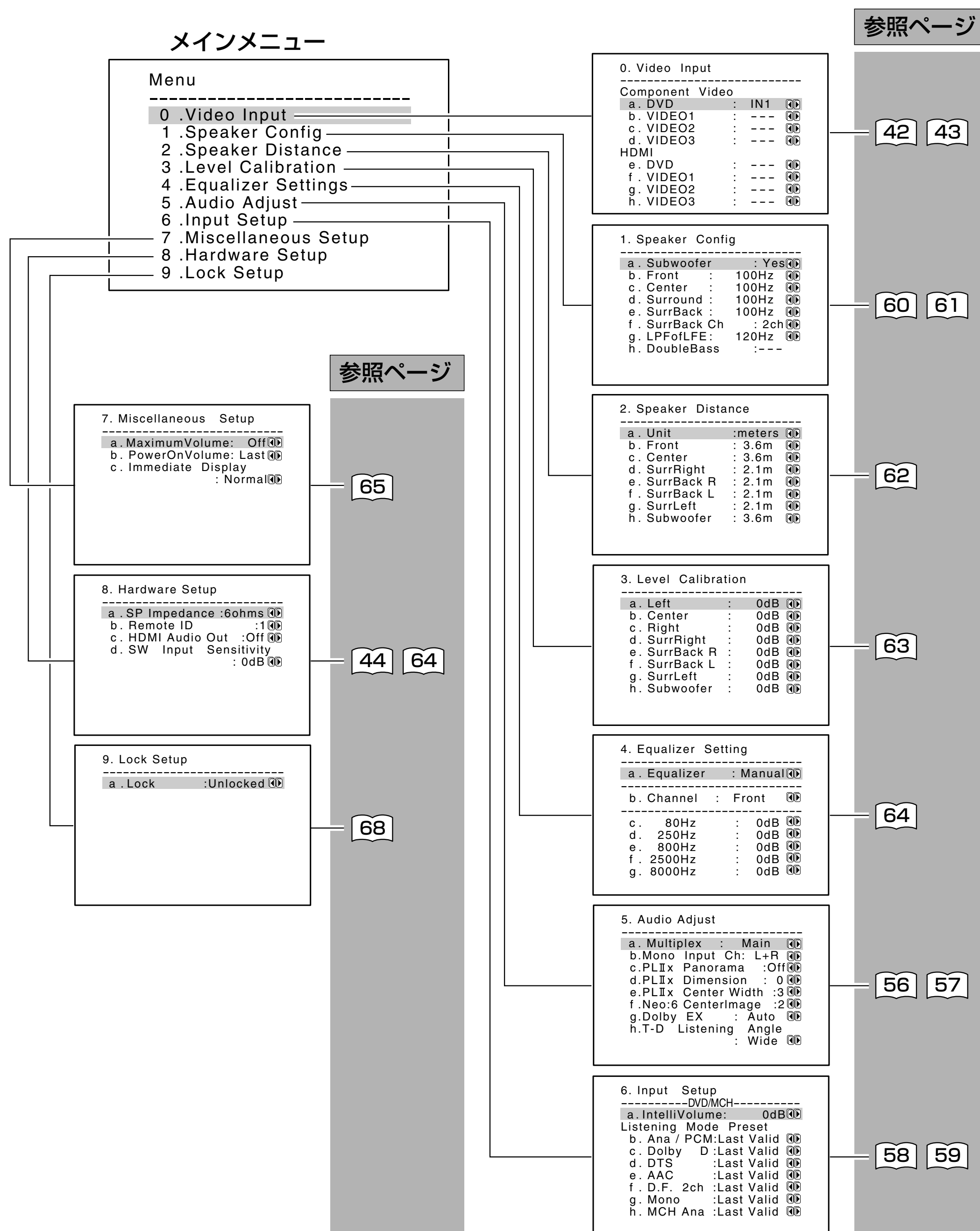
!ヒント

サブウーファーを接続している場合
サブウーファーの音声は、超低域で低い位置から出力されるために、自動スピーカー設定で認識されない場合があります。
測定結果を確認する画面（「SP Detect Result」）で、サブウーファー（SW）が「No」に設定されるときは、サブウーファーの音量を上げ、周波数を最大にした状態で再度測定してください。ただし、音量を上げすぎている（音が割れているような状態）場合も認識されませんので、適切な音量に調節してください。また、カットオフフィルター切換スイッチがある場合は、「DIRECT」の状態にしてご使用ください。詳しくは、サブウーファーの取扱説明書をご覧ください。

初期設定をする

OSDマップ

OSDとはOn Screen Display（オン スクリーン ディスプレイ）の略で、本機での設定や操作内容を接続したテレビなどのモニターに大きく表示して操作をしやすくする機能です。自動スピーカーの設定が完了したら、OSDで各設定を行ってください。

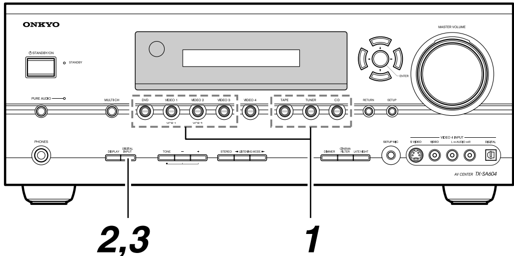


入力の設定をする

デジタル入力端子の設定

デジタル端子の接続は、ドルビーデジタルやDTSのリスニングモードを楽しむために必要です。各デジタル入力端子は、初期設定で以下の表のようにそれぞれの機器に割り当てられています。

- 接続した機器がデジタル入力端子の初期設定と異なる場合は、設定を変更する必要があります。
- 初期設定でデジタル端子が設定されている機器とアナログ接続のみをしたとき、設定を「――――」にする必要があります。



入力	デジタル入力端子の初期設定
DVD	OPT 1
VIDEO 1	OPT 2
VIDEO 2	――――
VIDEO 3	OPT 3
TAPE	――――
TUNER	――――
CD	――――

- 42ページでHDMI端子を割り当てた入力には、本設定にも自動的にHDMI端子が割り当てられます。また、この入力に他のデジタル音声入力を割り当てることもできます。

1 入力切換ボタンで割り当てたい入力を選ぶ

DVD VIDEO 1 VIDEO 2 VIDEO 3
VCR 1 VCR 2
TAPE TUNER CD

2 DIGITAL（デジタル） INPUT（インプット）ボタンを押す

DIGITAL INPUT

現在の設定が表示されます。

```
DVD          :OPT 1
```

VIDEO 4はフロントパネルのOPTデジタル入力として固定されているため、設定できません。

3 DIGITAL INPUTボタンを（くり返し）押して「接続した端子」を選ぶ

DIGITAL INPUT

例: 本機後面のOPTICAL（オプティカル） 2端子にCDプレーヤーを接続した場合

CDのデジタル入力端子の初期設定は「――――」(アナログ)のため、「OPT2」に設定を変更します。

DVDプレーヤーとアナログ接続のみをした場合

DVDのデジタル入力端子の初期設定はOPT 1のため、「――――」に設定を変更します。

ボタンを押すたびに以下のように表示が切り換わります。

- ―――― ：デジタル機器をデジタル入力端子に接続していない場合に選びます。
- ↓ COAX（コアキシャル） 1 ：デジタル機器をCOAXIAL（コアキシャル） 1端子に接続している場合に選びます。
- ↓ COAX（コアキシャル） 2 ：デジタル機器をCOAXIAL（コアキシャル） 2端子に接続している場合に選びます。
- ↓ OPT（オプティカル） 1 ：デジタル機器をOPTICAL（オプティカル） 1端子に接続している場合に選びます。
- ↓ OPT（オプティカル） 2 ：デジタル機器をOPTICAL 2端子に接続している場合に選びます。
- ↓ OPT（オプティカル） 3 ：デジタル機器をOPTICAL 3端子に接続している場合に選びます。
- ↓ HDMI* ：デジタル機器をHDMI端子に接続している場合に選びます。

約3秒後に元の表示に戻り、設定が完了します。

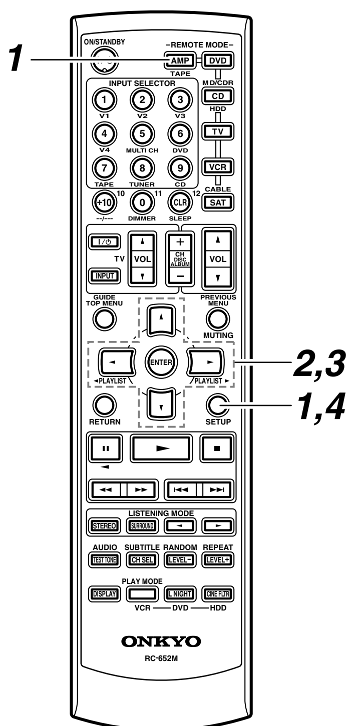
＊42ページでHDMI端子を設定した入力に、そのHDMI端子を割り当てることができます。

HDMI入力端子の設定

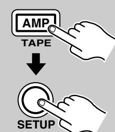
HDMI IN 1/2端子に、HDMI出力端子のあるDVDプレーヤーなどを接続しているときに設定します。

たとえば、DVDプレーヤーを本機のHDMI IN 1端子に接続したときは、DVDに「IN 1」を割り当ててください。
DVD、VIDEO1から3までの各入力に設定できます。

- HDMI IN 1またはIN 2を設定した入力のデジタル入力端子設定には、自動的に「HDMI 1」または「HDMI 2」デジタル入力が割り当てられます。(☞41ページ)

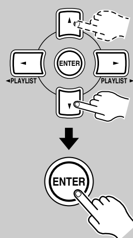


1



AMPボタンを押してから SETUPボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

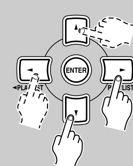


▲/▼ボタンを押して「0. Video Input」を選び、ENTERボタンを押す

```
0. Video  Input
----------------------------
Component  Video
  a. DVD        :   IN1
  b. VIDEO1     :   ---
  c. VIDEO2     :   ---
  d. VIDEO3     :   ---
HDMI
  e. DVD        :   ---
  f. VIDEO1     :   ---
  g. VIDEO2     :   ---
  h. VIDEO3     :   ---
```

設定画面が表示されます。

3



▲/▼ボタンを押して「設定する入力」を選び、◀/▶ボタンで設定を選ぶ

IN1：
映像機器をHDMI IN1端子に接続した場合に選びます。

IN2：
映像機器をHDMI IN2端子に接続した場合に選びます。

－－－：
VIDEO/S VIDEO/D4/COMPONENT VIDEO端子から入力された映像信号を、HDMI端子から出力します。HDMI出力されるのは、Component Video設定で設定された映像入力です。(☞43ページ)

4



SETUPボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

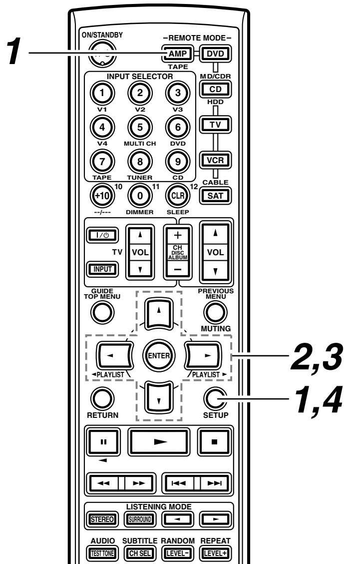
！ヒント

本体のSETUPボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、ENTERボタンでも操作することができます。

コンポーネントビデオ端子の設定

D4 VIDEO OUT端子またはCOMPONENT VIDEO OUT端子にテレビなどのモニターを接続しているときに設定します。
ここで設定した映像入力端子からの映像が、D4 VIDEO OUT端子またはCOMPONENT VIDEO OUT端子から出力されます。
入力ソースごとに設定できます。

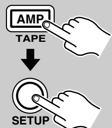
入力ソース	映像入力端子の初期設定
DVD	IN 1
VIDEO 1	―――
VIDEO 2	―――
VIDEO 3	―――



ご注意

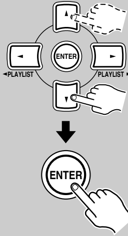
この設定をIN1、IN2またはIN3にしているときは、VIDEOからS VIDEOまたはS VIDEOからVIDEOへの変換機能は働きません。

1



AMPボタンを押してからSETUPボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

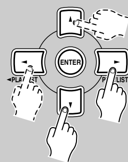


▲/▼ボタンを押して「0. Video Input」を選び、ENTERボタンを押す

```
0. Video  Input
---------------------------
Component  Video
  a. DVD          :   IN1
  b. VIDEO1       :   ---
  c. VIDEO2       :   ---
  d. VIDEO3       :   ---
HDMI
  e. DVD          :   ---
  f. VIDEO1       :   ---
  g. VIDEO2       :   ---
  h. VIDEO3       :   ---
```

設定画面が表示されます。

3



▲/▼ボタンを押して「設定する入力ソース」を選び、◀/▶ボタンで設定を選ぶ

IN1：
映像機器をD4 VIDEO IN1端子またはCOMPONENT VIDEO IN1端子に接続した場合に選びます。

IN2：
映像機器をD4 VIDEO IN2端子またはCOMPONENT VIDEO IN2端子に接続した場合に選びます。

IN3：
映像機器をD4 VIDEO IN3端子またはCOMPONENT VIDEO IN3端子に接続した場合に選びます。

―――：
映像機器をVIDEOまたはS VIDEO端子に接続した場合に選びます。

4



SETUPボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

本体のSETUPボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、ENTERボタンでも操作することができます。

- VIDEO4は「―――」固定です。

初期設定をする

スピーカーインピーダンスの設定をする

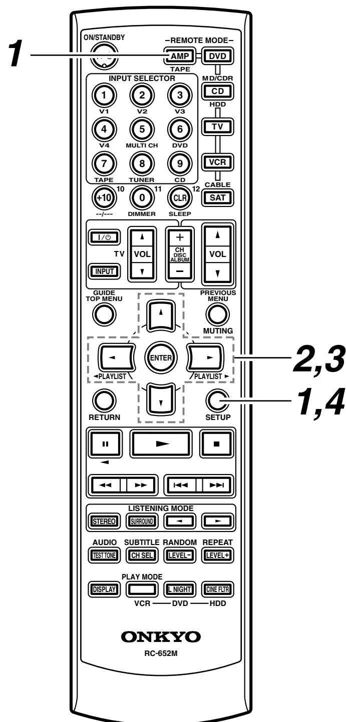
スピーカーインピーダンスの設定

この項目は自動スピーカー設定（☞36ページ）では自動設定されていません。

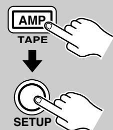
接続したスピーカーのインピーダンス（Ω）を設定します。接続したスピーカーの中に１台でも4Ω以上6Ω未満のスピーカーがある場合はここで設定してください。
ご使用になるスピーカーの背面や取扱説明書でインピーダンス（Ω）をご確認ください。

ご注意

設定を変更するときは、必ず本機の音量を最小にしてください。

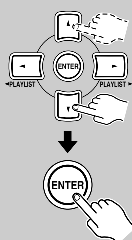


1



AMPボタンを押してから
SETUPボタンを押して、
「メインメニュー」を表示させる

2

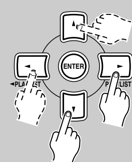


▲/▼ボタンを押して
「8. Hardware Setup」を選び、
ENTERボタンを押す

```
8. Hardware Setup
----------------------------
a . SP Impedance :6ohms
b . Remote ID
c . HDMI Audio Out   :Off
d . SW   Input   Sensitivity
                      : 0dB
```

設定画面が表示されます。

3



▲/▼ボタンを押して
「SP Impedance」を選び、
◀/▶ボタンを押して
「4 ohms」または「6 ohms」を選ぶ

4 ohms：接続したスピーカーの中に１台でも4Ω以上6Ω未満のスピーカーがある場合に選択します。

6 ohms：接続したスピーカーがすべて6Ω以上の場合に選択します。

4



SETUPボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

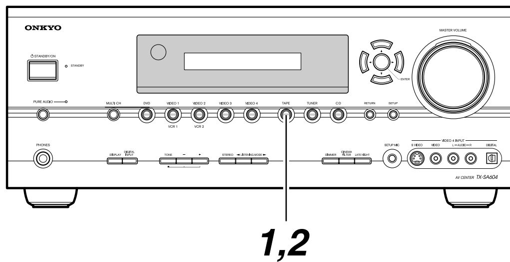
本体のSETUPボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、ENTERボタンでも操作することができます。

入力表示を切り換える

オンキヨー製のRI端子付きMDレコーダーやCDレコーダー、RIドックなどのHDD関連機器を本機のTAPE端子やVIDEO 3端子に接続した場合は、ダイレクトチェンジなどのシステム動作を正しく行うために、接続した機器に合わせて入力表示を切り換える必要があります。

■入力切換ボタン「TAPE」の表示内容を切り換える

TAPE端子に、オンキヨー製のRI端子付きMDレコーダー、CDレコーダー、RIドックなどHDD関連機器のいずれかを接続した場合



1,2

1



入力切換ボタンの「TAPE」を押し、表示部に「TAPE」を表示させる

TAPE

2



TAPEボタンを約3秒押し続けて、表示を切り換える

MD

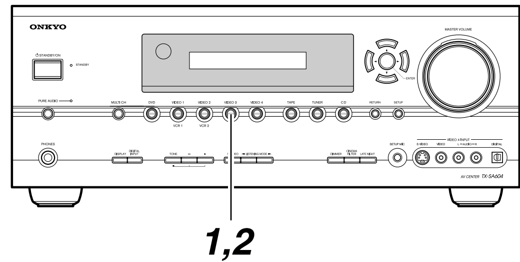
CDR

HDD

この手順をくり返すと「TAPE」→「MD」→「CDR」→「HDD」→「TAPE」と表示が切り換わります。

■入力切換ボタン「VIDEO 3」の表示内容を切り換える

VIDEO 3端子に、オンキヨー製のRIドックなどHDD関連機器を接続した場合



1,2

1



入力切換ボタンの「VIDEO 3」を押し、表示部に「VIDEO 3」を表示させる

VIDEO3

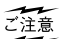
2



VIDEO 3ボタンを約3秒押し続けて、表示を切り換える

HDD

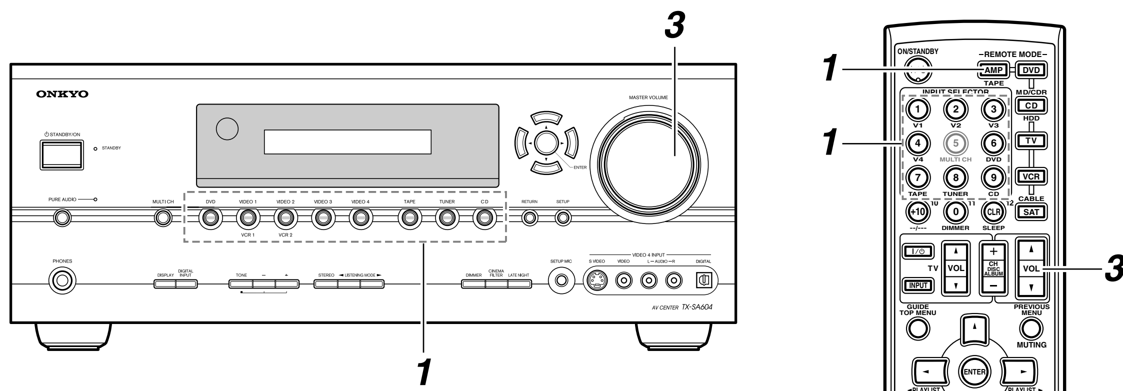
この手順をくり返すと「VIDEO 3」→「HDD」→「VIDEO 3」と表示が切り換わります。



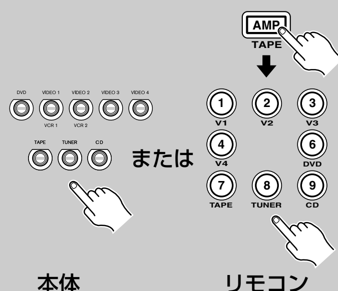
「HDD」は、「TAPE」または「VIDEO 3」のどちらか片方でしか表示できません。どちらかで「HDD」の表示に切り換えたときは、もう片方では切り換えることができません。

映画・音楽を鑑賞する（基本編）

接続した機器を再生する



1



再生する機器を選ぶ

本体の入力切換ボタンを押します。または、リモコンのAMPボタンを押してからINPUT SELECTORボタンを押します。

！ヒント

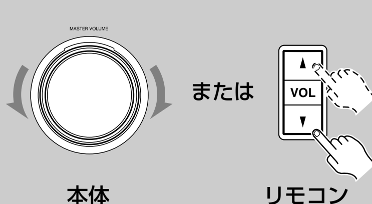
リモコンのV1、V2、V3、V4ボタンは、VIDEO 1、VIDEO 2、VIDEO 3、VIDEO 4を表しています。

2

選んだ機器の再生を始める

映像機器を再生する場合は、テレビなどモニターの入力を切り換える必要があります。
また、DVD対応のゲーム機などの再生機器で音声出力設定が必要な場合もあります。

3



本体のMASTER VOLUMEつまみ、またはリモコンのVOLUME▲/▼ボタンで音量を調整する

音量は基本的にMin・1・2‥‥98・99・Maxまでの範囲で調整できます。

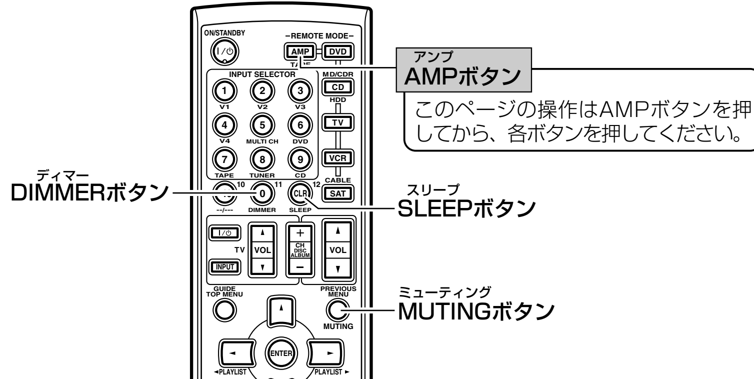
！ヒント

本機はホームシアターでお楽しみいただく製品ですので、ボリューム値を細かく設定できるように音量幅を大きく持たせています。お好みで調整してください。

4

リスニングモードを楽しむ

詳しくは48ページをご覧ください。



一時的に音量を小さくする



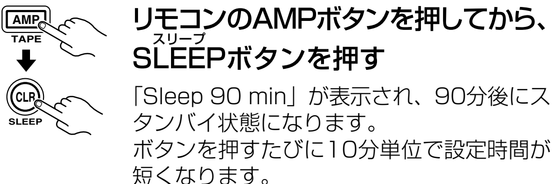
リモコンのAMPボタンを押してから、MUTINGボタンを押す

表示部に「MUTING」が点滅します。
DVDモードのときでも使用できます。

■解除するには

もう一度MUTINGボタンを押してください。
（音量を変えたり、STANDBYボタンを押した場合にも解除されます。）

スリープタイマーを使う



リモコンのAMPボタンを押してから、SLEEPボタンを押す

「Sleep 90 min」が表示され、90分後にスタンバイ状態になります。
ボタンを押すたびに10分単位で設定時間が短くなります。

- スリープタイマー設定中はSLEEPインジケーターが点灯します。

■残り時間を確認するには

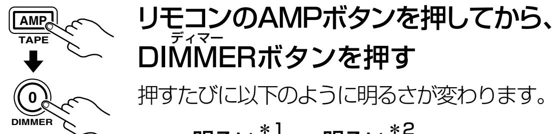
スリープタイマーが予約されているときにSLEEPボタンを押すと、スタンバイ状態になるまでの残り時間が表示されます。ただし、残り時間が10分以下のときに再びSLEEPボタンを押すと、スリープタイマーは解除されます。

■スリープタイマーを解除するには

SLEEPインジケーターが消えるまで、くり返しSLEEPボタンを押すか、一度スタンバイ状態にしてから再度電源を入れるとスリープタイマーは解除されます。

表示部の明るさを変える

表示部の明るさを変えることができます。本体のDIMMERボタンでも操作できます。



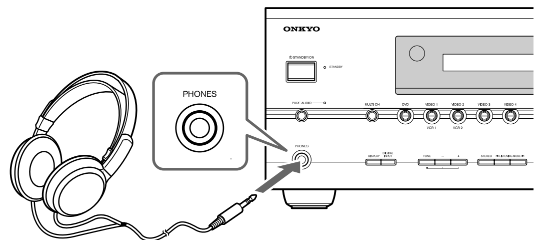
リモコンのAMPボタンを押してから、DIMMERボタンを押す

押すたびに以下のように明るさが変わります。

明るい＊1 → 明るい＊2
↑ ↓
暗い＊2 ← やや暗い＊2

＊1 MASTER VOLUMEつまみのまわりのライトが点灯
＊2 MASTER VOLUMEつまみのまわりのライトが消灯

ヘッドホンで聞く

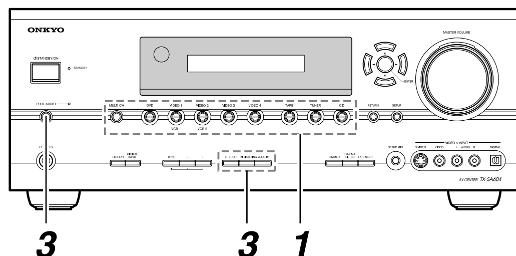


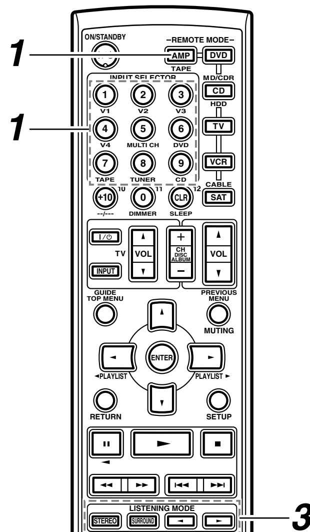
PHONES端子にヘッドホンのステレオ標準プラグを接続する

- 接続する時は音量を下げてください。
- ヘッドホン使用中はスピーカーからの音が消えます。
- 「Pure Audio」、「Mono」または「Direct」以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続すると自動的に「Stereo」になります。
- ヘッドホン接続時は、「Pure Audio」、「Mono」、「Direct」または「Stereo」のリスニングモードが選択できます。
- マルチチャンネル入力を選んでいるときは、左右フロントチャンネルの音声のみ聞こえます。
- ヘッドホンレベルを調整するには、リモコンのCH SELボタンを押して、LEVEL＋/－ボタンを押します。
  －12dB～＋12dBの範囲で調整できます。スタンバイ状態にしても設定を記憶しています。

リスニングモードを使う（基本編）

リスニングモードを選ぶ





本体のボタンで選ぶ

1 入力切換ボタンを押して、再生する機器を選ぶ

2 選んだ機器を再生する

3 STEREOボタン、LISTENING MODE◀/▶ボタンまたはPURE AUDIOボタンでリスニングモードを選ぶ

STEREO
または
LISTENING MODE
または
PURE AUDIO

STEREO：
リスニングモードを「Stereo」に切り換えます。

LISTENING MODE◀/▶：
対応できるすべてのリスニングモードに切り換えます。

PURE AUDIO：
リスニングモードを「Pure Audio」に切り換えます。Pure Audioオインジケーターが点灯します。
このモードでは、表示部が消灯します。また、ビデオ回路の電源を切るため、HDMI入力された映像以外は出なくなります。

リモコンで選ぶ

1 AMPボタンを押してから入力切換ボタンを押して、再生する機器を選ぶ

2 選んだ機器を再生する

3 STEREOボタン、LISTENING MODE◀/▶ボタンまたはSURROUNDボタンを押してリスニングモードを選ぶ

SURROUND：
Dolby DigitalやDTSのリスニングモードに切り換えます。

STEREO：
リスニングモードを「Stereo」に切り換えます。

LISTENING MODE◀/▶：
対応できるすべてのリスニングモードに切り換えます。

入力信号の種類と対応するリスニングモード

リスニングモード ＼ 入力信号の種類と主なソース		PCM[*1]またはアナログ	Dolby Digital 3/2.1 2/2.1	Dolby Digital 2/0	Dolby Digital 1/0,1+1	Dolby Digital その他	DTS/DTS 96/24[*2] 3/2.1 2/2.1	DTS/DTS 96/24[*2] 2/0	DTS/DTS 96/24[*2] DTS-ES (Discrete / Matrix)	AAC 3/2.1 2/2.1	AAC 2/0	AAC 1/0,1+1	AAC その他	マルチチャンネル[*6]
		CD ビデオ ラジオ テレビなど	DVD、ビデオなど				DVD、ビデオ、CDなど			地上/BS/110˚CS デジタル放送				DVD
Pure Audio Direct		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Stereo		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
Mono		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
Multich														●
PLIIx Movie/Music/Game[*3] Neo:6 Cinema Neo:6 Music		●		●				●			●			
AAC	AAC									●			●	
AAC	AAC+Neo:6 AAC+Dolby EX AAC+PLIIx Music									●				
AAC	AAC+PLIIx Movie									●				
Dolby	Dolby Digital		●			●								
Dolby	Dolby D+Neo:6 Dolby D EX Dolby D+PLIIx Music		●											
Dolby	Dolby D+PLIIx Movie		●											
DTS	DTS, DTS 96/24						●		●*5					
DTS	DTS-ES Discrete								● (Discrete)					
DTS	DTS-ES Matrix								● (Matrix)					
DTS	DTS+Neo:6 DTS+Dolby EX DTS+PLIIx Music						●							
DTS	DTS+PLIIx Movie						●							
オンキヨー独自のリスニングモード	Mono Movie[*4] Orchestra[*4] Unplugged[*4] Studio-Mix[*4] TV Logic[*4] All Ch Stereo Full Mono Theater-Dimensional	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	

*1 Pure AudioとDirectのとき、PCMでサンプリング周波数が32、44.1、48kHzの場合はそれぞれ64、88.2、96kHzとして処理されます。また、サンプリング周波数が64、88.2、96kHzの場合、Pure Audio, Direct、Stereo以外では32、44.1、48kHzとして処理されます。HDMI入力した176.4/192kHzのPCM信号は、Pure Audio、Direct、Stereoのリスニングモードのみ選べます。
*2 Pure Audio, Direct、Stereo、DTS96/24のときは、DTS96/24として処理されます。これら以外では、通常のDTSとして処理されます。
*3 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、PLIIになります。
*4 サラウンドスピーカーを接続していない場合は、選べません。
*5 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、DTSになります。
*6 マルチチャンネルPCMにも対応しています。

サラウンドバックスピーカーを1つ以上接続しているときに選べます。（6.1または7.1チャンネル再生時）

左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選べます。（7.1チャンネル再生時）

！ヒント

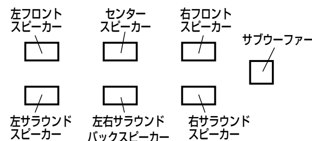
入力信号の種類は、DISPLAY（ディスプレイ）ボタンを押して表示部で確認することができます。（☞54ページ）
AACなどで多重音声の場合は57ページのMultiplex（マルチプレックス）の設定で主音声または副音声を選択します。

リスニングモードを使う（基本編）

リスニングモードの種類について

本機のリスニングモードを使うと､お部屋にいながら映画館やコンサートホールなどの臨場感あふれる雰囲気を味わって頂けます。本機には以下のリスニングモードがあります。

下のイラストは、そのリスニングモード時に出力されるスピーカーを表します。



Direct
もともとの音源に手を加えない、ピュアな音をお楽しみいただけます。入力ソースのチャンネルのまま音声を出力します。

Pure Audio
Directモードに加え、表示部を消してビデオ回路の電源を切り、ノイズの発生源をできるだけ最小限にすることで、より原音に忠実な音楽再生を行います。（ビデオ回路の電源を切るため、HDMI入力以外の映像が出なくなります。）

Stereo
左右フロントスピーカーとサブウーファーから出力されます。

Mono
モノラル信号で収録された古い映画を再生したり、2言語が記録されているソースを左右のチャンネルを独立して再生するモードです。DVDなどに記録された音声多重のサウンドトラックに適しています。

Dolby Pro Logic IIx
2チャンネルで収録された音楽や映画を6.1から7.1チャンネルで再生できます。
明瞭なサウンドはそのままに、かってないほど自然でなめらかなサラウンド体験が得られます。CDや映画に加えて、ゲームソフトの再生もドラマチックな空間演出、鮮明な音像定位などが得られます。
5.1チャンネルで収録された音楽や映画を7.1チャンネルで再生できます。

- PL IIx Movie
  VHSやDVDビデオ、またはテレビ番組再生時に楽しむことができます。
- PL IIx Music
  CDなどのステレオ音楽や、ライブを記録したDVDに適しています。
- PL IIx Game
  ゲームディスクを楽しむときに使用できます。

Dolby Pro Logic II
サラウンドバックスピーカーを接続していないときは、Dolby Pro Logic IIxのかわりに、このリスニングモードになります。
2チャンネルで収録された音楽や映画を5.1チャンネルで再生できます。

Dolby Digital
劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれるサウンドが体験できるサラウンドモードです。マークのついたDVD、LDなどの再生時に楽しむことができます。

Dolby Digital EX/Dolby EX
5.1チャンネルで収録された音楽や映画を6.1/7.1チャンネルで再生できます。
5.1チャンネルに背面のサラウンドチャンネルを増やし、6.1/7.1チャンネルにすることで、より空間表現力を高め、360度の回転や頭上を通過するような移動音効果をリアルに体感できます。サラウンドバックチャンネルの音声は左右サラウンドチャンネルに振り分けられるため、通常の5.1チャンネル環境で再生することも可能です。5.1チャンネルで記録された マークのついたDVD、LDの再生時はDolby Digital EXとなり、その他のソースではDolby EXとなります。

DTS
完全に分離させた5.1チャンネルで膨大となる音声データを、可能な限り原音に近い状態で圧縮したデジタルデータです。再生するにはDTS出力が可能なDVDプレーヤーが必要です。マークのついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

DTS 96/24
マークのついたCD、DVD、LDなどに使用できるリスニングモードです。きめ細やかな音声をお楽しみいただけます。

DTS-ES Discrete
DTSにサラウンドバックを追加した、6.1/7.1チャンネルサラウンドです。
追加されたサラウンドバックチャンネルを含めてすべてのチャンネルが完全に独立してデジタル記録されているため、立体感、移動感などがより鮮明に再現できます。
のついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

DTS-ES Matrix
DTS-ES収録ソフトを6.1/7.1チャンネル再生します。
DTS-ES収録ソフトにはサラウンドバックチャンネルの情報も組み込まれているため、それぞれのチャンネルを6.1/7.1チャンネルに復元して再生します。
マークのついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

DTS Neo（ネオ）：6

2チャンネルで収録されたソースを5.1/6.1/7.1チャンネルで再生するモードです。すべてのチャンネルに広い周波数帯域が確保され、チャンネル間の独立性も優れています。
映画に最適なCinema（シネマ）モードと音楽再生に最適なMusic（ミュージック）モードが選択できます。

5.1チャンネルで収録されたdtsマークのついたDVDやCDの再生時はNeo：6となり、6.1/7.1チャンネルで再生します。

- Neo：6 Cinema（シネマ）
  リアルで移動感にあふれたサラウンドが再現され、2チャンネルのVHSやDVDビデオ、テレビ番組に適しています。
- Neo：6 Music（ミュージック）
  サラウンドチャンネルを使用することで通常の2チャンネル出力では得られない自然な音場を生み出します。2チャンネルで収録されたCDなどに適しています。

AAC

MPEG（エムペグ）-2 AAC方式で圧縮されたデジタルデータで、最大5.1チャンネルのサラウンド音声を提供します。
地上デジタル、BS/CSデジタル放送などのAACソースを再生するために使用します。

Multich（マルチチャンネル）

アナログのマルチチャンネル接続やHDMI接続をしているときに使用できるリスニングモードです。

■オンキヨー独自のリスニングモード

Mono（モノ） Movie（ムービー）

古い映画などモノラル信号の映画ソースを再生するのに適したモードです。センターチャンネルからはそのままの音声を、他のスピーカーからは適度に残響処理を施した音を出力します。
モノラルでも臨場感をお楽しみ頂けます。

Orchestra（オーケストラ）

クラシックやオペラに適したモードです。
音声イメージが全体に広がるようなサラウンド感を強調。
大ホールで聞いているような自然な響きが楽しめます。

Unplugged（アンプラグド）

アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモードです。フロントの音場イメージを重視することで、あたかもステージの前で聞いているような音場イメージをつくります。

Studio（スタジオ）-Mix（ミックス）

ロック、ポピュラーミュージックなどに適したモードです。パワフルな音響イメージを再現した臨場感あふれるサウンドをお楽しみいただけます。

TV Logic（ロジック）

放送局のスタジオから放映されているテレビ放送に適したモードです。
局のスタジオにいるような臨場感を高めます。すべてのサラウンド音声を強調し、会話音声を明瞭にします。

All Ch（オールチャンネル） Stereo（ステレオ）

BGMとして音楽をかけるときに便利なモードです。フロントだけでなく、サラウンドからもステレオの音声を再生し、ステレオイメージを作ります。

Full（フル） Mono（モノ）

すべてのスピーカーからモノラル音声で再生されます。どの場所にいても同様の音楽を聞くことができます。

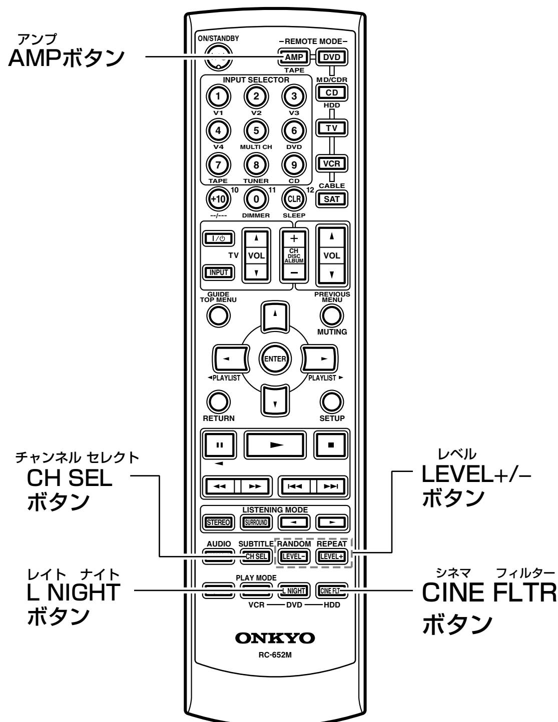
Theater（シアター）-Dimensional（ディメンショナル） または

2つまたは3つのスピーカーであたかも5.1チャンネル再生しているようなバーチャル再生をお楽しみいただけます。
左右それぞれの耳に届く音声の特性を制御することによって実現しています。反射音成分が大きいと期待した効果が得られない場合があるため、できるだけ反射音の少ない環境をおすすめします。

聴きたいリスニングモードが選べない

- デジタル接続はしましたか？（☞21～30ページ）または、HDMI接続はしましたか？（☞27、28ページ）
  ドルビーデジタルやDTSのリスニングモードを楽しむときは、デジタル接続をする必要があります。
- 再生機器側のデジタル出力設定は、正しいですか？
  ドルビーデジタルやDTSロゴのついたDVDの本編を再生中に、本機のPCM表示が点灯していたら、再生機器側のデジタル出力設定がPCMになっている場合があります。再生機器側で他の信号も出力するように設定してください。

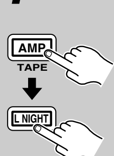
映画・音楽を鑑賞する（応用編）



レイトナイト機能を使う（ドルビーデジタルのみ）

劇場用に作られた映画音声は大きな音と小さな音の差が大きいため、環境音や人の会話などの小さな音を聞くには音量を上げる必要があります。レイトナイト機能は音量幅を小さくすることができるため、全体の音量を上げずに小さな音も聞こえます。夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するときに便利です。
この機能は、本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

1



AMPボタンを押してから、L NIGHTボタンを（くり返し）押す

Late Night:Off

Off：レイトナイト機能をオフにします。
Low：音量幅を小さくします。
High：音量幅をさらに小さくします。

ご注意

- レイトナイト機能は、ドルビーデジタルソフトにのみ効果があります。
- レイトナイト効果は、ドルビーデジタルソフトによって効果が少なかったり、効果がない場合もあります。

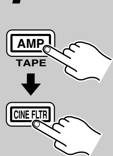
！ヒント

本体のLATE NIGHTボタンでも操作できます。

シネマフィルター機能を使う

高音域が強調されたサウンドトラックをホームシアター用に補正します。フロントスピーカーからの高音域が強すぎる場合に設定します。シネマフィルターの設定は、リスニングモードがDolby Digital、Dolby Digital EX、Dolby Pro Logic II Movie、Dolby Pro Logic IIx Movie、DTS、DTS-ES、DTS＋Neo:6、DTS Neo:6 Cinema、DTS 96/24、DTS＋Dolby EX、AAC、AAC＋Dolby EX、DolbyD＋Neo:6、AAC＋Neo:6の場合に働きます。

1



AMPボタンを押してから、CINE FLTRボタンを（くり返し）押す

On：高音域の補正をします。
Off：シネマフィルター機能をオフにします。

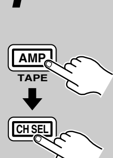
！ヒント

本体のCINEMA FILTERボタンでも操作できます。

スピーカーの音量を一時的に調整する

再生中、一時的に各スピーカーの音量をお好みに調整することもできます。本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

1



AMPボタンを押してから、CH SELボタンを押して、調整するスピーカーを選ぶ

ご注意

接続していないスピーカーは調整できません。

2



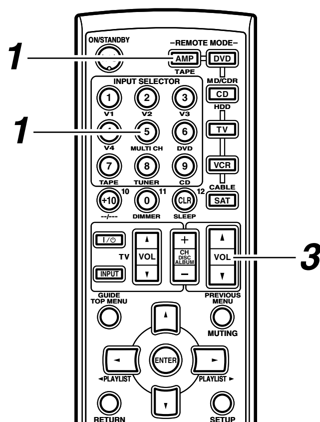
LEVEL＋/－ボタンを押して、音量を調整する

スピーカーは－12dB～＋12dBの範囲で調整できます。
サブウーファーは－15dB～＋12dBの範囲で調整できます。

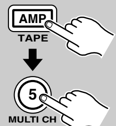
マルチチャンネル接続した機器を再生する

DVDプレーヤーとマルチチャンネル接続をしている場合、DVDオーディオやスーパーオーディオCDなどの再生をお楽しみいただけます。23ページの通り正しく接続されていることを確認してください。

マルチチャンネル再生をする



1 AMPボタンを押してからMULTI CHボタンを押して、「MULTI CH」表示を点灯させる

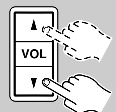




2 DVDプレーヤーを再生する

「スピーカー環境の設定（☞60ページ）に関係なく、ソフトに収録された内容どおりにすべてのチャンネルから出力されます。

3 VOLUME▲/▼ボタンで音量を調整する



音量は基本的にMin・1・2・・・98・99・Maxまでの範囲で調整できます。

！ヒント

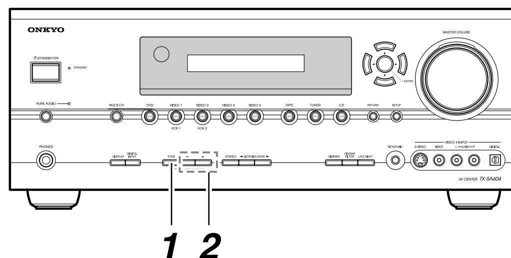
- 本体の入力切換ボタン、MASTER VOLUMEつまみでも操作できます。
- マルチチャンネル再生時のサブウーファーの音量の調整ができます。（☞66ページ）

ご注意

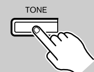
「Multich」を選んでいるときは、DirectとPure Audioのリスニングモードを選ぶことができます。また、それ以外のリスニングモードを使用中に「Multich」にすると、リスニングモードは解除されます。

低音、高音（Bass、Treble）を調整する

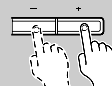
「Direct」、「Pure Audio」以外のリスニングモード時に左右フロントスピーカーのみ音質を調整することができます。



1 TONEボタンをくり返し押して、「Bass（低音）」または「Treble（高音）」を選ぶ

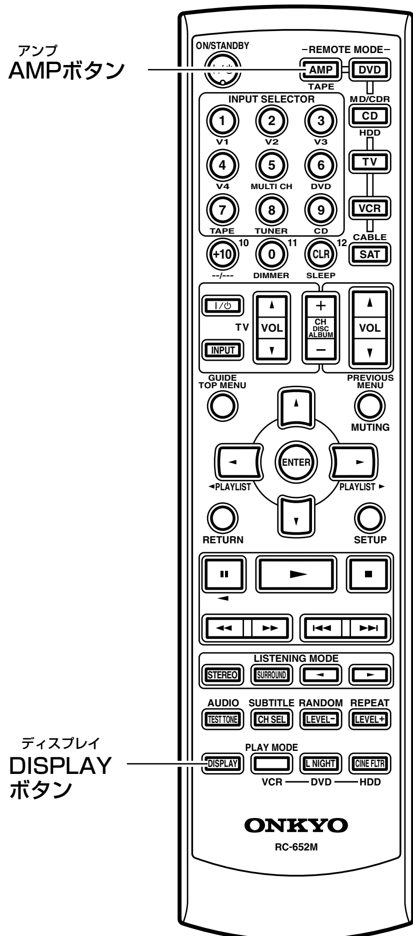


2 TONE＋/－ボタンを押して、レベルを調整する

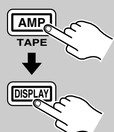


お買い上げ時は「0」ですが、－10dB～＋10dBの範囲内で2dBずつ調整できます。

表示を確認する



1



AMP（アンプ）ボタンを押してから、DISPLAY（ディスプレイ）ボタンを押す

本体のDISPLAYボタンでも操作できます。

- 入力されている信号により、表示される内容は異なります。
- DISPLAYボタンを押すたびに、表示内容が右記のように切り換わります。

● 入力信号がアナログのとき

入力ソースと音量 ←→ リスニングモード

STEREO
V2 Stereo

● 入力信号がPCMのとき

→ 入力ソースと音量 → サンプリング周波数＊1 → 入力ソースとリスニングモード → サンプリング周波数＊1 →（最初に戻る）

PCM
PCM fs : 48 kHz

● 入力信号がPCM以外のデジタル信号のとき

→ 入力ソースと音量 → 入力信号とフォーマット＊1,2 → 入力ソースとリスニングモード → 入力信号とフォーマット＊1,2 →（最初に戻る）

D
Dolby D :3/2.1

A B C

＊1 入力信号にプログラム情報がないときは、表示されません。サンプリング周波数やフォーマット表示状態で、約3秒経過すると、元の表示に戻ります。

＊2 フォーマット表示の意味

A :入力信号に含まれているフロントチャンネルの数
- 3: 左フロント、センター、右フロントスピーカーの3チャンネル
- 2: 左フロント、右フロントスピーカーの2チャンネル
- 1: モノラル（1チャンネル）

B :入力信号に含まれているサラウンドチャンネルの数
- 3: 左サラウンド、右サラウンド、サラウンドバックスピーカーの3チャンネル
- 2: 左サラウンド、右サラウンドスピーカーの2チャンネル
- 1: モノラル（1チャンネル）

C :入力信号に含まれているLFE（低域効果音）の有無
- 1: あり
- : なし

たとえば、「3/2.1」と表示された場合は、フロント3チャンネルとサラウンド2チャンネル、それにLFEがそれぞれ独立して記録されたソースで、5.1チャンネルソースであることを表しています。

● 入力信号がAACの音声多重放送（2ヶ国語放送など）のとき

→ 入力ソースと音量 → 入力信号と音声の数 → 入力ソースと選択音声 → 入力信号と音声の数 →（最初に戻る）

AAC
AAC :1+1

録音・録画する

あなたが録音・録画したものは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。



- サラウンド効果は録音されません。
- 著作権保護されたDVDなどはデジタル録音・録画できません。
- マルチチャンネル音声は録音できません。
- DIGITAL IN（COAXIAL）、（OPTICAL）またはHDMI IN 1/2の入力端子から入力されたデジタル信号は、DIGITAL OUT（OPTICAL）の出力端子からのみ出力されます。ただし、HDMI入力したDVDオーディオ信号などの音声信号の種類によっては出力されません。
- デジタル信号の録音・録画については制約があります。デジタル録音するときは、録音機器の取扱説明書もご覧ください。
- デジタル音声入力はデジタル音声出力のみ、アナログ音声入力はアナログ音声出力にのみ出力されます。
- 録音・録画中に再生側の入力を切り換えると、新しく選択された入力が録音・録画されます。
- DTS対応のCDやLDをアナログ録音すると、DTS信号はノイズとして録音されることになります。
- VIDEO IN 1端子に入力された映像や音声は、VIDEO 1 OUT端子に出力されません。同様にVIDEO 2 IN端子に入力された映像や音声は、VIDEO 2 OUT端子に出力されません。また、TAPE IN端子に入力された音声は、TAPE OUT端子に出力されません。これは出力と入力にループができて故障するのを防ぐためです。
- リスニングモードが「Pure Audio」のときは、ビデオ回路の電源がオフになるため映像が出力されません。録画するときは、他のリスニングモードを選んでください。

再生しながら録音・録画する

現在再生中の音楽や映画を録音・録画します。

1 入力切換ボタンを押して録音・録画する機器（再生側）を選ぶ

2 録音・録画する機器（録画側）の準備をする

- 録音・録画する機器を録音・録画待機状態にします。
- 録音レベルの調整は録音・録画機器で行ってください。
- 録音・録画のしかたについては、録音・録画機器の取扱説明書をご覧ください。

3 録音・録画を始める

手順*1* で選んだ再生機器を再生します。

異なるソースの音楽と映像を録音・録画する

あるソースの音を別のソースの映像に加えて、オリジナルビデオが作成できます。以下の手順は、CD端子に接続したCDプレーヤーの音声とVIDEO 4 INPUT端子に接続したビデオカメラの映像をVIDEO 1 OUT端子に接続したビデオデッキで録音･録画する例です。

1 録音する機器（再生側）の準備をする

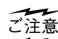
例：VIDEO 4 INPUT端子に接続したビデオデッキにテープをセットする

2 VIDEO 1 OUT端子に接続したビデオデッキにテープをセットする

3 入力切換ボタンの「VIDEO 4」を押す

4 入力切換ボタンの「CD」を押す

音声出力はCDに変わりますが、映像出力は手順*3* で選んだVIDEO 4のまま変わりません。VIDEO 1 OUT端子に接続したビデオデッキで録画を開始し、VIDEO 4 INPUT端子に接続したビデオカメラとCDプレーヤーの再生を始めます。
映像はビデオカメラから録画し、音声はCDプレーヤーから録音されます。



この方式で録音できるのはTUNER、TAPE、CD端子に接続した機器の音声のみです。

リスニングモードを使う（応用編）

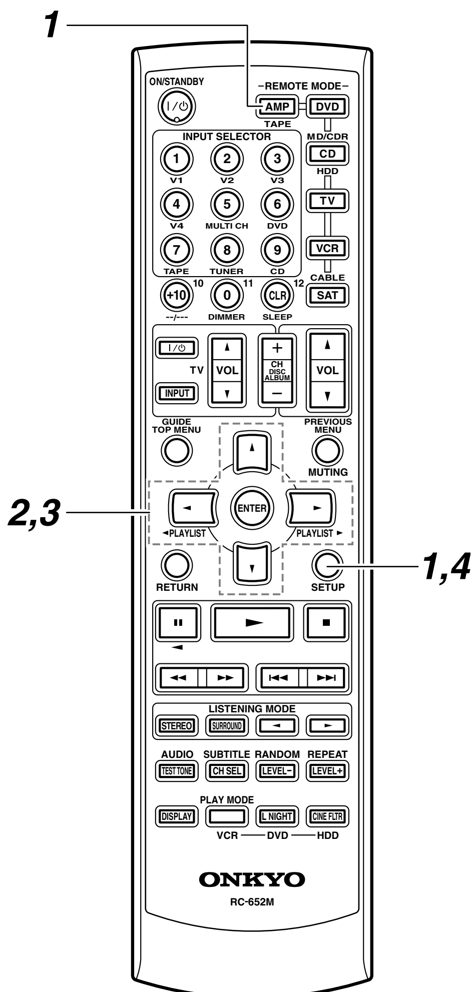
音響効果を調整する

リスニングモードや接続した機器によって音響効果をお好みに調整しておくことができます。

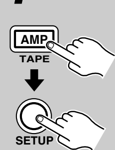
1

2,3

1,4

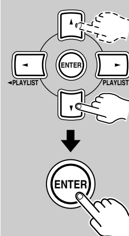


1



AMPボタンを押してから
SETUPボタンを押して、
「メインメニュー」を表示させる

2

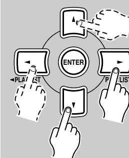


▲/▼ボタンを押して
「5. Audio Adjust」を選び、
ENTERボタンを押す

```
5. Audio Adjust
----------------------------
a. Multiplex    :   Main
b.Mono  Input  Ch:  L+R
c.PLⅡx  Panorama    :Off
d.PLⅡx  Dimension    :  0
e.PLⅡx  Center   Width:3
f .Neo:6  CenterImage  :2
g.Dolby  EX       :  Auto
h.T-D   Listening   Angle
                  :  Wide
```

設定画面が表示されます。

3



▲/▼ボタンを押して設定したい「項目」を選び、◀/▶ボタンで調整する

4



SETUPボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

本体のSETUPボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、ENTERボタンでも操作することができます。

主音声と副音声を切り換える

Multiplex

多重音声や多重言語の放送などで音声や言語を選択します。
DISPLAYボタンを押して、表示部に音声の数が「1＋1」と表示されたら音声多重放送です。

Main：主音声を出力します。（お買い上げ時の設定）
Sub：副音声を出力します。
Main/Sub：主音声と副音声の両方を出力します。

Mono時の設定をする

Mono Input ch

2チャンネルで収録された入力信号を「Mono」リスニングモードで再生するときに使用する信号チャンネルを設定します。

L+R：左右チャンネルの信号を両方再生します。（お買い上げ時の設定）
L：左チャンネルの信号を再生します。
R：右チャンネルの信号を再生します。

Dolby Pro Logic II Music/Dolby Pro Logic IIx Music時の音質を調整する

ご注意

- 2チャンネル収録された入力信号のみに効果があります。
- スピーカーを2チャンネル（左右フロントスピーカーのみ）に設定しているときは、設定できません。

Panorama

前方の音場を横方向に広げることができます。
お買い上げ時の設定は「Off」に設定されています。

On：パノラマ効果をオンにします。
Off：パノラマ効果をオフにします。

Dimension

音場を前方または後方へ移動させることができます。
お買い上げ時の設定は「0」に設定されています。

!ヒント

- 「0」を中心に、＋1、＋2、＋3にすると後方へ、－1、－2、－3にすると前方へ移動します。
- 広がり感がありすぎたり、サラウンドが強すぎる場合は音場を前方に調整するとバランスが良くなります。 逆にモノラル感や音場が狭い感じの場合は音場を後方に調整するとバランスがよくなります。

Center Width

センタースピーカーの音の広がり幅を調整することができます。Dolby Pro Logic II/Dolby Pro Logic IIxでは、センタースピーカーがある場合はセンターチャンネルの信号をセンタースピーカーからのみ出力します。（センタースピーカーがない場合は、左右フロントスピーカーに等分に振り分け、幻想のセンター音像を作ります。）
この設定では、センタースピーカーと左右フロントスピーカーの配合を調整し、センターの音の重量感を調整することができます。お買い上げ時の設定は「3」ですが、0～7の範囲で選択できます。

DTS Neo:6 Music時の音質を調整する

Center Image

サラウンドスピーカーを接続していないときは、設定できません。
「DTS Neo:6 Music」は、2チャンネルで収録されたソースを6チャンネルで再生するリスニングモードで、左右フロントチャンネルからいくらか差し引いた音声を使ってセンターチャンネルの音声を作り出します。どの程度音声を差し引いてセンターチャンネルのイメージを作るかを調整します。お買い上げ時の設定は「2」ですが、0～5の範囲で選択できます。

!ヒント

- 「0」は左右のチャンネルから半分（－6ｄB）差し引いてセンターイメージを作るため、より中央に寄った感じになります。視聴位置が中央からかなりずれている場合に効果的です。
- 「5」は左右のチャンネルから音声が差し引かれないため元のステレオ音声のバランスのまま出力されます。

Dolby Digital EX信号の再生方法を設定する

Dolby EX

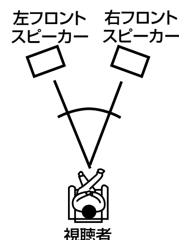
サラウンドバックスピーカーを接続していないときは、設定できません。

Auto：ドルビーデジタルの6.1チャンネル識別信号があるときは、リスニングモードがDolby Digital EXに切り換わります。（お買い上げ時の設定）
Manual：「PL IIx Movie」、「PL IIx Music」、「Dolby Digital」、「Dolby Digital EX」、「Dolby Digital +Neo:6」のリスニングモードが選べます。

シアターディメンショナル時の調整をする（Theater-Dimensional）

T-D Listening Angle

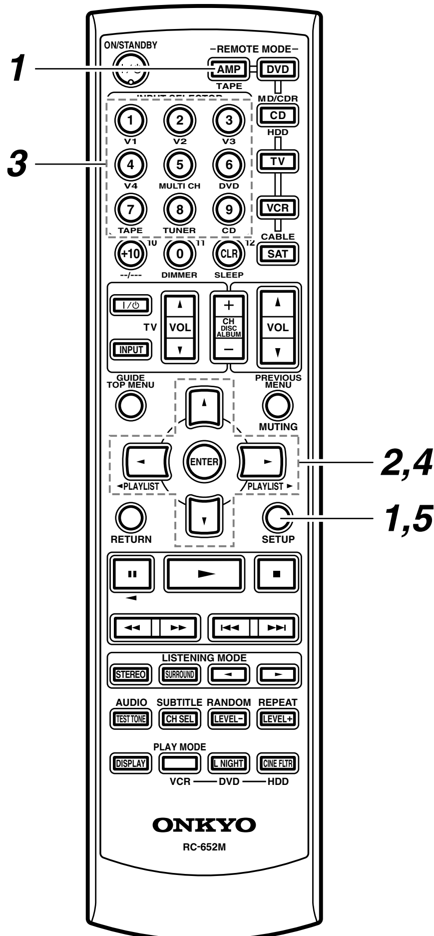
視聴者から見た左右フロントスピーカーに対する角度を設定します。シアターディメンショナルはこの角度をもとにバーチャル処理を行います。左右フロントスピーカーから等距離で、かつ選択したリスニングアングルに近い視聴位置が理想です。Wide（広い）とNarrow（狭い）のどちらかを選べます。
お買い上げ時の設定はWideです。



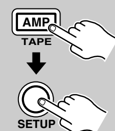
入力ソースの設定をする

よく使うリスニングモードを設定しておく

入力される信号によって、よく使うリスニングモードを設定しておくことができます。
再生中に切り換えることもできますが、一度スタンバイ状態にすると設定されたモードに戻ります。

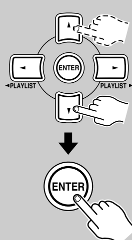


1



AMP(アンプ)ボタンを押してから
SETUP(セットアップ)ボタンを押して、
「メインメニュー」を表示させる

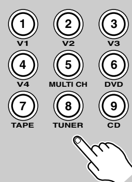
2



▲/▼ボタンを押して
「6. Input Setup(インプット セットアップ)」を選び、
ENTER(エンター)ボタンを押す

```
6. Input   Setup
----------DVD/MCH----------
 a. IntelliVolume:      0dB
Listening  Mode  Preset
 b. Ana / PCM:Last Valid
 c. Dolby   D :Last Valid
 d. DTS       :Last Valid
 e. AAC       :Last Valid
 f . D.F.  2ch :Last Valid
 g. Mono      :Last Valid
 h. MCH Ana  :Last Valid
```

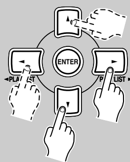
3



INPUT(インプット) SELECTOR(セレクター)ボタンで
入力ソースを選ぶ

デジタル接続をしていない入力ソースは、「b. Analog(アナログ)」のみ表示されます。

4



▲/▼ボタンを押して「設定したい信号の種類」を選び、◀/▶ボタンでリスニングモードを選ぶ

選択できるリスニングモードは設定する入力信号によって異なります。

- 「Last Valid（ラスト バリッド）」はリスニングモードを固定せず、最後に選択したモードを優先します。

b. Ana（アナログ）/PCM

CDなどのPCM信号やレコード、カセットテープなどのアナログ信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

c. Dolby D（ドルビー デジタル）

ドルビーデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

d. DTS

DTS信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

e. AAC

AAC信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

f. D. F. 2ch（チャンネル）

2チャンネルで記録されたドルビーデジタルなどのデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

g. Mono（モノ）

モノラルで記録されたドルビーデジタル、AACなどのデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

h. MCH Ana（マルチチャンネル アナログ）

入力がDVD/MULTICHのときのみ表示されます。5.1chアナログマルチチャンネルを再生するときのリスニングモードを設定します。

i. MCH（マルチチャンネル） PCM＊

HDMI IN端子から入力したDVDオーディオなどのマルチチャンネルPCM信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

j. PCM 192k＊

DVDオーディオなど、サンプリング周波数が176.4/192kHzの信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

＊「MCH PCM」と「PCM 192k」は、HDMI入力を割り当てている入力のみ設定できます。

5



SETUP（セットアップ）ボタンを押す

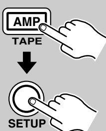
設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

本体のSETUP（セットアップ）ボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、ENTER（エンター）ボタンでも操作することができます。

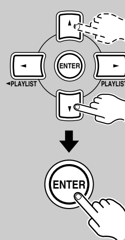
機器間の音量差を減らす（IntelliVolume（インテリ ボリューム））

1



AMP（アンプ）ボタンを押してからSETUP（セットアップ）ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2



▲/▼ボタンを押して「6. Input Setup（インプット セットアップ）」を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

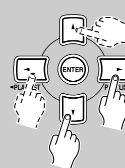
```
6. Input   Setup
----------DVD/MCH----------
 a. IntelliVolume:      0dB
Listening  Mode  Preset
  b. Ana / PCM:Last Valid
  c. Dolby   D :Last Valid
  d. DTS       :Last Valid
  e. AAC       :Last Valid
  f . D.F.  2ch  :Last Valid
  g. Mono      :Last Valid
  h. MCH Ana  :Last Valid
```

3



INPUT SELECTOR（インプット セレクター）ボタンで入力ソースを選ぶ

4



▲/▼ボタンで「IntelliVolume（インテリ ボリューム）」を選び、◀/▶ボタンで選択する

本機に複数の機器を接続している場合、本機のボリューム位置が同じでも機器によって再生するときの音量に差が出ることがあります。この画面を表示させたまま、入力ソースを切り換えて音量を聞き比べながら設定すると便利です。他の機器と比べて音量が大きい場合は◀ボタン、小さい場合は▶ボタンを押して調整します。

- −12dB～＋12dBの範囲で調整できます。

設定をする（応用編）

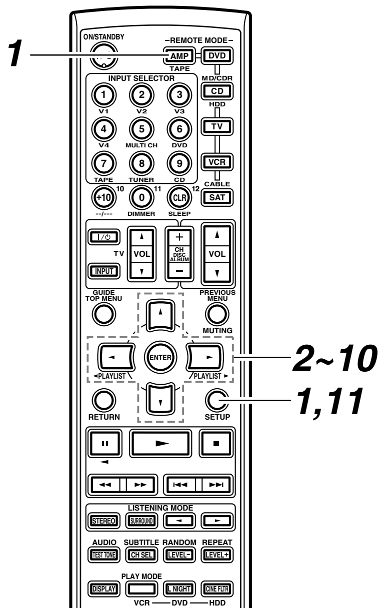
スピーカーの設定をする

この中の多くのメニューは自動スピーカー設定（36ページ）で自動設定されています。自動スピーカー設定の後に使用するスピーカーを変更した場合や手動で設定したい場合、自動スピーカー設定で設定された内容を確認するときに使用します。
ヘッドホンを接続しているときは、設定できません。

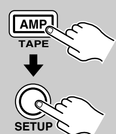
スピーカー環境の設定

自動スピーカー設定(☞36ページ)を行った場合は、自動で設定されています。

接続したスピーカーの「有/無」と「クロスオーバー周波数」を設定します。
クロスオーバー周波数は、各チャンネルの低音域を何Hzからサブウーファーで出力するか設定しておくことができます。
サブウーファーを接続していないときには、フロントスピーカーが自動的に「Full Band」に設定され、他のチャンネルの低音域がフロントスピーカーから出力されます。
それぞれのスピーカーのクロスオーバー周波数は、Full Band、40、50、60、80、100、120、150、200Hzから選択できます。お手持ちのスピーカーの取扱説明書を参考に設定してください。

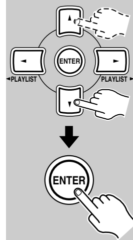


1



**AMPボタンを押してから
SETUPボタンを押して、
「メインメニュー」を表示させる**

2

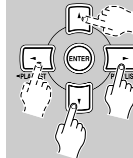


**▲/▼ボタンを押して
「1.Speaker Config（スピーカー環境)」を選び、ENTERボタンを押す**

スピーカーコンフィグ設定画面が表示されます。

```
1. Speaker  Config
-----------------------------
a . Subwoofer          : Yes
b . Front      :   100Hz
c . Center     :   100Hz
d . Surround  :   100Hz
e . SurrBack  :   100Hz
f . SurrBack Ch       : 2ch
g . LPFofLFE :   120Hz
h . DoubleBass        :---
```

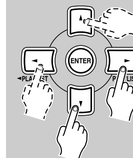
3



**▲/▼ボタンを押して
「Subwoofer」を選び、◀/▶ボタンでサブウーファーの「有/無」を選ぶ**

Yes：サブウーファーを接続している場合
No：サブウーファーを接続していない場合

4

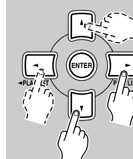


**▲/▼ボタンを押して
「Front」を選び、◀/▶ボタンでフロントスピーカーのクロスオーバー周波数を選ぶ**

ご注意

手順**3**で「No」を選択した場合は、
「Full Band」に固定されます。

5



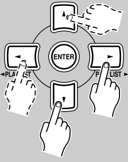
**▲/▼ボタンを押して
「Center」を選び、◀/▶ボタンでセンタースピーカーの設定をする**

センタースピーカーを接続していない場合は「None」を選んでください。

ご注意

手順**4**で「Full Band」以外を選択した場合は、「Full Band」は選択できません。

6



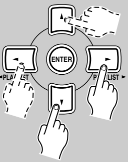
▲/▼ボタンを押して「Surround」を選び、◀/▶ボタンでサラウンドスピーカーの設定をする

左右サラウンドスピーカーを接続していない場合は「None」を選んでください。

ご注意

手順**4**で「Full Band」以外を選択した場合は、「Full Band」は選択できません。

7



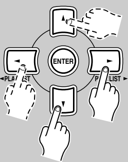
▲/▼ボタンを押して「Surr Back」を選び、◀/▶ボタンでサラウンドバックスピーカーの設定をする

サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は「None」を選んでください。

ご注意

- 手順**6**で「None」を選択した場合は、この項目は「None」になります。
- 手順**6**で「Full Band」以外を選択した場合は、「Full Band」は選択できません。

8



▲/▼ボタンを押して「SurrBack Ch」を選び、◀/▶ボタンでサラウンドバックスピーカーの数を設定する

1ch：接続したサラウンドバックスピーカーが1つの場合（SURROUND BACK SPEAKERS L端子に接続してください。）

2ch：接続したサラウンドバックスピーカーが2つの場合

ご注意

手順**7**で「None」を選択した場合は、この項目は設定できません。

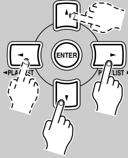
▷手順**9**に続く

LFEのローパスフィルター設定

この項目は自動スピーカー設定(☞36ページ)では自動で設定されていません。

LFE（低域効果音）信号のローパスフィルターを設定します。ローパスフィルターを設定すると、その設定値よりも低い周波数成分だけを通過させ、不要なノイズを削除することができます。
80Hz、100Hz、120Hz、150Hz、200Hzから選択できます。

9



▲/▼ボタンを押して「LPF of LFE」を選び、◀/▶ボタンで設定する

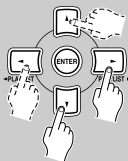
▷手順**10**に続く

Double Bassの設定

この項目は自動スピーカー設定（☞36ページ）では自動設定されていません。

サブウーファーを「Yes（有り）」にしていて、フロントスピーカーを「Full Band」に設定している場合、サブウーファーをさらに強調させることができます。

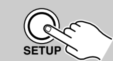
10



▲/▼ボタンを押して「Double Bass」を選び、◀/▶ボタンで設定する

On：サブウーファーを強調します。
Off：サブウーファーを強調しません。

11



SETUPボタンを押す

設定が終了したら、SETUPボタンを押します。メニュー画面が消えます。

- メインメニュー画面に戻るにはRETURNボタンを押してください。

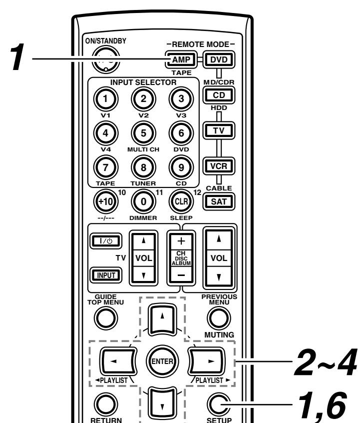
！ヒント

本体のSETUPボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、ENTERボタンでも操作することができます。

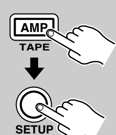
視聴位置からスピーカーまでの距離設定（スピーカーディスタンス）

自動スピーカー設定（☞36ページ）を行った場合は、自動で設定されています。

視聴位置からスピーカーまでの距離を設定します。
距離を設定することで、それぞれのスピーカーから視聴位置までの音の届く時間を一定にし、ホームシアターをより快適にお楽しみいただけます。

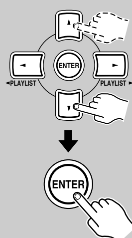


1



AMPボタンを押してから SETUPボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2



▲/▼ボタンを押して「2. Speaker Distance」を選び、ENTERボタンを押す

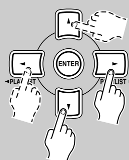
スピーカーディスタンス設定画面が表示されます。

```
2. Speaker  Distance
----------------------------
a . Unit          :meters
b . Front         : 3.6m
c . Center        : 3.6m
d . SurrRight     : 2.1m
e . SurrBack R    : 2.1m
f . SurrBack L    : 2.1m
g . SurrLeft      : 2.1m
h . Subwoofer     : 3.6m
```


ご注意

「1. Speaker Config（スピーカー環境）」の設定で、「No」または「None」を選択したスピーカーは、選択できません。

3

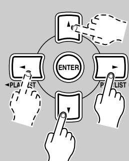


▲/▼ボタンを押して「a. Unit（単位）」を選び、◀/▶ボタンで設定する単位を選ぶ

meters：距離をメートルで設定する。0.3m単位で0.3mから9mの範囲で設定できます。

feet：距離をフィートで設定する。1ft単位で1ftから30ftの範囲で設定できます。

4



▲/▼ボタンを押して「b. Front」を選び、◀/▶ボタンで距離を設定する

フロントスピーカーから視聴位置までの実際に近い数値に設定します。

5

手順*4*をくり返し、接続したすべてのスピーカーの距離を設定する

c. Center→d. Surr Right→e. Surr Back R→f. Surr Back L→g. Surr Left →h. Subwoofer

!ヒント

- センタースピーカー、サブウーファーはフロントスピーカーで設定した距離の±1.5mの範囲で調整できます。
- 左右サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーはフロントスピーカーで設定した距離の−4.5mから＋1.5mの範囲で調整できます。たとえば、フロントスピーカーを6mに設定した場合、1.5mから7.5mの範囲で調整できます。

6



SETUPボタンを押す

すべてのスピーカーの設定が終わったらSETUPボタンを押します。メニュー画面が消えます。

- メインメニュー画面に戻るには RETURNボタンを押してください。

！ヒント

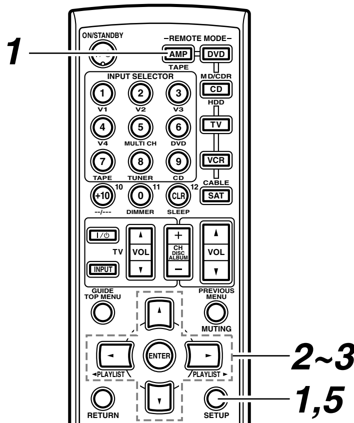
本体のSETUPボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、ENTERボタンでも操作することができます。

スピーカーの音量レベル調整（レベルキャリブレーション）

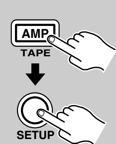
自動スピーカー設定(☞36ページ)を行った場合は、自動で設定されています。

各スピーカーからのテスト音の音量が同じに聞こえるように、それぞれのスピーカーの音量レベルを設定します。
スタンバイ状態にしても記憶しています。

- ミューティング中やヘッドホンを接続しているときは、設定できません。

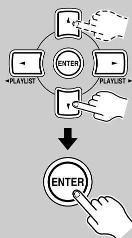


1



AMPボタンを押してからSETUPボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2



▲/▼ボタンを押して「3. Level Calibration」を選び、ENTERボタンを押す

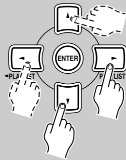
レベルキャリブレーション設定画面が表示され、「ザー」というテスト音が左フロントスピーカーより出力されます。

```
3. Level  Calibration
----------------------------
a. Left          :   0dB
b. Center        :   0dB
c. Right         :   0dB
d. SurrRight     :   0dB
e. SurrBack R    :   0dB
f. SurrBack L    :   0dB
g. SurrLeft      :   0dB
h. Subwoofer     :   0dB
```

ご注意

「1. Speaker Config（スピーカー環境）」の設定で、「No」または「None」を選択したスピーカーは、設定できません。

3



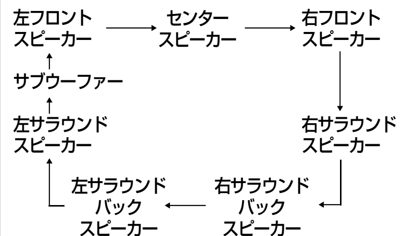
▲/▼ボタンでスピーカーを切り換え、◀/▶ボタンを押してテスト音を調整する

すべてのスピーカーのテスト音が同じ音量に聞こえるように調整します。

- －12dB～+12ｄBの範囲で調整できます。
- サブウーファーは－15dB～+12ｄBの範囲内で調整できます。

4

手順*3*をくり返し、接続したすべてのスピーカーのテスト音を調整する



5



SETUPボタンを押す

設定が終わり、メニュー画面が消えます。

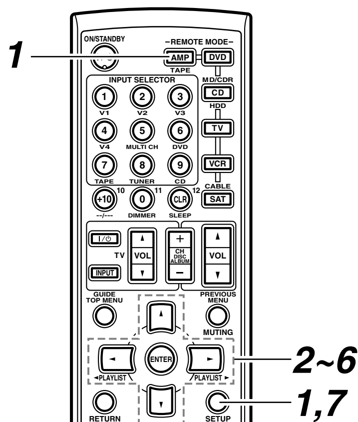
TEST TONEボタンでテスト音を出して設定することもできます。

TEST TONEボタンを押して、テスト音を出します。
次にLEVEL－/＋ボタンでテスト音を調整し、CH SELボタンでスピーカーを切り換えます。

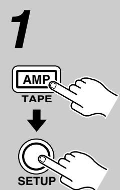
スピーカーの音場補正

自動スピーカー設定（☞36ページ）を行った場合は、自動で設定されています。

接続したスピーカーごとに、出力する音域の音量を調整できます。各スピーカーの音量は52ページの方法でも調整できます。
ここでは､それぞれのスピーカーの音域別で音量を調整します。

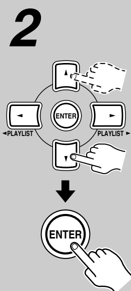


1



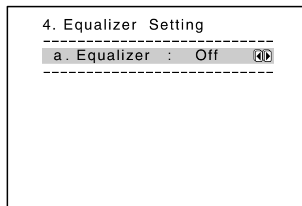
AMPボタンを押してからSETUPボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

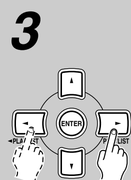


▲/▼ボタンを押して「4. Equalizer Setting」を選び、ENTERボタンを押す

イコライザー設定画面が表示されます。



3



◀/▶ボタンを押して「設定」を選ぶ

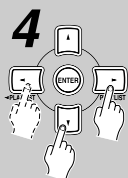
Off：すべての音域で同じ音場設定になります。

Audyssey：自動スピーカー設定で設定された音場設定になります。
自動スピーカー設定を行ってから選択してください。

Manual：お好みで設定できます。

「Manual」を選んだ場合は、手順**4**に進みます。「Off」または「Audyssey」を選んだ場合は、手順**7**に進みます。

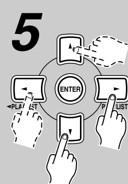
4



▼ボタンを押し、◀/▶ボタンを押して「スピーカー」を選ぶ

```
4. Equalizer Setting
----------------------------
a. Equalizer      : Manual
----------------------------
b. Channel   :  Front
----------------------------
c.    80Hz        :   0dB
d.   250Hz        :   0dB
e.   800Hz        :   0dB
f.  2500Hz        :   0dB
g.  8000Hz        :   0dB
```

5



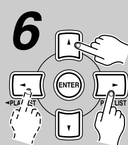
▲/▼ボタンで「調整したい音域（周波数）」を選び、◀/▶ボタンで調整する

−6dB〜＋6dBの範囲で調整できます。

！ヒント

80Hzなど、低い周波数は低音域、8000Hzなどの高い周波数は高音域を表します。

6



▲ボタンを押して「Channel」を選び、◀/▶ボタンで「スピーカー」を選ぶ

手順**5,6**をくり返し、接続したすべてのスピーカーを設定します。

7



SETUPボタンを押す

すべてのスピーカーの設定が終わったらSETUPボタンを押します。メニュー画面が消えます。

- メインメニュー画面に戻るにはRETURNボタンを押してください。

！ヒント

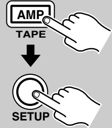
本体のSETUPボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、ENTERボタンでも操作することができます。

ご注意

DirectとPure Audioのリスニングモードのときは、効果がありません。

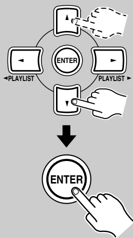
音量設定/OSD設定をする

1



AMPボタンを押してから SETUPボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

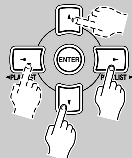


▲/▼ボタンを押して「7. Miscellaneous Setup」を選び、ENTERボタンを押す

ミセレニアウスセットアップメニューが表示されます。

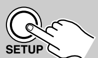
```
7. Miscellaneous  Setup
---------------------------
 a. MaximumVolume:  Off
 b. PowerOnVolume: Last
 c. Immediate  Display
               : Normal
```

3



▲/▼ボタンを押して設定したい項目を選び、◀/▶ボタンで選択する

4

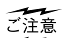


SETUPボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

本体のSETUPボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、ENTERボタンでも操作することができます。



「a. Maximum Volume」、「b. Power On Volume」は、スピーカーの音量調整をした場合に、最大値が変わることがあります。

ボリューム設定

a. Maximum Volume

音量が大きくなり過ぎないように、音量の最大出力レベルを設定することができます。50～99の範囲内で設定できます。
設定しないときは「Off」を選びます。

b. Power On Volume

本機の電源を入れたときの音量を一定に設定しておくことができます。
Min･1･2…50の範囲内で設定できます。
ただし、Maximum Volumeを設定している場合は、その値までしか設定できません。
本機をスタンバイ状態にする前の音量をそのまま残したい場合は「Last」を選びます。

OSDの設定

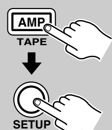
c. Immediate Display

本機を操作したときに、操作内容を画面に表示するかどうかを設定します。（D4入力端子/コンポーネント入力端子または、HDMI入力端子から入力された信号を出力しているときは、NormalまたはWideにしても操作内容は表示されません。）

Normal：ご使用のテレビが4：3のとき選択します。
Wide：ご使用のテレビが16：9のとき選択します。
Off：表示しません。

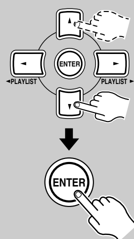
ハードウェアの設定をする

1



AMPボタンを押してから SETUPボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

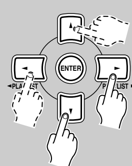


▲/▼ボタンを押して「8. Hardware Setup」を選び、ENTERボタンを押す

ハードウエアセットアップメニューが表示されます。

```
8. Hardware Setup
----------------------------
a . SP Impedance :6ohms
b . Remote ID         :1
c . HDMI Audio Out  :Off
d . SW  Input  Sensitivity
                   : 0dB
```

3



▲/▼ボタンを押して設定したい項目を選び、◀/▶ボタンで選択する

4



SETUPボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

本体のSETUPボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、ENTERボタンでも操作することができます。

本機のリモコンコードを変更する

Remote ID

オンキヨー製品が同じ部屋に複数ある場合、リモコンの操作コードが重複してしまうことがあります。
他のオンキヨー製品と区別をつけるために、リモコンコードを変更することができます。
お買い上げ時は、本体、リモコンともに「1」に設定されています。

ご注意

リモコン側も本体と同じリモコンコードに設定する必要があります。（☞67ページ）

HDMI音声出力の設定

HDMI Audio Out

HDMI端子から音声出力を「する/しない」の設定ができます。本機のHDMI OUT端子とテレビのHDMI入力端子を接続していて、テレビのスピーカーから音声を聞きたいときなどに設定します。通常は「Off」にしておいてください。
入力信号やテレビによっては、Onにしても音が出ない場合があります。その場合は、プレーヤー側でPCMに設定してください。

Off：出力しません。（お買い上げ時の設定）
On：出力します。

マルチチャンネル再生時の設定をする

SW Input Sensitivity

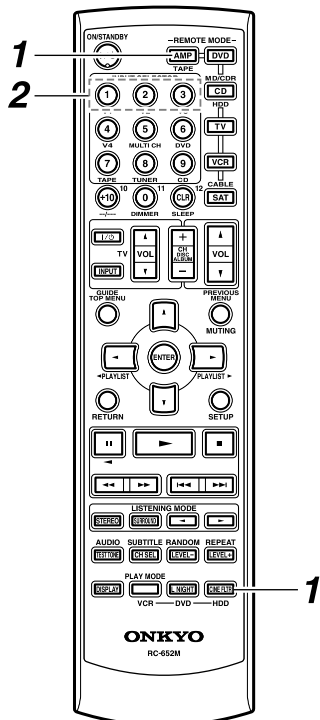
DVDプレーヤーによっては、マルチチャンネル出力時にLFE（低域効果音）チャンネルが15dB高く出力されるものがあり、サブウーファーの音量が大きくなることがあります。
この設定では、ご使用になるDVDプレーヤーのマルチチャンネル時の出力レベル設定に合わせた調整を行うことにより、適切な音量バランスでのマルチチャンネル再生が可能となります。
0(お買い上げ時の設定)、5、10、15dBから選択できます。
サブウーファーの音量が大きすぎる場合は、10dBや15dBを選んでください。

リモコンのリモコンコードを変更する

オンキヨー製品が同じ部屋に複数ある場合、リモコンの操作コードが重複してしまうことがあります。
他のオンキヨー製品と区別をつけるためにリモコンコードを変更することができます。

ご注意

本体側もリモコンと同じリモコンコードに設定する必要があります。（☞66ページ）お買い上げ時は本体、リモコンともに「1」に設定されています。



1 AMP（アンプ）ボタンとCINE FITR（シネマ フィルター）ボタンを同時に押し続ける

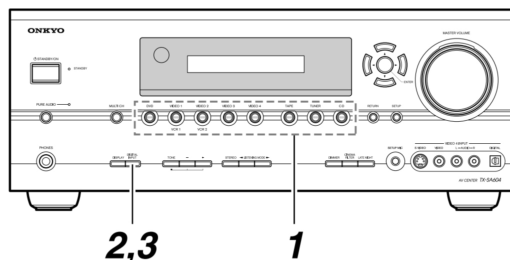
AMPボタンが点灯します。

2 設定したいコードの数字ボタンを押す

1〜3から選べます。

デジタル入力モードをDTS、PCMに固定する

デジタル入力端子が設定されていない入力ソースの場合は設定できません（Analog（アナログ）と表示されます）。（☞41ページ）
DTSやPCM信号の再生中にノイズや曲間の頭切れが気になる場合は、設定することをおすすめします。デジタル入力をDTSまたはPCMに固定することができます。



1 入力切換ボタンを押して、設定したい「入力」を選ぶ

2 DIGITAL INPUT（デジタル インプット）ボタンを3秒以上押し続ける

表示部に現在の入力モード「Auto（オート）」が表示されます。

3 「Auto（オート）」表示中にDIGITAL INPUTボタンを(くり返し)押して、デジタル入力モードを設定する

Auto（オート）：
デジタル信号が入力されていないときは、アナログ信号を再生します。

PCM：
AutoでCDなどのPCMの曲間で頭切れが気になる場合に選択してください。PCM以外の音声が入力されても音は出ません。

DTS：
AutoでDTS-CDを再生するとき、DTS信号を識別して読み取る間や、CDの早送り、早戻しをするときのノイズが気になる場合に選択してください。DTS以外の音声が入力されても音は出ません。

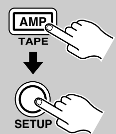
ご注意

DTS対応のCDやLDを再生するときは、必ず「Auto」または「DTS」を選択してください。「PCM」を選択すると、ノイズが出力されます。

設定した内容をロックする（Lock Setup）

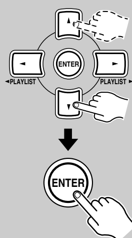
（ロック　セットアップ）

1



AMP（アンプ）ボタンを押してから SETUP（セットアップ）ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

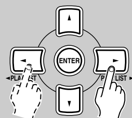


▲/▼ボタンを押して「9. Lock Setup（ロック　セットアップ）」を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

ロックセットアップメニューが表示されます。

```
9. Lock Setup
------------------------------
 a . Lock          :Unlocked ◄►
```

3



◀/▶ボタンで選択する

誤って設定を変更してしまわないように、設定したメニューにロックをかけることができます。

Locked（ロックド）：
ロックをかけます。ロックをかけておくと、設定操作はできません。

Unlocked（アンロックド）：
設定操作にロックをかけません。
（お買い上げ時の設定）

4



SETUPボタンを押す

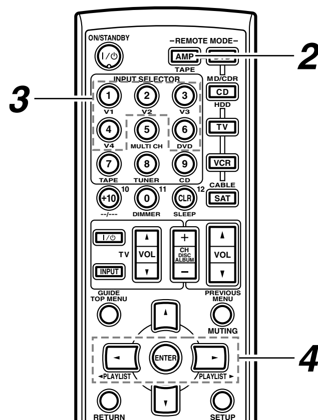
設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

本体のSETUP（セットアップ）ボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、ENTER（エンター）ボタンでも操作することができます。

映像と音声の再生にズレがあるとき

映像が音声より遅れて再生されるようなとき、この設定で映像信号と音声信号を同期させることができます。0〜100ms（ミリセカンド：千分の1秒）の範囲を10msステップで、音声の遅延を調整することができます。



1

調整したい入力を再生する

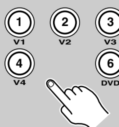
たとえばDVDの映像が音声より遅れている場合は、DVDを再生します。

2



リモコンのAMP（アンプ）ボタンを押す

3



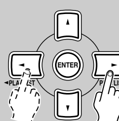
調整したい入力の入力切換ボタンを約4秒間押し続ける

本体の表示部が設定画面に切り換わります。

```
A/V Sync : 20ms
```

この操作は「DVD」、「VIDEO 1」、「VIDEO 2」、「VIDEO 3」、「VIDEO 4」ボタンで働きます。

4



◀/▶ボタンで設定を調整する

再生される映像を見ながら調整します。0〜100msの範囲を10msステップで調整できます。映像と音声が同期するように、音声の遅延を調整してください。

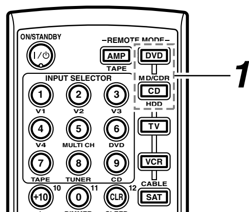
本機のリモコンで他の製品を操作する

リモコンコードを登録する

4桁のリモコンコードを登録することにより、本機に付属のリモコン（RC-652M）で、本機以外のAV機器（DVD、CD、テレビ、ビデオなど）を操作することができます。

オンキヨー製品を登録するとき

REMOTE MODEボタンの「DVD」ボタンと「CD/MD/CDR/HDD」ボタンに、本機に付属のリモコンで操作するオンキヨー製品を登録してください。



1.オンキヨー製品が登録できるボタン
ボタンごとに、それぞれ1つのリモコンコードが登録できます。



「DVD」ボタン
以下のいずれか1つのリモコンコードが登録できます。
オンキヨー製DVDプレーヤー：0627
オンキヨー製DVDプレーヤー（RI専用）：1612



「CD/MD/CDR/HDD」ボタン
以下のいずれか1つのリモコンコードが登録できます。
オンキヨー製CDプレーヤー：1817
オンキヨー製CDプレーヤー（RI専用）：1327
オンキヨー製MDレコーダー：0868
オンキヨー製MDレコーダー（RI専用）：1808
オンキヨー製CDレコーダー：1323
オンキヨー製CDレコーダー（RI専用）：1322
オンキヨー製HDD関連機器：1990
オンキヨー製HDD関連機器（RI専用）：1993

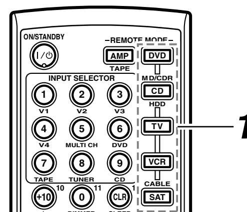
リモコンコードを登録する☞70ページ

！ヒント オンキヨー製品のリモコンコードについて

- **RI専用リモコンコード**
  本機とオンキヨー製品をRI接続したときは、RI専用リモコンコードを登録してください。リモコン操作は本機のリモコン受光部に向けて行います。本機のマイコンが本機とRI接続したオンキヨー機器をシステムコントロールします。
- **一般的なリモコンコード**
  RI接続していないとき、または接続したオンキヨー製品にRI端子がないときは、一般的なリモコンコードを登録してください。リモコン操作は他社製品を操作するときと同じく、登録した機器のリモコン受光部に向けて行います。

他社製品を登録するとき

「AMP/TAPE」ボタン以外のREMOTE MODEボタンに、本機に付属のリモコンで操作をする他社製品のリモコンコードを登録してください。



1.他社製品が登録できるボタン
ボタンごとに、それぞれ1つのリモコンコードが登録できます。



「DVD」ボタン
DVDプレーヤーのリモコンコードが登録できます。



「CD/MD/CDR/HDD」ボタン
CDプレーヤー、MDレコーダー、CDレコーダーのいずれか1つのリモコンコードが登録できます。



「TV」ボタン
テレビのリモコンコードが登録できます。



「VCR」ボタン
ビデオデッキ、DVDレコーダーのリモコンコードが登録できます。



「SAT/CABLE」ボタン
衛星放送チューナー、ケーブルテレビチューナーのリモコンコードが登録できます。

リモコンコードを調べる☞71、72ページ
リモコンコードを登録する☞70ページ

お買い上げ時の設定

お買い上げ時の設定では、「DVD」ボタンにオンキヨー製DVDプレーヤー、「CD/MD/CDR/HDD」ボタンにオンキヨー製CDプレーヤーが登録されています。



「DVD」ボタン
オンキヨー製ＤＶＤプレーヤー



「CD/MD/CDR/HDD」ボタン
オンキヨー製CDプレーヤー







その他のボタンには登録されていません。

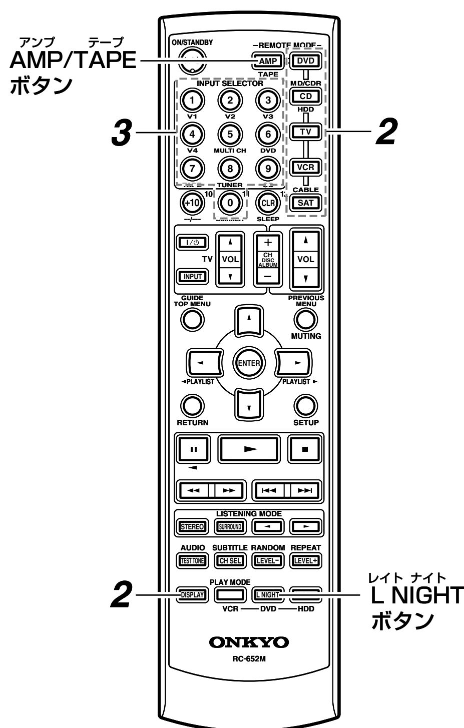
本機のリモコンで他の製品を操作する

リモコンコードを登録する

本機に付属のリモコンで他社の製品を操作するには、**他機（DVD、CD、テレビ、ビデオなど）のリモコンコード（4桁）を登録する必要があります。**
リモコンコード表は71、72ページをご覧ください。
それぞれのカテゴリーからコードを選んでください。

ご注意

- AMP/TAPEボタンには登録できません。
- 製品によっては動作しない場合があります。
- オンキヨー製のMDレコーダー、CDレコーダー、RIドックなどのHDD関連機器を操作するときは、入力表示を変更してください。（☞45ページ）



「REMOTE/MODE」ボタンの初期設定（お買い上げ時の設定）の戻しかた

1. 初期設定に戻したいREMOTE MODEボタンを押しながら、L NIGHTボタンを3秒間押します。
2. もう一度そのREMOTE MODEボタンを押すと、REMOTE MODEボタンが2回点滅して、初期設定に戻ります。

リモコンを初期設定に戻すには

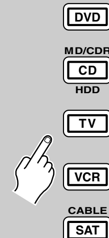
お買い上げ時と同じ状態に戻すには、以下の操作をしてください。

1. AMP/TAPEボタンを押しながら、L NIGHTボタンを3秒間押します。
2. もう一度AMP/TAPEボタンを押すと、AMP/TAPEボタンが2回点滅して初期設定に戻ります。

1

登録する他機のメーカー別リモコンコード(4桁)を71、72ページのリモコンコード表で確かめる

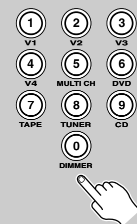
2



登録したいREMOTE MODEボタンを押しながら、DISPLAYボタンを3秒間押す

REMOTE MODEボタンが点灯します。

3



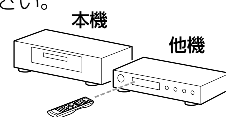
30秒以内に、数字ボタンで4桁のリモコンコードを入力する

REMOTE MODEボタンが2回点滅します。

4

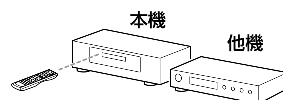
他機を操作する

登録した機器に向けて操作してください。



ご注意

オンキヨー製品のRI専用リモコンコードを登録したときは、本機のリモコン受光部に向けて操作してください。



正しく動作しない場合は、もう一度リモコンコードを入力し直してください。複数のコードがある機器は、他のコードも試してください。

リモコンコード表

以下の表は主に、日本で流通しているメーカーのリモコンコードを抜粋したものです。
複数のコード番号があるときは、1つずつ登録し、機器に合った方を選んでください。
- 形式、年式によって使用できないものがあります。
- 機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。

DVDボタン 

■DVDプレーヤー

ブランド名	コード番号
アイワ	0641
Axion	1071,1193
フナイ	0675,1268,1334
日立	1247,1664
JVC	0558
LG	0801
三菱	1521,0521,1403
オンキヨー	0627,1612(RI)
パナソニック/テクニクス	0703,1010,1011,1362,1462,1490,1762
フィリップス	0675,0854,1260,1340,1354
パイオニア	0525,0631
サムスン	0820,0899,1044,1075
サンヨー	0873
シャープ	0675,1256,1419
ソニー	1533,1033,1069,1070,1431
ティアック	0516,0759,0809,0833,1006,1021,1483
東芝	1045,1154,1510
ヤマハ	0545

■DVDレコーダー

ブランド名	コード番号
フナイ	0675,1334
日立	1664
三菱	1403
NEC	1404
パナソニック	1010,1011
パイオニア	0631
シャープ	0675,1419
ソニー	1033,1069,1070,1431
東芝	1510

CD/MD/CDR/HDDボタン 

■CDプレーヤー

ブランド名	コード番号
デノン	0034,0766
JVC	1294
マランツ	0038,0180,0435
オンキヨー	1327(RI),1817
パナソニック/テクニクス	0388,0752,0207,1078
フィリップス	0274
パイオニア	1063,1062,1087,0468,0192
サンヨー	0087,0179
シャープ	0861,0037,0034,0180
ソニー	0100,1364,0185
ティアック	0393,0180,0435
ヤマハ	0888,1292

■MDレコーダー

ブランド名	コード番号
ケンウッド	0826
オンキヨー	1808(RI),0869
パイオニア	1063
シャープ	0861
ソニー	0185
テクニクス	1078
ヤマハ	0888

■CDレコーダー

ブランド名	コード番号
デノン	0766
JVC	1294
オンキヨー	1322(RI),1323
パイオニア	1062,1087,0192
ソニー	0100,1364
ヤマハ	0888,1292

■HDD関連機器

ブランド名	コード番号
オンキヨー	1993(RI),1990

TVボタン



■テレビ

ブランド名	コード番号
アイワ	0701,1180
デル	1454,1080
富士通ゼネラル	0809,1181
フナイ	0180,0171,0264,0342
日立	0156,0030,1145,0145,1256, 0548,0225,0508,1378,1245, 1156,1150,1149,0744,0578, 0577,0481,0163,0109,0105, 0092,0056,0009
ビクター/JVC	0463,0053,0606,0653,0508, 0160,0371,1172,1253,0250, 0376
LG	1265,0060,0030,0037,0714, 0108,0001,0056,0442,0644, 0700,0856,1148,1378
三菱	0154,0250,0236,0180,0150, 1250,0030,0108,0056,0512, 0836,1150,1171,1182
NEC	0154,0156,0051,0053,0030, 0264,0508,0009,0056,0170, 1150,1182,1378,1456
オリオン	0236,0463,0037,0880,1463
パナソニック/ナショナル/松下	0054,0250,0051,0037,0226, 0508,0161,0163,0208,0896, 1168,1175,1177,1210,
フィリップス	0054,0000,0051,0030,1454, 0556,0037,0108,0056,0092, 0374,0512,0690,1455
パイオニア	0166,0109,0163,0760,0866, 1260
サムスン	0154,0156,0060,0812,0702, 0030,0556,0037,0264,0370, 0618,0226,1150,1060,0814, 0766,0644,0208,0092,0090, 0056,0009
サンヨー	0154,0156,0180,0145,0264, 0508,0088,0208,0376,0424, 0799,1150,1179
シャープ	0030,0009,0256,0787,0818, 1165
ソニー	1100,0000,1505,0353,0810, 1167,1300,1651
東芝	0154,0156,1265,0060,0145, 1256,0264,0618,0508,1456, 1356,1173,1169,1156,1150 0845,0644,0509,0241,0161, 0035,0009

VCRボタン



■ビデオデッキ

ブランド名	コード番号
アイワ	0348,0307,0352,0124,0479, 1291
フナイ	0593,1593
日立	0041,0089,1037
ビクター/JVC	0041,1162,1279,0041
LG	0209,0480,1037
三菱	0041,0807,1343
オリオン	0184,0121,0209,0002,0348, 0352,0479,1479
パナソニック/松下	1062,0035,0162,1562,0226, 0225,0616,0836,1035,1162, 1244,1262,1293
フィリップス	0035,0226,0563,0593,0618, 0739,1081,1181,1818
サムスン	0432,0739,1014
サンヨー	0047,0046,0159,1330
シャープ	0209,0807,0848,1285
ソニー	0035,0033,0636,1032,1232, 1295,1296,1447,1448,1636, 1972
東芝	0209,0041,0828,0845,1008, 1145,1290,1972,1996

SAT/CABLEボタン



■衛星放送チューナー

ブランド名	コード番号
DXアンテナ	1530
日立	0819,1250,1284,1525
ヒューマックス	1176,1427,1675
ビクター/JVC	0775,0492,1170,1531,1775
マスプロ	1530
三菱	0749
NEC	1270,1519
パナソニック	0247,0701,0847,1304,1404, 1526
パイオニア	0853,0329,1308,1442
シャープ	1517
ソニー	0639,1639,0847,1524,1558, 1640
東芝	0749,1749,0790,0819,1285, 1516,1530

■ケーブルテレビチューナー

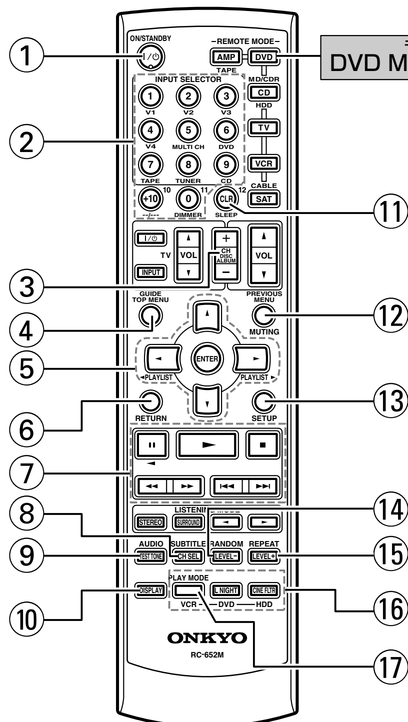
ブランド名	コード番号
DXアンテナ	1500
富士通ゼネラル	1497
日立	0033
NEC	1496
パナソニック	0000,0107,0008,1488
パイオニア	0877,1877,0144,0533,1021, 1500
Scientific Atlanta	0877,1877,0477,0008
ソニー	1006,1460
住友電工	1500
東芝	0000,1509

DVDモード

DVD

DVDプレーヤー、DVDレコーダーを操作する

DVD MODEボタンに、DVDプレーヤーやDVDレコーダーのリモコンコードを登録したときは、以下のボタンが働きます。



1. DVD MODEボタンを押す
2. 各操作ボタンを押す
   操作ボタン（リモコンコード記憶後）

① **ON/STANDBYボタン**
DVDプレーヤーやDVDレコーダーの電源を入れたりスタンバイ状態にします。

② **数字ボタン（1～9、+10、0）**
チャプター番号などを選択します。

③ **DISC＋/－ボタン**
DVDチェンジャーのディスクを選択します。

④ **TOP MENUボタン**
DVDのトップメニュー画面を表示ます。

⑤ **▲/▼/◀/▶、ENTERボタン**
DVDのメニュー操作時、上下左右ボタンを押して項目を選択します。ENTERボタンを押すと、選択した項目を確定します。

⑥ **RETURNボタン**
DVDのメニュー操作時に押すと、1つ前の画面に戻ります。メインメニュー画面で押すと、メニュー操作を終了します。

⑦ **❚❚/▶/■/◀◀/▶▶/❚◀◀/▶▶❚ボタン**
❚❚ボタン
再生を一時停止します。
▶ボタン
ディスクを再生します。
■ボタン
再生を停止します。
◀◀/▶▶ボタン
早戻し/早送りをします。
❚◀◀/▶▶❚ボタン
チャプターを頭出しします。

⑧ **SUBTITLEボタン**
字幕言語を切り換えます。

⑨ **AUDIOボタン**
音声を切り換えます。

⑩ **DISPLAYボタン**
DVDプレーヤーの表示部に表示される情報を切り換えます。

⑪ **CLRボタン**
入力した項目を取り消します。

⑫ **MENUボタン**
DVDのメニュー画面を表示します。

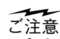
⑬ **SETUPボタン**
DVDの設定項目を表示します。

⑭ **RANDOMボタン**
ランダム再生をします。

⑮ **REPEATボタン**
くり返し再生をします。

⑯ **VCR/DVD/HDDボタン**
ハードディスクやビデオと一体型のDVDレコーダーを操作するときに、VCR（ビデオ）、DVD、HDD（ハードディスク)を切り換えます。

⑰ **PLAY MODEボタン**
プレイモードのあるDVDプレーヤーやDVDレコーダーに使用します。



接続するDVDプレーヤーやDVDレコーダー、再生するDVDによっては、対応していない機能もあります。

本機のリモコンで他の製品を操作する

CD/MD/CDR/HDDモード



CDプレーヤー、MDレコーダー、CDレコーダーを操作する

CD/MD/CDR/HDD MODE（モード）ボタンに、CDプレーヤー、MDレコーダー、CDレコーダーのいずれかのリモコンコードを登録したときは、以下のボタンが働きます。

ON/STANDBY（オン スタンバイ）ボタン
CDプレーヤーやMDレコーダー、CDレコーダーの電源を入れたりスタンバイ状態にします。

数字ボタン（1〜9,+10,0）
曲番などを選択します。

❚❚ ボタン
再生を一時停止します。

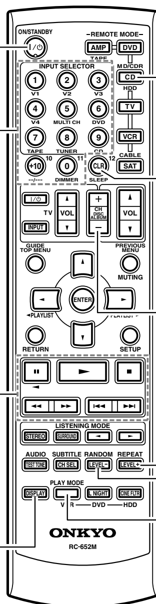
▶ボタン
ディスクを再生します。

■ボタン
再生を停止します。

◀◀/▶▶ボタン
早戻し、早送りをします。

|◀◀/▶▶|ボタン
トラックを頭出しします。

DISPLAY（ディスプレイ）ボタン
CDプレーヤーやMDレコーダー、CDレコーダーの表示部に表示される情報を切り換えます。



CD/MD/CDR/HDD MODE（モード）ボタン

1. CD/MD/CDR/HDD MODE（モード）ボタンを押す
2. 各操作ボタンを押す
   操作ボタン（リモコンコード記憶後）

CLR（クリア）ボタン
入力した項目を取り消します。

DISC（ディスク） +/−ボタン
CDチェンジャーのディスクを選択します。

REPEAT（リピート）ボタン
くり返し再生をします。

RANDOM（ランダム）ボタン
ランダム再生をします。

PLAY MODE（プレイ モード）ボタン
プレイモードのある機器に使用します。

オンキヨー製RIドックなどHDD関連機器を操作する

CD/MD/CDR/HDD MODEボタンに、HDD関連機器のリモコンコードを登録したときは以下のボタンが働きます。

ON/STANDBY（オン スタンバイ）ボタン
RIドックにセットしたiPodの電源を入れたりスタンバイ状態にします。

ALBUM（アルバム） +/−ボタン＊
アルバム間のスキップアップ/スキップダウンをします。

❚❚ ボタン
再生を一時停止します。第3世代のiPodでは、再生/一時停止をします。

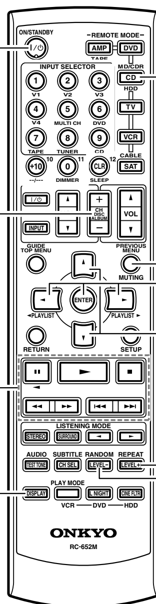
▶ボタン
再生します。第3世代のiPodでは、再生/一時停止をします。

■ボタン
再生を停止します。

◀◀/▶▶ボタン
早戻し、早送りをします。

|◀◀/▶▶|ボタン
スキップダウン/スキップアップします。

DISPLAY（ディスプレイ）ボタン＊
iPodのバックライトを30秒間点灯させます。



CD/MD/CDR/HDD MODE（モード）ボタン

1. CD/MD/CDR/HDD MODE（モード）ボタンを押す
2. 各操作ボタンを押す
   操作ボタン（リモコンコード記憶後）

MENU（メニュー）ボタン
次世代ハードディスク対応機器のメニューを起動します。

PLAY LIST（プレイ リスト）、◀/▶ ボタン＊
プレイリスト間をスキップダウン/スキップアップします。

▲/▼、ENTER（エンター）ボタン＊
次世代ハードディスク対応機器のメニューを操作します。

REPEAT（リピート）ボタン＊
リピートモードを切り換えます。

RANDOM（ランダム）ボタン＊
シャッフルモードを切り換えます。

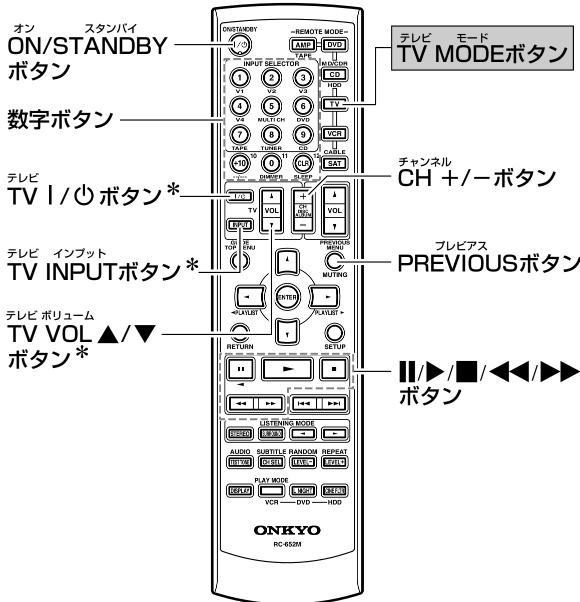
ご注意
- ＊のついているボタンは、第3世代のiPodでは使用できません。
- RIドックの取扱説明書もご覧ください。
- iPodは、米国およびその他の国々で登録されたApple Computer, Inc.の商標または登録商標です。

TVモード

TV

テレビを操作する

TV MODEボタンに、テレビのリモコンコードを登録したときは以下のボタンが働きます。



1. TV MODEボタンを押す
2. 各操作ボタンを押す

操作ボタン（リモコンコード記憶後）

ON/STANDBY：テレビの電源ON/OFF
1～12　：数字ボタン
PREVIOUS　：1つ前のチャンネルに戻る
CH ＋/－　：チャンネル選択
II/▶/■/◀◀/▶▶：ビデオデッキの操作ができます。

＊のついたボタンは、どのリモコンモードでもTV MODEボタンに登録したテレビを操作できます。

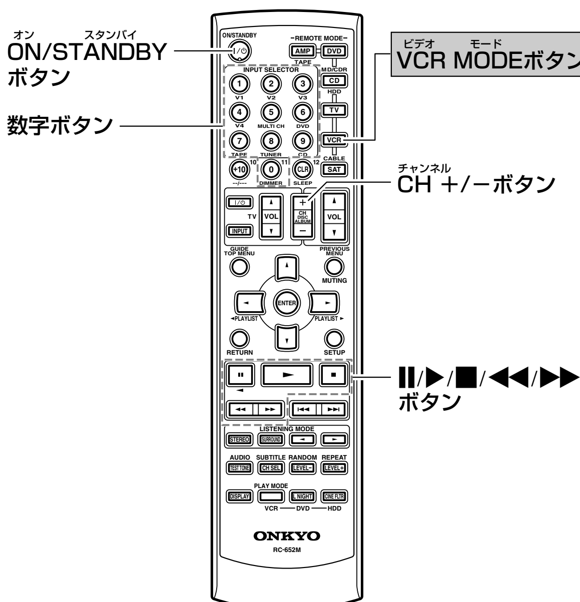
TV VOL ▲/▼　：テレビの音量調整
TV I/⏻　：テレビの電源ON/OFF
TV INPUT　：テレビの入力切換

VCRモード

VCR

ビデオデッキを操作する

VCR MODEボタンに、ビデオデッキのリモコンコードを登録したときは以下のボタンが働きます。



1. VCR MODEボタンを押す
2. 各操作ボタンを押す

操作ボタン（リモコンコード記憶後）

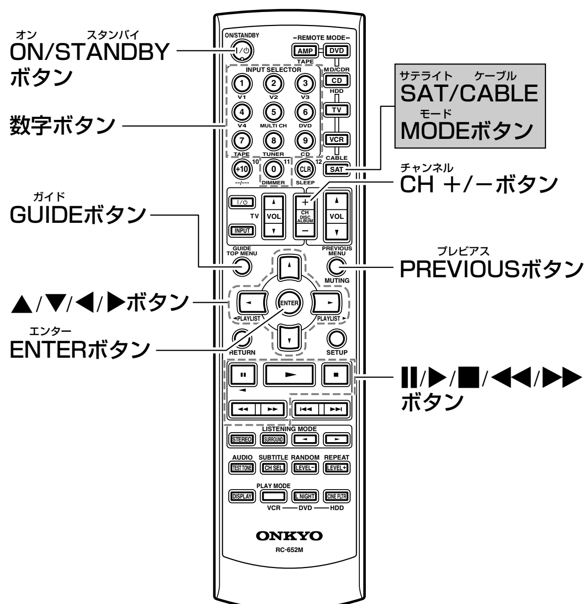
ON/STANDBY：ビデオデッキの電源ON/OFF
CH ＋/－　：プリセット局の選局
0,1～9　：数字ボタン
▶　：再生
■　：停止
◀◀　：巻戻し
▶▶　：早送り
II　：一時停止

SAT/CABLEモード



衛星放送チューナーやケーブルテレビチューナーを操作する

SAT/CABLE MODEボタンに、衛星放送チューナー、ケーブルテレビチューナーのいずれかのリモコンコードを登録したときは、以下のボタンが働きます。



1. SAT/CABLE MODEボタンを押す

2. 各操作ボタンを押す

操作ボタン（リモコンコード記憶後）

ON/STANDBY	：	衛星放送/ケーブルテレビチューナーの電源ON/OFF
CH +/−	：	プリセットチャンネルの選局
0,1～9	：	数字ボタン
▲/▼/◀/▶	：	カーソル移動
ENTER	：	決定
PREVIOUS	：	1つ前のチャンネルに戻る
GUIDE	：	プログラムガイドを表示する
❚❚/▶/■/◀◀/▶▶	：	ビデオデッキの操作ができます。

困ったときは

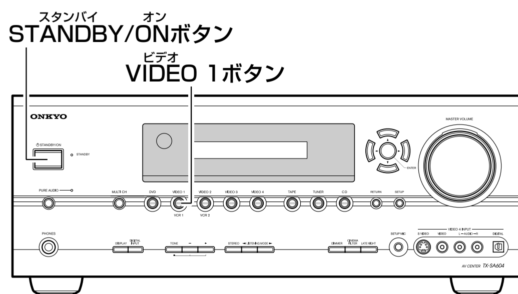
まず下記の内容を点検してみてください。接続した他機に原因がある場合もありますので、他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。
●文章の最後にある数字は参照ページ数です。

！ヒント　修理を依頼される前に

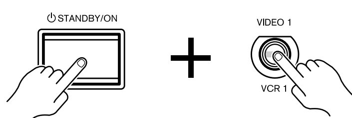
すべての設定をお買い上げ時に戻す

STANDBY/ONボタン

VIDEO 1ボタン



本機が動作しなくなったり、操作ができなくなったときは、本機のマイコンをリセットしてすべての設定をお買い上げ時の状態に戻すことで、トラブルが解消されることがあります。
修理を依頼される前に、下記の手順でマイコンをリセットしてみてください。



電源を入れた状態でVIDEO 1ボタンを押したまま、STANDBY/ONボタンを押してください。

表示部に「Clear」が表示されて、スタンバイ状態に戻ります。

Clear

電源

電源が入らない

- 電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。
- 一度電源プラグをコンセントから抜き、5秒以上待ってから再度コンセントに差し込んでください。

電源が切れ、再度電源を入れてもまた切れる

- 保護回路が働いている可能性があります。スピーカーケーブルがショートしていないかどうかアンプ背面端子、ケーブル、スピーカー背面端子をご確認ください。（18）
  スピーカーケーブルをアンプ背面から外してもすぐに電源が切れる場合、電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店またはオンキヨー修理窓口にご連絡ください。

音声

音声が出力されない/小さい

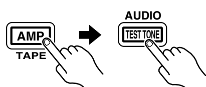
音声信号の設定はされていますか？DIGITAL INPUTボタンをくり返し押して、デジタル入力の設定を正しく行ってください。（41）
HDMI端子接続しているときは、HDMIの設定を確認してください。（42）

- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。
- 接続した機器の入力端子/出力端子に間違いがないか確認してください。
- スピーカーコードの+/−は正しく接続されているか、スピーカーコードの芯線部分が本機のスピーカー端子の金属部で固定されているか確認してください。（18）
- 入力が正しく選択できているか確認してください。（46）
- ボリューム位置を確認してください。本機は基本的にMin･1･2･･･98･99まで調整できます。一般のご家庭で50前後までボリュームを上げていても、正常な範囲です。（46）
- 表示部に“MUTING”と表示されている場合はリモコンのMUTINGボタンを押して解除してください。（47）
- ヘッドホンが接続されているとスピーカーからの音声が出力されません。（47）
- 接続した機器でのデジタル音声出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定がOFFになっていることがあります。
- フォノイコライザーを内蔵していないレコードプレーヤーは、フォノイコライザーを経由して接続してください。（29）
- MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーをお使いの場合は、昇圧トランスまたはヘッドアンプとフォノイコライザーが必要です。（29）
- デジタル入力モードの設定の確認を行ってください。「DTS」や「PCM」に固定されていると、それ以外の音声を出力しません。（67）
- リスニングモードによっては音声の出力されないスピーカーがあります。（50、51）
- スピーカーの「有/無とクロスオーバー周波数」、「距離」、「音量」設定を行ってください。（36、60～62）
- HDMI入力した音声が出力されない場合は、プレーヤー側の出力設定を変更してください。

困ったときは

特定のスピーカーから音が出ない

テストトーンは出ますか？



リモコンのAMPボタンを押してからTEST TONEボタンを押して、接続したすべてのスピーカーから個別にテストトーンが出ているか確認してください。
もう一度TEST TONEボタンを押すと、テストトーンは止まります。

表示部にスピーカーの表示は出るが、テストトーンが出ない

- 音の出ないスピーカーの接続が正しくない可能性があります。
  スピーカーコードの芯線部分が本機のスピーカー端子の金属部で固定されているか確認してください。
  ケーブルが折れ曲がったり損傷していないか確認してください。

テストトーンも出ず、表示部にも表示されない

- スピーカーの設定が正しくない可能性があります。
  スピーカーの「有/無とクロスオーバー周波数」の設定を行ってください。（36､60）

テストトーンは出るが、音が出ない

- 再生するソースによっては音が出にくいスピーカーがあります。
- サブウーファー音声要素（LFE）の入っていないソフトを再生している場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。

表示と違うスピーカーから音が出る

- スピーカーの接続が正しくありません。それぞれのスピーカーが正しい端子に接続されているか確認してください。（18）

リスニングモードによっては音が出ないスピーカーがあります

センタースピーカーからしか音が出ない

- テレビやAM放送などモノラル音源を再生するときに、リスニングモードをドルビープロロジックIIまたはドルビープロロジックIIxにすると、センタースピーカーに音が集中します。

センタースピーカーやサラウンドスピーカーから音が出ない

- リスニングモードが「Stereo」､「Mono」のときは、センタースピーカーやサラウンドスピーカーから音が出ません。

サラウンドバックスピーカーから音が出ない

- 入力ソースやリスニングモードによっては、サラウンドバックスピーカーの音が出にくい場合があります。

サブウーファーから音が出ない

- 入力ソースにサブウーファー音声要素(LFE)が入っていない場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。

希望する信号フォーマットで聞くことができない（Dolby Digital、DTSやAACのフォーマットにならない）

Dolby Digital、DTSやAACの音声を聞くためには、デジタル接続が必要です。

- デジタル入力端子の設定の確認を行ってください。初期設定と違う接続をした場合には、設定し直す必要があります。（41）
- 接続した機器でのデジタル出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定でデジタル出力がOFFになっていることがあります。

希望するリスニングモードが選べない

- スピーカーの接続状況によっては選択できないリスニングモードがあります。「入力信号の種類と対応するリスニングモード」でご確認ください。（49）

音量調整が99以下で終わる

- 付属の測定用マイクで自動スピーカー設定をした場合や、設定画面を使ってスピーカーの音量調整をした場合は、音量最大値が変わることがあります。

ノイズが出る

- オーディオ用ピンコードと電源コードなどを束ねると音質が劣化しますので避けてください。
- 接続コードが影響を受けている可能性がありますので、接続コードの位置を動かしてみてください。

レイトナイト機能が働かない

- 再生ソースがドルビーデジタルか確認してください。

マルチチャンネル音声が出力されない

- マルチチャンネル対応のDVDプレーヤーを使用しているか確認してください。
- DVDプレーヤーの接続と設定を確認してください。
- 入力切換のMULTI CHボタンを押して音声信号の種類を「MULTICH」にしてください。（53）

DTS信号について

- DTS信号を再生しているときは、本機のDTSインジケーターが点灯します。プレーヤー側での一時停止やスキップ操作時に発生するノイズを防ぐため、再生が終了してもDTSインジケーターが点灯したままになります。このため、DTS信号から急にPCM信号に切り換わるタイプのソフトは、PCMがすぐに再生されない場合があります。このときはプレーヤー側で再生を約3秒以上中断し、再び再生を行うと正常に再生されます。
- 一部のCDまたはLDプレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しくDTS再生ができない場合があります。出力されているDTS信号に何らかの処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など）が行われていると、本機が正しいDTS信号とみなすことができず、ノイズを発生することがあります。
- DTS対応ディスクを再生しているときにプレーヤー側でポーズやスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。

HDMI入力音声が頭切れする

- HDMI信号は、他のデジタル音声信号に比べてフォーマット認識に時間がかかるため、音の出だしが遅れることがあります。

映像

映像が出ない/乱れる

- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。
- 接続した機器の映像出力端子と本機の接続に間違いがないか確認してください。
- 映像機器と本機をHDMI端子接続している場合は、本機とテレビもHDMI端子接続をしてください。
- TVなど、モニター側での入力画面の切り換えを確認してください。
- リスニングモードが「Pure Audio」になっているとHDMI IN端子から入力された映像以外の映像は出ません。
- HDMI入力した映像が出ないときは、本機の表示部に「Resolution Error」と表示されていませんか？この場合、テレビがプレーヤーから入力した映像の解像度に対応していません。プレーヤー側で設定を変更してください。
- 43ページの設定により、VIDEO端子やS VIDEO端子に接続した機器の映像をD端子やコンポーネント端子で接続したTVなどのモニターに変換することができますが、ビデオデッキなど映像機器の信号に乱れが多い場合は、テレビで映像が乱れたり映像を表示しなくなる場合があります。この場合はD端子やコンポーネント端子で接続したTVなどのモニターに変換せず、VIDEOまたはS VIDEO端子で接続してください。

OSD画面表示が出ない

- ご使用のテレビなどのモニター側の設定を確認してください。

操作内容が画面に表示されない

- Component Videoの設定が「－－－」のときは、D4 VIDEO OUT端子またはCOMPONENT OUT端子に接続された機器に出力されます。HDMI Videoの設定とComponent Videoの設定がどちらも「－－－」のときは、HDMI OUT端子に接続された機器に出力されます。（42、43）

リモコン

リモコン操作ができない

- 電池の極性（＋/－）が正しく入っているか確認してください。（15）
- 電池を2本とも新しいものと交換してみてください。リモコン電池が消耗していると、一部のボタンが働かない場合があります。（15）
- リモコンと本体の間が離れすぎていないか、リモコンと本体のリモコン受光部の間に障害物がないかを確認してください。
- 本体のリモコン受光部に強い光（インバーター蛍光灯や直射日光）が当たっているとリモコン操作ができない場合があります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスが使用されていると正常に機能しない場合があります。
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。（15）

RI専用リモコンコードを使ったオンキヨー製他機器の操作ができない

- オンキヨー製他機器とRIケーブルが正しく接続されているか確認してください。RIケーブルを接続している場合、オーディオ用ピンコードも接続してください。（RIケーブルだけでは正しく連動しません）
- もう一度、RI専用リモコンコードを入力し直してください。（69、70）
- RI専用リモコンコードを入力したときは、リモコンを本機のリモコン受光部に向けてください。
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。（12）
- 入力表示が正しく設定されているか確認してください。（例：TAPE端子にMDレコーダーやCDレコーダー、RIドックなどのHDD関連機器を接続した場合や、VIDEO 3端子にRIドックなどのHDD関連機器を接続した場合）（45）

オンキヨー製機器（RIなし）や他メーカー機器の操作ができない

- 他機器との接続が正しいか確認してください。
- もう一度リモコンコードを入力し直してください。複数のコードがある場合は、他のコードも試してください。
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。
- リモコンをそれぞれの機器の受光部に向けて操作してください。
- 製品によっては動作しない場合もあります。

録音

録音ができない

- 録音機器側で、デジタルやアナログなどの録音入力切り換えが正しくできているか確認してください。

その他

自動スピーカー設定中に「Ambient noise is too high」というメッセージが出る

- お使いのスピーカーに異常があることも考えられます。スピーカーの出力などを点検してみてください。

多重音声の言語を切り換えたい

- 「Multiplex」で主音声/副音声を選択します。（57）

ヘッドホンを接続すると音が変わる/表示が消える

- 「Direct」、「Pure Audio」、「Mono」以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続すると自動的にStereo出力になります。（47）

スピーカーの距離設定が希望通りにならない

- 設定する数値がホームシアターに適した数値に矯正されることがあります。

表示部に表示が出ない

- リスニングモードが「Pure Audio」になっていると表示が消えます。

音量に関する設定を希望通りの数字にできない

- 付属の測定用マイクで自動スピーカー設定をした場合や、設定画面を使ってスピーカーの音量調整をした場合は、設定できる音量最大値が変わることがあります。

メモリー保持について
本機には、メモリー保持用の予備電源装置が内蔵されています。これは、お客様が行ったスピーカーの設定や音響効果に関する設定などを停電時などに保護するためのものです。本機の電源プラグを抜いた状態でメモリーが保持できるのは約2週間です。

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、約5秒後にあらためて電源プラグを差し込んでください。

製品の故障により正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害（CDレンタル料等）については保証対象になりません。
大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音･録画できることを確認の上、録音･録画を行ってください。

本機の電源コードをコンセントから抜くときは、本機をスタンバイ状態にしてから抜いてください。

D4/コンポーネンドビデオ/Sビデオ/ビデオ入力に関する初期設定を変更する

画質が悪い

ゲーム機などを本機の映像入力端子に接続してテレビやプロジェククーに出力しているとき、映像が鮮明でない場合は以下の設定を変更することで画質が改善されることがあります。

Video（ビデオ） Attenuation（アッテネーション）

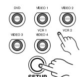
規定を超える強いレベルのD4/コンポーネンドビデオ、Sビデオ（セパレート･ビデオ）信号、またはビデオ（コンポジット･ビデオ）信号が入力してきたとき、ゲイン（利得）を減衰（Attenuation）させて適切な感度を保つことができます。

- Video ATT : 0（お買い上げ時の設定）
- Video ATT : 2

ゲインを2dB減衰します。

設定のしかた（本体ボタンで操作します）

1



設定する入力切換ボタンを押しながら、SETUPボタンを押す

設定できる入力切換ボタンは「DVD」、「VIDEO 1」、「VIDEO 2」、「VIDEO 3」、「VIDEO 4」です。

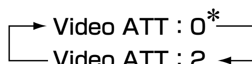
2



◀/▶ボタンで設定したい項目を選び、SETUPボタンを押す

設定が終了します。

*お買い上げ時の設定です。



用語集

音声フォーマット

サラウンド（Surround）
ドルビーデジタルやDSPの音声モードなどを用いた臨場感のある音の総称。

ドルビーデジタル（Dolby Digital）
ドルビー社によって開発されたデジタルマルチチャンネル音声規格。モノラルから5.1チャンネルまでに対応しています。プログラム間でセリフの平均レベルを一定に保つダイアログノーマライゼーション、視聴環境の制約に対応してダイナミックレンジを調整するダイナミックレンジ圧縮、スピーカーの数に合わせて出力チャンネル数を最適化するダウンミックスなど数々の機能が採り入れられています。DVD-Videoの標準音声、米国DTVの標準音声として採用されています。

ドルビーデジタルEX（Dolby Digital EX）
映画館の壁面に配置されるサラウンドチャンネルスピーカー、左右側面と背面の3つのセクション（左サラウンド、右サラウンド、バックサラウンド）に分割します。これによりサラウンドの空間表現力、定位感が高められ、360度の回転や頭上を通過するような移動音効果をよりリアルに体感できます。バックサラウンドチャンネルは左サラウンド、右サラウンドに振り分けることもできるため、通常の5.1チャンネルとして、既存のドルビーデジタル環境で再生することが可能です。

ドルビープロロジックII（Dolby Pro Logic II）
ドルビー社によって開発されたマトリックスタイプのサラウンドデコード技術。ステレオ音源を5.1チャンネルであるかのような立体音場で楽しむことができます。映画の再生に適した「Movie」モード、音楽再生に適した「Music」モード、ゲーム機などに適した「Game」モードがあります。

ドルビープロロジックIIx（Dolby Pro Logic IIx）
ドルビープロロジックIIをさらに改良したマトリックスデコード技術。ステレオ音源を7.1チャンネル再生するため、かってないほど自然でなめらかなサラウンド体験が得られます。映画の再生に適した「Movie」モード、音楽再生に適した「Music」モード、ゲーム機などに適した「Game」モードがあります。

DTSデジタルサラウンド（DTS Digital Surround）
米国のDTS社が開発したデジタルサラウンドフォーマット。コヒレントアコースティックス符号化と呼ばれる算法を使用し、圧縮率は通常4:1程度と比較的低くなっています。映画館ではフィルムにプリントされたタイムコードに同期してCD-ROMに記録された音声が再生されます。

DTS-ES エクステンディッドサラウンド (DTS-ES Extended Surround)
従来のDTS5.1chシステムにセンターバックサラウンド（CS）チャンネルを加えたもので、かつてない音像・定位感を再現します。DTS-ESには「DTS-ESディスクリート6.1ch」と「DTS-ESマトリックス6.1ch」の2種類があり、どちらも下位互換性を有しているため従来のDTS5.1ch対応機器での再生も可能です。

DTS-ES　ディスクリート (DTS-ES Discrete)
5.1チャンネル音声データに拡張データとしてセンターサラウンドチャンネル音声データを付加し、この方式に対応したDTSデジタルサラウンドデコーダーによって完全に独立した6.1チャンネル音声を再生するDTSシステム。

DTS-ES　マトリックス (DTS-ES Matrix)
映画館におけるDTS-ESと同様に、あらかじめ左右サラウンドチャンネルにマトリックスエンコードされたセンターバックサラウンドチャンネルを、マトリックスデコーダーを使って復元して6.1チャンネルとする方式のDTSシステム。マトリックスデコーダーとしてNeo:6に対応した機器を使用します。

DTS96/24
DTS96/24フォーマットソースに記録された拡張用データを使用して、5.1チャンネル再生するDTSシステム。サンプリング周波数96kHz、量子化ビット数24ビットの高音質で、きめ細やかな音声を再現します。

Neo:6
DTS社によって開発された、デジタル・アナログを含む全ての2チャンネルソースを6チャンネルサラウンドにするマトリックスデコード技術。映画に適した「Cinema」モードと音楽に適した「Music」モードが用意されています。また、DTS-ES マトリックスのセンターサラウンドチャンネル信号の抽出にも使用されます。

MPEG-2 AAC
AAC(Advanced Audio Coding)は、AT&T社、ドルビー社、フラウンホーファー・インスティテュート・フォー・インテグレーティド・サーキット（Fraunhofer IIS）、そしてソニー株式会社の4社の高品質マルチチャンネル音声符号化のための最先端技術を組み合わせたもので、ISOとIECの共同管轄の下に、MPEG-2規格の一部として規格化された音声圧縮符号化方式です。
従来のＭＰＥＧ音声との後方互換性がないので、従来のMPEG音声デコーダーでは再生できません。わが国のデジタルテレビ音声方式として採用されています。

用語集

音声

アナログ
一般的な再生機器に装備されているL/R（白/赤）音声出力端子からの音声を、アナログ音声と呼びます。

デジタル
デジタル端子は一般的に、CDプレーヤー、DVDプレーヤーなどに装備されています。
ドルビーデジタルやDTSなどのデジタル音声を聴くときやデジタル録音するときは、デジタル端子と接続しておく必要があります。

光（OPTICAL）デジタル
DVDやCDなどのデジタル信号を入出力するための信号で光ケーブルを使用して接続します。
アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器にOPTICAL端子がある場合に使用できます。
音質は同軸デジタルと同等です。

同軸（COAXIAL）デジタル
DVDやCDなどのデジタル信号を入出力するための信号でＲＣＡタイプのピンコードを用いて接続します。
アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器にCOAXIAL端子がある場合に使用できます。
音質は光デジタルと同等です。

サンプリング周波数
アナログ信号をデジタル信号に変換する時の精度。44.1ｋHzは1秒間に44100回、96ｋHzは1秒間に96000回アナログ信号を読みとってデジタルに変換します。

ダイナミックレンジ
信号を正しく変換する最大のレベルと、雑音等機器の性質で制限させる最小レベルの差。

LFE（Low Frequency Effect）
ドルビーデジタルやDTSの低周波数効果音のこと。
一般にディスクなどの信号に入っているとサブウーファーが効果的に働きます。

5.1chサラウンド
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー1つ、フロントスピーカー2つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー2つで5ch（チャンネル）、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が10分の1のため、この6本のスピーカーを使って再生することを5.1chサラウンドと言います。

7.1chサラウンド
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー1つ、フロントスピーカー2つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー2つ、真後ろに設置するサラウンドバックスピーカー2つで7ch（7チャンネル）、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が10分の1のため、この8本のスピーカーを使って再生することを7.1chサラウンドと言います。

映像

コンポジット
映像の入出力を行う標準的な信号。テレビやビデオデッキには赤・白・黄の丸い端子が装備されていますが、その黄色端子が映像を意味します。コンポジット信号を入出力するには黄色のピンコードを使用します。

Ｓビデオ
輝度信号（Y信号）と色信号（C信号）、同期信号などを複合した形で扱う信号。
コンポジット信号より良い映像を楽しめます。接続にはＳビデオコードを使用します。テレビにＳ端子がある場合使えます。

コンポーネント
輝度信号（Y信号）と色信号（C信号）を2つに分けた色差信号をそれぞれ独立して扱う信号。
Ｓ信号よりも良い映像を楽しめます。接続には専用のコンポーネントケーブルを使用します。テレビにコンポーネント端子がある場合使えます。画質はSビデオより良く、D端子と同レベルです。

D端子
ケーブル1本で簡単にコンポーネント接続でき、より高品位な映像が楽しめます。テレビにD端子がある場合使えます。D1～D4までの解像度のランクがあり、D4がもっとも高画質です。画質はSビデオより良く、コンポーネントと同レベルです。映像機器のアスペクト比など、制御信号を送ることができます。

主な仕様

アンプ（音声）部

定格出力：
全チャンネル
120W（6Ω、全高調波歪率0.08%以下、1ch駆動時、JEITA）
実用最大出力：
全チャンネル
185W（6Ω、1kHz､1ch駆動時、JEITA）
全高調波歪率：0.08%（1kHz､定格出力時）
ダンピングファクター：フロント、8Ω負荷時で60
入力感度/インピーダンス：
LINE：200mV/47kΩ
出力電圧/インピーダンス：
REC OUT：200mV/470Ω
周波数特性：
10Hz～100kHz：+1dB/－3dB（ダイレクトモード）
トーンコントロール最大変化量：
Bass：±10dB（50Hz時）
Treble：±10dB（20kHz時）
SN比：
106dB（LINE、IHF-A）
スピーカー適応インピーダンス：4Ωまたは6Ω～16Ω

映像部

入力感度・出力電圧/インピーダンス：
1.0Vp-p/75Ω（コンポーネント、Sビデオ Y信号）
0.7Vp-p/75Ω（コンポーネント Pb/Cb、Pr/Cr）
0.28Vp-p/75Ω（Sビデオ C信号）
1.0Vp-p/75Ω（コンポジット）
コンポーネント映像周波数特性：5Hz～50MHz

総合

電源・電圧：AC100V・50/60Hz
消費電力：450W
待機時電力：0.1W
最大外形寸法：435(幅)×174(高さ)×377(奥行)mm
質量：12.0kg

●映像入力：
HDMI：2（HDMI IN1、IN2）
D4：3（D4 VIDEO IN1、N2、IN3）
コンポーネント：3（COMPONENT VIDEO IN1、N2、IN3）
Sビデオ：5（DVD、VIDEO 1、VIDEO 2、VIDEO 3、VIDEO 4）
コンポジット：5（DVD、VIDEO 1、VIDEO 2、VIDEO 3、VIDEO 4）

●映像出力：
HDMI：1（HDMI OUT）
D4：1（D4 VIDEO OUT）
コンポーネント：1（COMPNENT VIDEO OUT）
Sビデオ：3（VIDEO 1、VIDEO 2、MONITOR OUT）
コンポジット：3（VIDEO1､VIDEO 2､MONITOR OUT）

●音声入力：
HDMI：2（HDMI IN1、IN2）
デジタル：6（OPTICAL4、COAXIAL2）
アナログ：8（DVD(マルチチャンネル)、VIDEO 1、VIDEO 2、VIDEO 3、VIDEO 4、CD 、TAPE、TUNER）
マルチchアナログ：7.1ch（DVD）

●音声出力：
HDMI：1（HDMI OUT）
デジタル：1（OPTICAL）
アナログ：3（TAPE、VIDEO 1、VIDEO 2）
マルチチャンネルプリ出力：7
サブウーファープリ出力：1
スピーカー出力：左右フロント/センター/左右サラウンド/左右サラウンドバック
ヘッドホン出力：1

※仕様および外観は予告なく変更することがあります。

高調波抑制規格 JIS C61000-3-2 適合品

修理について

■保証書
この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■調子が悪いときは
意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶ お名前
- ▶ お電話番号
- ▶ ご住所
- ▶ 製品名 TX-SA604
- ▶ できるだけ詳しい故障状況

■オンキヨー修理窓口について
詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■保証期間中の修理は
万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理は
お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について
本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　年　月　日
ご購入店名：
Tel.　(　)
メモ：

ONKYO®
オンキヨー株式会社
本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

ONKYO HOMEPAGE
http://www.jp.onkyo.com/

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：コールセンター
☎050-3161-9555　受付時間　9：30～17：30
（土·日·祝日·弊社の定める休業日を除きます）

G0606-1

SN 29344230

